729

729-198

1200501589006

368

放送懺悔

永田秀次郎著

實業之日本社發行

昭和十二年 帝國圖書館藏

729
198

序にあらざる序

近頃自分が放送したり又は新聞雑誌に書いたものゝ内で、成るべく政治論にわたらぬものを集めて見た。

格別序文と言ふものを書く程の必要が無いと思つたので、放送に關する懺悔話を序文の代りに卷頭に掲げる事にした。

著　者

目次

放送と挨拶篇

放送懺悔……四
日々是れ元日……一二
後醍醐天皇の御製……二三
巴西經濟使節を迎ふ……三三
同歡迎晩餐會卓上演說……三五
後藤伯七回忌……三九
歳晩の辭……五〇
滿洲國皇帝陛下を送り奉る……六〇

健康禮讃の夕……六三
教育塔の精神……六八
師道に就て……七三
世界教育會議……九〇
樺太施政三十年……一〇〇
滿洲移民に就て……一〇四
第十九回總選擧……一一六
選擧肅正と少年……一二五
選擧肅正音頭……一二九

講壇篇

門松と人生……一三二
人生觀の一……一三七
人生五十年……一四二
享樂主義を排す……一四六
求むるな、然らば與へられむ……一五一
知識と經驗……一五六
天才か努力か……一六一
藝術的良心……一六六
田園生活か都會生活か……一七一
新穀感謝祭……一八〇
選擧肅正運動所感……一八五

紀行篇

臺灣の印象……一九二
阿蘇に登る……二三四
蒲郡の春宵……二五二

目次終

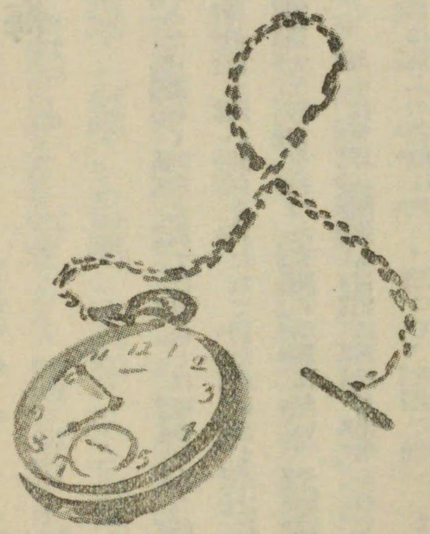
裝幀　杉浦非水
カット　明石精一

永田秀次郎著

放送懺悔

實業之日本社版

放送と挨拶篇



放送懺悔

私は今日迄幾回となくラヂオ放送を試みた。恐らく回數に於ては私などは數多い人の部類に屬するであらう。放送事業は、當初に於て、故後藤伯爵が深い關係を持たれて居た爲に私も亦之に就て特殊の興味を持つ樣になつた。何と言つてもこれ程絶大な勢力を持つた文明の利器は無い。全國津々浦々に普及せる事は勿論、遠く朝鮮、臺灣、滿洲迄も、果ては世界各國迄も自由に放送が出來るのであるから、今後に於ては、益々其利用價値を增大する事は疑ふの餘地は無い。隨つて、放送に關しては、層一層の研究を重ねて、之を利用する事を考へなくてはならぬ。

私は、此の如く、放送に就て特殊の興味を持つて居る爲に、放送に就ては又並々ならぬ苦心をするのである。隨つて、自信の持てない放送はやりたくない。拓務省に居る間も數回職務上の關係から放送した事がある。普通の大臣の祝辭などは、私は下僚の作つた文章に殆んど筆を加へた事は無い。少々拙い文章でも、私は眼をつぶつて讀む。併し乍ら、一旦之が放送と、なると私は決して下僚の作つたものでは滿足しない。必ず、自分で筆を執つて原稿を作る。自分で自信の持てない放送をする事は、全く私の堪ゆる事の出來ない苦痛である。

放送に就て私の苦心する事は、何と言つても、第一は、其內容である、勿論、之は放送に限つた事では無い。普通の演說、文章總て皆內容が第一である。隨つて、其材料を精撰する事に注意すべきは勿論である。

第二は分量である。材料が豐富であればある程惜氣もなく之をカットせなければならぬ。私の試みた放送では、三分間放送、五分間放送、七分間、十分間、十五分間、二十分間、二十五分間、三十分間、四十五分間などある。時間が多ければ多い程融通が利くから便利である、時間が少ければ少い程文句や表現に苦心が必要である。大概二十五分間の講演ならば、二十三分間位に切り上げるのが最上の方法である。三分間放送ならば二分四十秒位でやめることである。私などは、二十五分間の放送で、時間が五

分間位餘ると思つた時は、最後の五分の一位の時から其説明に少し丸味を付けて、普通の講演の調子にすれば、聽者にゆつくりした感を與へ乍ら二三分間は直ぐに引延ばす事が出來る。三十分以上の放送ならば、簡單な豫備の材料を用意して置く。要するに、分量は時間に比して少く用意して置く方がよろしい。

第三は原稿である。原稿は二十分以上の放送ならば原稿無しでやれない事はない。併し、五分間や三分間の放送では、原稿なしでやれば必ず失敗する。私は一分間に二百字を放送するのが標準である。私は語調が少し普通人よりも遲いのであるから、二百字位が最も適當である。普通の人は二百十字、又は二百二十字位迄はやれるであらう。

第四は句調である。句調は少しテンポの遲い方が善い樣である。急調では、聽く人の氣が落付かない樣になつて、サツパリ意味が通ぜない。放送の最も失敗し易い澤山の例は、時間が少し足りないと思つて急に調子を早めて自分の書いてある原稿を全部讀み終らうとする事である。放送者の心臟が昂ぶつて居る樣では、之を聽く人は理解する暇が無い。何もわからないで氣の毒な樣な、滑稽な樣な感を爲すのである。放送を聞く多くの場合は、家庭に於て打寛いで家族一同と平和な氣持で聽く事が多いのであるから、放送者も亦其氣分に合はせる必要があるかと思ふ。

第五は用語である。放送は耳から入るのであつて眼から入るので無い。それ故文字に書いて適當な文句も、放送の用語としては一寸理解し難い事がある。例せば、露國とか露領とか言ふ言葉は、文章に書いては間違ひは起らぬが、放送の場合は露國と言ふよりもロシアと言ふ方が混雜しない。露領と云ふよりはロシア領と言ふ方が間違ひを起さない。漢語を使ふ場合は別して、其注意が必要である。苟も同じ發音で他の意味にもなる時は、成るべく避けるが宜しい。低級と庭球、老朽と籠球、之は少し極端な例だが、成るべく混雜しない、明白な用語が必要である。

第六は用語の解説である。成るべく明白な用語を用ゐる心得があつても、時として止むを得ぬ場合がある。例せば、私が一月の初放送の時に、『元日や此心にて世に居たし』と云ふ俳句を擧げた。然るに、此文句の中に『居たし』と言ふ文句は、聽いて居る人に合點が行かぬらしい。左樣な場合には『居たし』居りたいと言ふ言葉を繰り返して言へば間違ひが無い。普通の場合に和歌などは二回繰り返して

言ふ必要がある。又必要な事は重ねて二回言ふ事が宜しい様である。例せば、私が少年に選擧肅正の話を放送する時に、『投票の買收は盜賊以上の惡事であります。』と言ふ文句を繰り返して二回言つた。互に顔を見合つて居る時は、一回で善いと思はれる事でも、放送では二回繰り返す方が耳に殘り易いと思はれる事が多いのである。

第七は原稿を讀まぬ事である。餘程自信のある人でも、放送には原稿を作る事がたしかである。そして、其作つた原稿には、私などは十行二十字詰五ページ毎に五分と、赤鉛筆で印を付けて置く。そして、其原稿を再三再四讀み返して見て其句調を直す。放送の最も注意すべきことは、聽く人に話すのであつて、聽く人に讀んで聽かすのでは無い事である。然るに、放送室では自分以外に誰も居ない。そして、自分は原稿と首引で放送するのであるから、動もすると自分は多數の人と話して居る氣分にはなれないで、唯一人原稿を讀んで居る氣分になつて仕舞ふ。之が最も陷り易い弊害である。原稿を讀んで居ると云ふ氣分が、聽く人に反映しては全く失敗である。自分の眼の前に多數の人がゐると想像して、此人達は自分の言葉を聽いて、或は笑ひ、或は眼を見張る、其光景が自分の眼底にありありと見える様にならなくては駄目である。

第八は話術の工夫である。原稿では口語體に書いてあつても、其語尾『であります』とか『ありません』とか『致します』とか『思ひます』とか言ふ言葉は、話す時の氣分で時々變更する事が多い。此語尾を必ず書いてある通りに言はふとすると、何となく話して居るのでなくて、讀んで居ると言ふ氣分を聽衆に持たれて仕舞ふ。私などは時々わざと言ひ損ひをして見る。そして直ちに訂正します。之を如何にも自然に言ひ損なつた様にせぬと一層氣障になります。併し、自然らしい言ひ損ひは、聽衆に一種の極めて自然な、顔と顔と向き合つて話して居る様な直感を與へまして非常に有効な秘傳だと思つて居ます。併し、こんな秘傳を白狀して仕舞つては、私は今後の放送では、言ひ損ひが出來なくなつて仕舞ひます。

或人が私の放送に就て、『人を喰つた話術がある。』と言ひましたが、自分には何の事かわからない。唯先年後藤伯の七回忌の時に、伯の逸話を放送して、『之は極秘の事ですから、他の人へ言はないで置いて下さい。』と言つた事がある。放送して他の人に言ふなと注文するのは、如何にも人を喰つたと言は

れても仕方がないが、之もわざと言ひ損ひして訂正するのと同様に、人と對談して居る氣分で放送するのであるから、自然他の人には秘密にして下さいと言ふ事も極めて自然らしく聞えるのである。こんな事を工夫するのも、畢竟放送を、『讀むので無く話すのである。』と言ふ感を與へる爲の苦心に外ならないのである。

第九は自分の悪い癖の矯正である。自分は講演などに接續詞が多い。『であるから』と言つた様な接續詞が自分の講演の速記錄を讀んで見ると無暗に澤山ある。之を『である』と打切つて仕舞つて、成るべく文章を短かくするのが、聽者に解り易い様である。又或時の私の放送に就て注意して呉れた人があつた。貴君の一放送の中に、マア、マアと云ふ言葉が七十餘りあつた、と言ふ。斯様な事は自分にはわからないで居る。自分の原稿では決してマアマアを七十も書いてある氣遣ひはない。又私は或る人から、皇室の事や勅語の事を申上ぐるのに敬語が足りないと言つて注意されたことがある。是は私などが、動もすると、平易に一般人にわかり易く放送したいと思ふために陷り易い缺點であつて、大いに注意すべきであると思ふ。後醍醐天皇の御製の放送を申上ぐる時には特に注意をして居たので、格別批難もなかつた。

第十は音聲である。普通の談話の時の音聲でも十分である様だが、矢張り多數の人に話す積りで少し力強く言つた方が宜しい様である。但し、所謂演說口調でまくし立てると言つた様なのは、何となく聽く人の氣分と一致しない様で面白くないと思ふ。

演壇に立つても演壇度胸が必要である如くに、放送には放送度胸が第一である。所謂舞臺度胸が無くてはならぬ。舞臺度胸があれば、自分が放送を支配する事が出來る。若し舞臺度胸が無い時は、自分が放送に支配されて、仕舞つて何を言つて居るかわからなくなる。原稿に支配されて、唯書いた物を讀んで居るだけを意識して、何を言つて居るかを意識せない様になる。つまり、のぼせ上つて仕舞う事となるのである。ゆつたりした餘裕のある氣分で、自己の意思で放送を支配すると言ふ事を忘れない事が、第一である。

之を要するに、放送は中々むづかしい。幾回やつても馴れて居ても決して油斷が出來ない。矢張り、處女の如き用心と、ライオンの如き度胸とが必要であると思ふ。

日々是れ元日

——昭和十二年一月一日后六時廿五分放送——

皆様、明けまして御芽出度う御座います。年末に放送局から新年の放送を頼まれましたが、役人を致して居りますと何分話しが仕にくいので、實はお斷りした方が善いと思ひましたが、マア屠蘇の勢を借りて少しばかりお話申上げます。私は新年を迎へまして、世の中の人を甲組、乙組、丙組、と區別する事を考へました。第一の甲組の人は、唯新年だから芽出度いと思つてゐる人です。即ち、新年の芽出度い事に少しも疑ひを抱かない人です。第二の乙組の人は新年は何故に芽出度いかと一度疑つて見て、そして自分自身に勝手な理屈を付けて、初めて新年を芽出度がる人です。第三の丙組の人は新年が何だ!! 何も芽出度く無いじやないかと言ふ人です。此分類に依りますと、私などは最初は甲組の人間でありました。新年になりますと門松を立てゝ雑煮を祝つて御屠蘇を飲んで、互に御芽出度う御芽出度うと

言ひ合ふのでありますから、自分も全くお芽出度い氣分になります。平生見馴れて居る自分の妻君の顔迄が、新年には何となく美しく見えます。たしかに私などは若い時には新年は無條件に芽出度かつたのであります。所が年がいつてからは、そんなに單純に芽出度からぬ樣になりました。そして、或時代には却つて丙組の人間になりました。新年は何が芽出度いのか。『元日の芽出度き日にも老いにけり』と言ふではないか。『門松は冥途の旅の一里塚』、冥途の旅の一里塚が何が芽出度いか。新年を芽出度いなど考へる者は何にも知らない人間の言ふ事だ。それこそお芽出度い人間の言ふ事だ。馬鹿な人間をお芽出度い人間と言ふのはこれから始まつたのだ。新年は何が芽出度いのだ。斯う言ふ調子に、世間の人を白眼み返す樣な、一種の反抗的な、厭世的な、絶望的な考へが浮んだ事があります。斯樣な御經驗の無い方はお仕合せであると思ひますが、私などはたしかに一度は、斯樣な反抗的な否定的な、新年を芽出度くないと觀ずる時代がありました。

所が、近頃になりますと、私は何時とはなしに乙組の人間となつて居ます。即ち、理屈を付けて新年を芽出度いと思つて居るのです。『人生幾何ぞ、譬へば朝露の如し。』と古人も歌つてゐますが、此朝露の

如く、はかなき人生に今年も無事で朝日を拜む事が出來る。之が芽出度くなくて何としよう。最近の統計では、昭和十年に內地人が二百十九萬七千四人生れて居ます。そして、百十六萬一千九百三十六人亡くなつて居ます。此大勢の中に幸にも私が這入つて居ませぬ。勿論這入つて居ては今晩放送する事も出來ない譯であります。『まあ、善かつた』、『まあ善かつた』といつて、そつと首を撫で〻見ました。死んでは命がありませぬ。生きて此新年を迎へる事はほんとうに芽出度い。『皆さん明けまして御芽出度う存じます。』

併し、元來こんな理屈を言つたりするのは抑も末であります。矢張り乙組の人間のする事であります。甲組の人は何も考へずに新年は芽出度いと思つて居ます。これが宜しいのです。芽出度いのに理屈はいらないのです。私などはどうかして今一度子供の時の樣に、理屈なしに新年は芽出度いと思ひたいのでありますが、何としても理屈を付けて見たくなつて、到底乙組以上の人間には成り切れませぬ。洵にお恥かしい次第です。

本來我々の住んで居る地球は自ら一回轉しては晝夜となり、太陽の周圍を一周しては一年となる。我我は東京の電車で環狀線をぐる〳〵廻つて居ると、何處か終點だか、何處か出發點だか分らない。だから、新年と云つても、考へ方によつては、毎日々々新年である。それ故陽曆では、今年今月今日が元日でありますが、舊曆では今年二月十一日が元日であります。又アフガニスタン國とか、イラン國（昔のペルシヤ）は、三月廿一日が元日であります。嚴格に申しますると、日本の舊曆や支那曆は陰陽曆とでも言ふべきもので、ペルシヤの方が純粹の太陰曆と言ふものだと百科全書に書いてあります。こんなに世界では元日が澤山ありますから、言はゞ毎日々々が元日であります。だから、今月今日を特に特別の日の如くに考へてお芽出度いと云ふのは、可笑しい譯であります。併し、之が可笑しいと思へば可笑しいのですが、可笑しくないと思へば可笑しくないのです。地球が太陽を一周するのが一年とすれば、何日を出發點と定めても宜しいのです。だから、元日を元日と定めても少しも可笑しくは無い。芽出度く一周したのだから芽出度いのであります。

唯今の太陽曆は、今より二千年前、西曆紀元前四十六年羅馬のシーザーの時代に定まつたのであります。之が普ねく世界に行はるゝ樣になりましたのは、それ〴〵の理屈もある事ですから、餘りむつかし

い詮議立をせずに、『新年は新年だ』、新年だから芽出度い、と世間並に芽出度がるのが、一番芽出度い、一番賢こい甲組の人間であります。

全體私が考へますと、ほんとうに偉い賢い人は餘り理屈や講釋をせない樣に思ひます。私は或る時に一つの夢を見ました。或る名高い坊さんが有難い御說教をして居ます。そして、其前には何も知らぬ善男善女が此有難い御說教を聞いて、唯々南無阿彌陀佛を唱へて有難がつて居ます。其內に私もお說教を聞きながら、少し睡たくなつて來て、ウツラ〳〵として居ますと、何時の間にか私が極樂の門口に立つて居ました。不思議に思つて門の內を窺いて見ますと、お說教を有難がつて聽いて居る善男善女の多數が極樂へ來て居るのを見ました。併し、いくら搜して見ても、其有難い御說教をして居る坊さんが見當りませぬ。ハテ可怪しい事だと思つて、隣りの地獄の中を覗いて見ますと、豈圖らんや、其中に其偉いお說教の坊さんが居るのを見ました。私は餘りの驚きに眼を覺まして見ますと、之が一場の夢でありました。御說教を聞いて居る人が極樂に行つて、御說教する人が地獄に落ちる、私は此時に何となく身振ひを致しました。之は他人事では無い。私も時々皆さんの前で修養の講釋などを致します。然らば、私が自分自身に修養が出來て居るかと考へて見ますと全く汗が出て來ます。人間と言ふものは心の誠が第一である。理屈や講釋は末の末である。今晩私が斯樣に偉らさうに皆さんに講釋を致して居ますが、講釋をして居る私よりも講釋を聞いて感心して下さる皆さんの方が餘程修養が出來て居るのであると思ひますと、如何に心臟の强い私でも何だかきまりが惡い心地が致します。

高野山の管長であつた龍池密雄さんと言ふ老僧は八十七歲とかの高齡で管長になられた。其時に私が金剛峯寺でお目にかゝつてお祝ひを申しますと、老僧は『老衲はこんな年寄りで管長になる事になつて斯んな困つた事は無い。老衲は何にもわからぬ。唯明け暮れ般若心經を書き寫して佛樣に仕へるだけである。』申されました。そして九十二歲迄長生きを致されましたが毎日御經を寫す事を仕事にして居られた。私は度々此坊さんにお目にかゝりましたが一向に講釋めいた事を申しませんでした。

涼しさや　僧に對して一語なし

斯う云ふ坊さんとさし向ひで、餘り話もせずに坐つて居ますとほんとうに好い心持ちです。

涼しさや　僧に對して一語なし

私の心では色々と上手に説教をする坊さんよりも、龍池老僧の如く何も言はずに唯一心に御經を寫してばかり居られる坊さんがどれ程尊いかわからないと思ひます。そして斯樣な坊樣こそたしかに末は極樂に行く坊さんであると思ひました。尙私の作つた俳句に、

涼しさは　無學の僧に如くは無し

と言ふのがあります。少しく皮肉に聞えますが、私は理屈を言ふ坊さんよりも、無學で理屈を言はずに一心に佛樣に仕へて居る坊さんが好きである。口を以て人を導く人よりも、自分の行ひを以て人を導く人を尊いと思ひます。それ故に新年を迎へましても新年は芽出度く無いなど理屈を言ふ人は丙組の人で一番悪い。其次に理屈や講釋を附けて新年を芽出度がる人は乙組の人であつて第二番目の人である。何にも理屈を附けないで唯新年は新年だから芽出度いと思つて居る人が一番芽出度いので、之は甲組の第一番の人であります。私はこんな人が一番好きである。

新年は芽出度い。先づ身體を清めて神樣を祭つて家の中はよく掃除をして、庭や門先も善く掃いて、そして御雜煮を祝つてお屠蘇を飲んで居ますと、何となく身も心も清らかに世の中が明るい氣持が致します。昔の人の發句に、

元日や　此心にて　世に居たし

と云ふのがあります。洵に此清らかな心で居さへすれば、四海波靜かに、世の中が穩やかに治まつて行くと思ひます。

元日や　此心にて　世に居たし

私はほんとうに今日の儘の心で一日一日を送りたいものであると、つくづくと思つて居るのであります。

私には宗教の事はよくは分りませぬ。だから神樣の事も善くはわかりませぬ。唯私にわかつて居る事が、たつた一つあります。それは人間は弱いものである、だから神樣や佛樣があると思はなくては淋しくて不安心で生きてゆかれぬと言ふ事であります。『神を尊び佛を信ずる事によつて人間は始めて強く生きて行けるものと思ひます。』又人間は昔から人生五十とか人生七十古來稀なりとか言つて百迄も生きる人は滅多にない。此短かい一生であるから成るべく凡ての人が樂しく

幸福に暮らす事に心掛けなければならぬ。自分の住む座敷は第一に綺麗に掃いて置くのが氣持が善い。自分の家の庭や門先も落葉が散り重なつて居るよりは毎日箒目が立つて掃き清められて居るのが氣持が善い。此氣持を推し擴めて行きますと、人間は第一に自分の住んで居る此世の中に落葉を撒き散らす樣な事をしてはならぬ。第二に世の中の落葉を少しでも掃き清める心掛けを持たねばならぬ。皆の人が此氣持で居さへすれば世の中は必ず清らかに幸福になると思ひます。世間では善く言ひます、『長い浮世に短かい生命』、だから少しは氣儘をして死にたい。三千年前に支那の楊朱と云ふ學者はこんな事を考へた事がある。日本ではこんな事を考へる人は無い。少なくとも今晩私の放送を聞いて下さる人の中には、『長い浮世に短かい生命』だから少しは氣儘をして死にたいと思ふ樣な心得違ひの人は一人も無いと思ひます。皆の人が落葉を掃く氣持で居れば世の中は美くしくなりますが、若しも皆の人が長い浮世に短かい生命だから少しは落葉を撒き散らして死にたいと考へて、一人一人が落葉を散らしては世の中は全たく落葉の世界となつて仕舞ひます。庭前を綺麗に掃く、門先を綺麗に掃く此新年の心持を、何時も持ちさへすれば、世の中は自然に綺麗になります。落葉を掃くの心、落葉を掃くの心、『元日や此心にて世に居たし。』

私は又元旦に於て感じます事は、我々が我日本に生れた感謝の念であります。鳴雪翁の俳句に

元日や　一系の天子不二の山

と云ふのがあります。萬世一系の天皇を戴く富士山の圖、實に我々は有難い國に生れた事を感謝します。人間は又個人〳〵相互に對しても感謝しなければならぬ。上役は下役に對して感謝しなければならぬ。下官は上官に對して感謝せなければならぬ。資本家は勞働者に對して感謝しなければならぬ。勞働者は資本家に對して感謝しなければならぬ。『一切の男子は凡て是れ我が父なり。一切の女子は總て是れ母なり。』とは佛教の教であります。國に感謝し父母に感謝し普ねく同胞に感謝して初めて凡ての人の幸福なる世界が得られるのであります。斯樣に考へ方を養ふには元日が一番宜しい。元日のすが〳〵しい氣分の時に富士山を仰ぎ見た氣持、何時も此氣持で居さへすれば宜しいのであります。

私は碧巖錄にある『日々是好日』と云ふ文句が好きである。父母に感謝し國に感謝し同胞に感謝し、有難い〳〵と思つて居れば、日々是れ好き日である。誰が憎い、彼が憎いと言つて居れば、日々是れ惡

日である。感謝の心懸けがあれば、日々是れ好日、落葉を掃く心懸があれば日々是れ元日。日々是れ元日と言ふのは私の發明した言葉であります。

大層長話を致しましたが、斯んな講釋をする私は到底乙組の人間であります。私の話を聞いて下さる皆さんこそ甲組の尊い人達と存じます。皆さん、どうか何時も落葉を掃く氣持で居て下さい。日々是れ元日の氣持で居て下さい。最後に重ねて申します、皆さん明けましておめでとう！

後醍醐天皇の御製

——昭和十一年一月三日放送——

昭和十一年新春初頭に於て放送局では歴代の陛下の御製十首を擇び、之を十人に割り充てゝ解説放送を爲す事を計畫されました。私は第三日目の後醍醐天皇御製『世治まり民安かれと祈るこそ我身に盡きぬ思ひなりけれ』と云ふ御歌を解説申し上ぐる事となつたのであります。

『世治まり民安かれと祈るこそ　我身に盡きぬ思ひなりけれ』此御歌は今より凡そ六百年前九十六代後醍醐天皇様の御製でありまして、『續後拾遺集』と言ふ歌集の中に載つて居ますものであります。御製の御意味は極めてわかり易いので別に御解釋申上ぐる必要もないと思ひます。『世の中が善く治まつて國民が安らかに、生活らして行ける樣にと、片時も御忘れ給ふお暇もなく御心配あらせらるゝ』と云ふ有難い思召であります。『世治まり民安かれと祈るこそ我身に盡きぬ思ひなりけれ』御歌の御説明はこれ以上

申上げませぬ。『歴代御製集』と云ふ本を拝讀して見ますと、後醍醐天皇様の御歌が百八十一首出て居まして、御歴代の天子様の中でも矢張り澤山御詠みになられた御方であります。そして又中々に御堪能にあらせられたかの様に拝されます。此御製の外にも尚國民の身の上を御心配遊ばされて、

急ぐなる　秋の砧の音にこそ　夜寒の民の心をも知れ

と詠まれたのがあります。又

民の爲　時ある雨を祈るとも　知らでや田子の早苗とるらむ

とも詠まれて居ます。其外朝廷の御政治向に御勉強遊ばさるゝ御歌に

短夜は　はや明け方と思ふにも　心にかゝる朝まつりごと

と言ふ御製があります。私は『世治まり民安かれと祈るこそ我身に盡きぬ思ひなりけれ』と言ふ御歌を拝見致しました時に直ぐに、明治天皇様の

永しへに　民安かれと祈るなる　我世を守れ伊勢の大神

と言ふ御製を思ひ浮べました。又『短夜は、はや明方と思ふにも、心にかゝる朝まつりごと』と言ふ此後醍醐天皇様の御製を拝しては、明治天皇様の、

政事出でゝきく間は斯くばかり　暑き日なりと思はざりしに

と言ふ御歌を思ひ出します。之に就けても御醍醐天皇様が常に國民全體の事を御心配になり、又御政治向にも愈々御勉強なされた事を拝して、ひたすら感激に堪へぬ次第であります。

熟々後醍醐天皇様の御一代を伺ひますと實に波瀾重疊とでも申上げましやうか、洵に浮き沈みの多い御生涯であらせられます。天皇様は極めて天資英邁に渡らせられ、御即位の當初より深く政權が幕府に移り北條氏が專横の振舞を爲す事を御心配遊ばされ、殊に北條高時の政治が益々國民の殃となり行く事を御覽遊ばされて北條氏討伐の事を御思ひ立たされました。然るに其事が漏れた爲に天皇様は夜中ひそかに京都の宮中をぬけ出でさせ、奈良の方へ行幸遊ばされ、更に笠置山にお忍びになられました。太平記に出て居ります御歌に、

さして行く笠置の山を出でしより　天が下には隱れ家もなし

と言ふ御製があります。之は後醍醐天皇様のお歌として、最も多く世間に知られて居る所でありま

す。

洵に一天萬乘の御身の上にて『天か下には隱れ家も無し』と嘆かせられ給ふた御事は全く恐れ多い次第であります。之が元弘元年の御出來事であります。其翌年の三月には更に北條氏の爲に遠い〳〵隱岐の國にお遷りなされ給ふ事となりました。其お淋しい御途中、明石の浦を過ぎさせ給ふた御時に

水の泡の　消えで浮世を渡る身の　羨ましきは蜑の釣舟

とお詠みになりましたが、此御不幸なお身の上を偲ばせ給ふにつけても蜑の釣舟をお羨み遊ばされし御事は洵に涙なくては拜する事が出來ないのであります。更に播磨の國を過ぎさせ給ふ御時に、高い山の峰に、櫻の花盛りであるのを御覽遊ばされて、

花はなほ　浮世もわかす咲きてけり　都も今や盛りなるらむ

とお詠みになつて都をお慕ひ遊ばされて居ます。又美作國を御通りの節に、御心地がすぐれさせ給はぬ爲に、二三日お休みになられました御時に

哀れとは　汝れも見るらむ　我が民を思ふ心は今もかはらず

斯く艱難辛苦を重ねさせられ、殊に恐れ多くも臣下たる北條氏の爲に遠く隱岐の國に遷らせ給ふ、其御道中、美作の山國の中での御病氣の御中にも尙且つ、このやうに

哀れとは　汝も見るらむ我が民を　思ふ心は今も變らず

と言ふ有難き御歌を遊ばされて居ます。實に其御心持を拜しましても今更の如くに、此御製の

世治まり民安かれと祈るこそ　我身に盡きぬ思ひなりけれ

と言ふ御心持は、如何に御自身が御苦勞を遊ばされし御時でも少しもお變りが無く却つて益々國民の身の上を御心配遊ばさるゝ大御心が明らかに拜せられて更に一層の感激を增す次第であります。

又隱岐國を密かにのがれさせられ給ひ伯耆に御渡り遊ばされ、名和長年がお迎ひ申上げて舟上山に御案內申上げた時に深くお歡び遊ばされて、

忘れめや　寄るべも波の荒磯を　御舟の上に　とめし心は

と言ふお歌をお作りになられて名和長年に賜はりました御歡びの程も左こそと拜察されます。

斯くて元弘三年五月北條高時が新田義貞の爲に滅ぼされ、天皇樣は六月に舟上山の行在所から京都の

宮城に久方振に還御あらせられました。　翌年建武と改元せられ、そして建武中興の御政事をお始めになられました。

然るに建武元年の十月には既に藤原藤房が官を棄てゝ去るとか、護良親王様が罪を得て拘禁され給ふとか言ふ事が出來、建武二年十月には既に足利尊氏が謀叛をする、翌年の延元元年五月には楠正成が湊川で討死をする、其年の十二月には天皇様は再び都を落ちさせ給ひて吉野の行在所に行幸遊ばさるゝ御始末となられたのであります。此延元元年と言ふのは紀元一九九六年であるから今年が二五九六年で丁度其六百年に相當して居ます。之を以て見まするとと、建武中興の御親政と言ふべきは僅かに二ヶ年に過ぎないで、世は再び武家の天下となり足利時代となつた次第であります。

後醍醐天皇様は吉野の皇居にあらせられて、春風秋雨、唯御わびしき月日を御送り遊ばされました。其頃の五月雨と言ふ御製に、

都だに淋しかりしを雲晴れぬ　吉野の奥の五月雨の頃

と詠まれてあります。都に御座つても五月雨の頃は御淋しく御感じ遊ばされたが、況して吉野の山奥の五月雨の頃は一層御淋しく思召さるゝ如何にもお淋しい御様子が眼に見ゆる心地が致します。又側近に奉侍して、常に御下問に奉答して居られた重なる御家來の方々が、相次で薨去されたのを御嘆き遊ばされて、

事問はむ人さへ稀になりにけり　我が身の末の　程ぞ知らるゝ

洵に御心細い事を御詠み遊ばされて居ます。かくて天皇様は吉野の皇居に御座あつて絶えず國事を御心痛遊ばされ、遂に御病氣にかゝらせ給ひて延元四年の八月に御崩御遊ばされました。吉野にあらせらるゝ事は滿二ヶ年餘り、三ヶ年には足らぬ短かい御間であります。

私共が今日六百年前の昔を偲ひ建武中興の御親政が僅かに二ヶ年に過ぎなかつた事を顧みまして眞に痛大息に堪へない次第であります。當時北條氏が僅かに滅んだと言つても武家の勢力が尚頗る盛んでありました。それ故大化の新政や明治維新の際とは餘程事情を異にして居ました。併し乍ら我々が此英主を戴きながら遂に中興の偉業が中途にして挫折した事は、如何にも殘念で實に惜みても尚餘りある事であります。『世治まり民安かれと祈るこそ我身に盡きぬ思ひなりけれ』我々は唯此御製によつて大御心を

拜し奉るのみであつて、建武中興の御親政によつて此大御心の通りの御政治に浴する事の出來なかつた事は返す〳〵も遺憾な次第であります。

私は此機會に日本の歌と我國民性と云ふ事に就て少し申述べて見たい。和歌の事を敷島の道と言ひます如く我日本は歌の國であります。既に神代の昔に素盞嗚尊の『八雲立つ』（八雲立つ出雲八重垣妻ごめに八重垣つくる其八重垣を）の御歌があり、又彦火火出見尊の『沖つ鳥』（沖つ鳥鴨著く島に我が寢ねし、妹は忘らに、せのこと〳〵も）の御歌があります。神武天皇以來百二十四代歷代の天子樣で御製の傳はらない御方は極めて稀であります。大多數の御方は隨分澤山の御製を遊ばされて居ます。殊に明治天皇樣の如き數萬首もお作り遊ばされたさうであります。我々は明治天皇樣の御製の中でも、『朝みどり澄み渡りたる大空の廣きを己が心ともかな』と言ふ御歌を讀み又、『高殿の窓てう窓をあけさせて四方の櫻の盛りをぞ見る』と言ふ樣な御製を拜しますと、如何にも我國民性の公明正大な、快活にして雄大莊嚴なる態度に就て御教を戴く心地がせらるゝのであります。御承知の通り毎年新春には勅題を給はります。そして幾萬の臣民が貴賤上下の差別なく詠進申し上ぐるのであります。宮內省では又、御歌所と云ふ役所迄設けられてあります。私が嘗て古い外交官に、『何處か世界中に毎年國民から勅題を賜ふて詩や歌を奉らしめる國があるであらうか。』と尋ねて見たが、『そんな國は何處にも無い、又それに似寄つた事も聞いた事は無い。』と言ひました。それでは『世界中で「御歌所」と言つた樣な役所を持つ國はあるであらうか。』と云ひますと、其人が大いに笑つて、『御歌所なんか云ふ言葉を英語や佛語に譯して話して見ると西洋人は唯不思議がつて喫驚して居た事がある。』と云ひました。全くさうであらうと思ひます。勅題とか、御歌所など云ふ事は世界に類例の無い事であります。又日本人の樣に天然に憧憬かれ自然を愛し、春は花秋は月と言つて喜び、鶯が鳴いた、時鳥が鳴いた、牡丹が咲いた、菊が咲いた、と言つて樂しむ民族は餘り無いと思ひます。斯の如く詩や歌を好み天然や自然を喜ぶ所に我國民性の極めて高尙な優美な平和な方面が最もよく現れて居ます。然るに外國人は往々にして日本及び日本人を誤解し好戰國民などゝ申します。勿論我々は我々の名譽を傷け我々の獨立を脅かす者に對しては敢然として之と戰ふ事を辭するものでは無いが、我日本人の本質と云ふものは決して好戰國民では無くして平和を愛する國民であります。此事は何處迄も外國人によく判らして置きたい。幸に明年の八月には東京で世界

教育大會が開かれます。そして世界各國から約一千人位の教育者が來ると思ひます。此機會に於て教育者を通じて日本の文化を世界に知らしめ日本人の美點を理解せしめたいと思ひます。之に就て私の考へて居ます事は色々ありますが、先づ八月ですからラヂオ體操の會を見せて日本人が延人員一億萬人も之に參加して居る事を知らして快活に團結する我國民性を知らしめたい。又勅題の事や御歌所の事を說明して日本人は上皇室より下萬民に至る迄詩歌を愛する國民である事を知らしめたい。こんな事を知らしたならば却つて案外日本人の快活な平和な高尙な本質を早く合點さす事が出來るかと思つたりして居ます。少し話が横道に入りましたが、私は近頃歷代御製集を拜見致しまして今更の如くに歷代の御門が殆んと凡て敷島の道たる和歌に御堪能であらせられ給ふ事に驚嘆を致しました。其數々の御製の中には我國民を憐れみいつくしまれる御歌の多い事にも一しほ有難く感じました。殊に今より六百年の昔建武中興の英主後醍醐天皇樣が、あの波瀾重疊色々の御苦勞を嘗めさせられ給ふた御中にも常に大御心を國民の上に注がせられ給ひ、『世治まり民安かれと祈ることそ我身に盡きぬ思ひなりけれ』とお詠み遊ばされ給ふた此御製に對し奉りて一しほ感激の情に堪へぬ次第であります。之を以て私のお話を終ります。

巴西經濟使節を迎へて

――三分間放送昭和十一年九月廿一日霞關離宮后七時三十分――

皆さん此度ブラジルから經濟使節としてサルガード閣下御夫妻と並に御一行を我日本にお迎へした事は最も喜ばしい事であります。

ブラジルには御承知の通り我同胞二十萬人程移住して居りまして、我々にとつては最も親しみ深い國であります。ブラジルと言へば日本からは隨分遠い國で、御一行も日本へ直航するに五十二日間を費したのであります。

私が一昨日團長さんに初めて御目にかゝりましてアマゾン河の話や鰐の話を致しましたが、團長さんは、まだアマゾン河を知らぬ、見た事も旅行した事もないと言はれましたので、一寸驚ろきました。そして成る程ブラジルは廣い國だと感心しました。

ブラジルは二年前に憲法を改正して移民を制限致しましたが、それでも日本からは本年度も凡そ六千人程移住する事となりましやう、日本人が移住して不愉快な思ひもせず、排斥も受けず、却つて歓迎せられるのは世界中で今日は滿洲國とブラジル位のものであります。

ブラジルでは時として政治上の關係から日本人の惡宣傳をして日本はブラジルを攻めに來るなど言ふさうですが、今回の御一行に善く日本を見てもらつて、日本には鰐も居らぬ、鬼も居らぬ事を善く巴西人にお傳へ願ひたいと思ひます。

土地が狹くて勞力が餘つて居る國と土地が廣くて勞力を需むる國とは神様から仲善くする様に運命付けられて居ると思ひます。御一行は今から日本國内を旅行されます。どうか皆さん大いに歓迎してあげて下さい。

巴西經濟使節一行歓迎晩餐會

——昭和十一年九月廿二日后八時於拓相官邸——

此晩餐會は淺野總一郎氏の好意に依つて品川の淺野氏邸の宏荘な紫雲閣で催されました。一階を應接室とし二階を食堂に致しましたが、其華美を盡した設備、東洋式の家具類など非常に一行の氣に入つた様でした。私の演説は十數回に切つてポルトガル語に飜譯されたのでありましたが、終始拍手と笑聲を以て迎へられましたが、就中、鰐の話や珈琲の話では一行大喜びでありました。サルガード團長は『貴國人は巴西の珈琲を飲めは夜中眠れないと言はるゝが巴西人は日本の茶を飲めは夜中眠れない。』など答辭を述べられ、非常に愉快でありました。唯私の殘念に思つた事は『日本には鰐も居らぬ、鬼も居らぬ。』と言ふ一語は、『ワニ』と『オニ』と音便が通じて居るから洒落になるのですが、之をポルトガル語に譯されては其言葉の持つ味ひが全部失はれて仕舞つた事でした。

此度伯國經濟使節として團長サルガード閣下御夫妻を始め御一行を我國にお迎へ致しましたのは、國

民の均しく歡喜して居る所であります。

私は此機會に先づ御禮を申上げたい事は、過去三十年間我同胞が殆んど二十萬人に近くブラジルに移住致しまして、極めて平和に其生活を樂しみ、少しも排斥とか差別待遇とか不愉快な思ひをする事の無い事は、全く貴國の寛大なる態度の賜でありまして感謝に堪へぬ次第であります。

兩國の經濟關係に就ては最近迄殆んど閉却されて居ましたが、昨年我々の同僚平生閣下が經濟使節として貴國を訪問致しましたのを一轉機として、新局面が打開され、殊に我國が貴國の棉花買付に依つて兩國の經濟提携が加速度的に進展致さうとして居る其道程中に、今回の如き有力なる使節御一行を迎へました事は眞に絶好の機會でありまして、兩國の爲に深く慶賀する所であります。

日本とブラジルとは土地が餘りに遠く離れて居ますから、互に其實情に暗い所があります。

一昨日もサルガード閣下とお話をして居ました中に外國人はブラジルの事を知らない、そしてリオ・デ・ジヤネロの町の中でも鰐が棲んで居ると思つて居る、と言ふ面白いお話がありました。

成る程日本人から見ますと、巴西は廣い國である、世界一のアマゾン河のある國である、鰐が澤山居る國であると聞かされて居ますから、日本人の田舍の人ではリオの市中に鰐が居ると言へば、ほんとうにする者が一人や二人あるかも知れませぬ。

之と同じ樣に巴西人は又日本の事を知らない。日本人は巴西へ來て巴西を第二の歐洲にするなど惡宣傳をすると、それをほんとうにする西巴人が一人や二人あるかも知れないと思ひます。

昨年平生團長が巴西から歸つて來たので、我々は平生君からリオの市中に鰐が棲んで居ない事を確かに承りました。サルガード團長閣下も今回日本を見てお歸りになつたならば、日本は決して巴西を攻めに來る心配が無い事を貴國の人達にお話下さる樣に願ひます。

本年四月我國から巴西へ移民する二十組の若い夫婦が、私の所へお暇乞に來た。私は彼等に云ひました、『忠誠なる巴西國民になれ。』『善良なる巴西農民になれ。』之が日本民族の高尚なる道德である。此言葉は我々の僞らざる考へ方であります。

一昨日サルガード團長は又興味あるお話をされました。それは六十年前に書いた巴西人の日本旅行記とかに、『日本人は正直である。それ故日本人には虛言を言つて騙しちやならぬ。』と書いてあるさうで

す。六十年前ばかりでは無い。今でも日本人は正直です、正直な者は外交は下手です。どうか眞實を以て御附合を願ひます。

そこで私は正直に云ふ、日本は土地が狹くて勞力が餘つて居る。巴西は土地は廣くて勞力が不足して居る。日本では棉花を澤山需用する。巴西では棉花はいくらでも作れる。此兩國が互に有無相通じて相扶け合ふ事が神樣の作つた自然の運命であると思ひます。巴西の珈琲は甘いです。併し我々日本人は珈琲を餘り澤山飲むと夜中、眠れませぬ。棉花ならばいくらでも買ひます。七億萬圓迄は買ふ事が出來ます。

日本は狹いから使節御一行はどうか日本の隅々迄も見て歸つて下さい。善い事も惡い事も皆見て歸つて下さい。日本には鰐も居りません。又決して鬼も居りませぬ。我々は眞に心の底から御一行に對して好感情を持つて居ます。私は今回の御一行の日本訪問によりまして、日本と巴西とが全く劃期的に親善を增すべき事を深く信じて疑ひませぬ。

玆に御一行の御旅行中の御平穩を祈りまして、皆樣と共に杯を擧げて團長閣下御夫妻並に御一行の御健康を祝したいと思ひます。

後藤伯七回忌

——昭和十年四月十三日放送——

何時も櫻の花が咲く頃となりますと、私は必ず亡くなられた後藤さんの事を思ひ起します。丁度今日が第七回忌に當る命日であります。後藤さんは雅號を棲霞と言つて——霞に棲むと書きます。棲霞と言ふ雅號であつた人が、恰も霞棚曳く春に亡くなられたのも一種の因緣かと思はれます。

棲霞忌や　滿都花ならざるは無し

之が私の作つた平凡な俳句ですが、後藤さんの忌日は何時も滿開である。櫻の花は花々しく開いて花々しく散つて行く。私は何となく櫻の花と後藤さんとは何處か似通つた所がある樣な氣がしてなりませぬ。

年々歲々花相似たり。散り行く花を見るにつけても六年前の今月今日が思ひだされ、溫容髣髴として

私の眼の前にちらつく心地が致しまする。今日も青山墓地のお墓に參詣して見ますると、墓石が漸やく古びて黝んで來まして、雪と見紛ふ落花が空しく冷たい土の上を蔽ふて、あの潑剌たる鼻眼鏡の、白髯童顔の無邪氣な俤が杳として之を求むるに由なかつた事は、洵に淋しく、懷かしく、眞に低徊去るに忍びざるの思ひでありました。

殊に私は近頃格別に後藤さんの事を思ひ起します。それは後藤さんが嘗て心血を濺がれました滿洲問題、又死に至る迄念頭を去らなかつた日露問題、是等の問題が今日滿洲國の獨立となり、北鐵讓渡問題の解決となり、殊に今回は滿洲國皇帝陛下を我國にお迎へ申し上げ上下熱狂の御歡迎を致して居ります今日、若し後藤さんが此世に在らるゝならば、どれ程喜ばるゝかも知れないと思ひますと、實に感慨無量の思ひを致す次第であります。

曩に御藤さんが大正十一年露國からヨッフェ氏を招いた時は、全く命がけの危險を犯したのでありました。其時後藤さんが私に、『君はおれが露西亞と手を握らうとする眞意が判つて居るか。』と訊かれました。私は『それはどう云ふ事ですか。』と問ひ返しますと、『おれが露西亞と手を握らうとするのは滿洲問題や支那問題を解決するのが眞の目的なのだよ。滿洲問題は單に支那に交渉に交渉したのでは解決出來ぬ。之はどうしても先づ露西亞と手を握らねば駄目だ。日本の最大の問題は支那問題の解決だ。』後藤さんは斯う言つて居た。私は茲にも後藤さんの偉大なる見識を感心したのであります。私は昭和四年、則ち後藤さんの亡くなられた年に何だか氣がくしやくしした。其悶々の情を轉換する爲に洋行をしました。其時にベルリンで元のゾルフ大使を訪問致しました。ゾルフさんは特に後藤さんの書いた軸を壁に掛けて私を接見しました。其時のゾルフさんの話に、『自分の日本に關する智識は全くグラーフ後藤の賜である。グラーフ後藤は眞に隱さずに正確な智識を自分に與へて呉れた。』と言つて衷心から感謝して居ました。私が近頃ゾルフさんがベルリーナ・ダーゲーブラット紙上に掲げた一論文を見ました。ゾルフさんは日本の立場を說明して、『日本が華府條約を廢棄したのは支那問題解決の必要上止むを得ないのである。日本が五・五・三と云ふが如き英米に對して劣等である事を承認する樣では支那は決して日本の云ふ事を聞かない。支那をして日本の提言を尊重せしむる爲には日本は止むを得ず英米對等の五・五・五を主張せざるを得ないのである。』と云ふ事を極めて明快に論じてあります。私は此論文を見て私の第六

感に感じた事は、『之はゾルフさんが後藤さんに代つて日本の立場を證明して呉れて居る。』と思つた事であります。ゾルフさんは明らかに後藤さんから聞いた事を述べて居るのである。六年後の今日後藤さんはまだ死んで居ない。そしてゾルフさんの口を通じて日本の立場を説明して居る。私は此の如く信じ、此の如く感じ、今日の此命日に當りまして益々後藤さんの偉大さを思ひ浮べるのであります。

後藤さんは澤山の會長になつて居ました。併し其内で最も後藤さんの得意であつたのは恐らく少年團の總長であつたらうと思ひます。私は嘗て後藤さんに『あなたは餘り會長を澤山持ち過ぎて居る。今少し會長の整理をせなければ駄目です。』と申しました。それ故後藤さんに外から更に會長になれと勸めて來る者がありますと、何時でも『おれは會長になりたいが永田が反對するから君達は先づ永田を説き付けて來い。』と云つて居ました。それでも少年團の總長だけは餘つ程自分からしてなりたさうにして居ました。そこで私が、『なる程、あんな子供らしい仕事はあなたが一番適任でしやう。あなたがそれ程やつてやりたいとお思ひになるならば總長になつても宜しいでしやう。其代り總長になつたら眞に總長としての責任を盡さなくてはいけませぬ。』と申しますと、『宜し、屹度やつてやる。』と言つて進んで總長を引受けられたのでした。其後後藤さんが東京市長をやめました時に東京市から慰勞金を十萬圓贈呈致しました。すると後藤さんは『此十萬圓は東京市に關係のある事に使はねばならぬだらうか。』と私に訊きました。私は『それは東京市から貴方に差し上げたのだから何に使つても差支ないでしやう。』と申しますと後藤さんは『それではおれは之を全部少年團へくれてやるぞ。』と言つて全部少年團へ寄附しました。後藤さんが少年團の團服を着て出かけて行くと健兒共が何時も大喜びで、『僕等の好きな總長は、白い御顔に鼻眼鏡、何時も元氣でにこ〳〵と。』と云ふ歌を歌ひます。後藤さんは愈〳〵嬉しさうに得意滿面で居られる。其樣子が、何としても七十の子供でありました。何時か後藤さんが少年團の健兒共と私の鄕里の淡路島に來て千山千光寺の山の上で宿つた。午前四時に頭の上で半鐘を鳴らすので後藤さんも私も寢て居れない。子供達と一緒に起きて石段を登つて本堂で坊さんの讀經を聞いた。そして其あとで坊さんが健兒に話された說教を健兒と共にかしこまつて聽いて居た。少年團服でキチンと坐つて居る後藤さんの樣子が如何にも可愛らしくいぢらしく思ひました。食後私が後藤さんに訊いて見た、『あなたが子供と一緒にこんな事をして子供は自分の孫の樣に可愛いでしやう。』と言ひますと、『孫の樣に思つたりしては

駄目だよ。こつちが孫の様に思へば向ふでは「祖父さん扱ひ」をするではないか。それでは總長が勤まらぬ。』『それじや子供達を友達の様に思ひますか。』と言へば、『それも駄目だよ。こちらでいくら友達の様に思つても向ふは白髪の爺を友達とは思つて呉れないよ。』と言ふ。『成る程、それではどうすればよいのです。』と言へば後藤さんは破顔一笑して『それは子供達を自分の先生と思ふのだよ。そして自分が何でも子供から教はる様に仕向けるのだ。さすれば子供達は初めて自分の仲間が來たと思つて子供の仲間入りが出來るのだよ。』と言つた。面白い事を言ふ。私は此山寺で後藤さんから聞いた此話に深く感心して何時迄も忘れられませぬ。『子供を先生とする。』成る程此氣分でなくちや子供の仲間入りが出來ぬ。私などが東京市長をして居ても市民諸君と仲々ぴつたりと息が合はない。矢張り市民を先生と考へるだけの心懸けが無くては市民の父となる事が出來ないのだと、私は後藤さんの此一言で東京市長學の大なるヒントを得たと思つたのであります。

後藤さんは仲々進歩的で學問が好きで新らしい事を好んだ。そして讀書會と言ふものを作つて新刊の英書や佛書や獨書を飜譯させて聽いて居た。後藤さんが大正十三年頃初めてラヂオを初めると言つた時に、私はお恥かし乍らラヂオと言ふものを知らなかつた。そして『あゝ後藤さんは又例の新物喰ひをやつて居る』位に考へて居ました。それが年一年と急速の普及をしたので私はすつかり感心して仕舞ひました。全くラヂオばかりは後藤さんの卓見に參つて仕舞つたのであります。私が放送する時は時々此事を思ひ出します。

後藤さんは放膽な様でも中々細心で大事を取る人でありました。汽車に乘る場合でも何時でも二十分間位は早く停車場へ着いて居る。それで私が御見送りする時は何時でも後藤さんはチヤンと先着して居た。『大層お早いですネー』と申しますと、後藤さんは何時もにつこりと笑つて『早く宜し。丁度宜し、あぶなし。』と言つて居た。之は物事は少し早過ぎる方が宜しい、丁度宜しいと言ふ事は頗る危ないと言ふ事である、と言つた様な意味である。『早く宜し。丁度宜し、危なし。』私が度々聞かされて之も忘れられぬ文句の一つである。

それから、是は極秘密の話だが、後藤さんは或時私に向つて、『君！　腹が立つてたまらない時に我慢するお禁厭を教へてやらうか。』と言ふ。『それは耳寄りな話ですネ。何と云ふお禁厭ですか。』と云ふと、

後藤さんは態と低い聲を出して、『それはネ、對手に聞えぬ樣にして口の中で、馬鹿！　馬鹿！　馬鹿！と三度言ふのだよ。』と言ふ。私は覺えず吹き出して笑つた。後藤さんも大きな聲で笑ひ乍ら、『宜いお禁厭だらう。對手が馬鹿だと思へば馬鹿な者に取合つて腹を立てゝも仕方が無い。大概の事は口の中で馬鹿馬鹿々々〳〵と三度くり返して言へば我慢の出來るものだ。』と教へて呉れました。但し之は極秘の事ですから外の人には言はない樣に願ひたう御坐います。

後藤さんの傳記は目下傳記編纂會で女婿鶴見祐輔君が主任となつて編纂して居ます。非常な努力でヤツト原稿が出來ました。何しろ醫者から政治家になつた波瀾重疊の一生は、餘り材料が多過ぎて始末が惡い、切つめるだけ切つめて六百頁以上のものが十卷を越えると言ふ譯で閉口して居ます。其鶴見君の話に後藤さんが米國のエール大學で元の大統領タフト氏を訪問して餘りメートルを擧げて居たか、別れる時にタフトの帽子と自分の帽子と間違つて冠つて出た所、タフトが後ろからバロン・後藤〳〵と叫び乍らエレヴエーターの所迄追つかけて來て、それは昨日買つたばかりの帽子だ、取かへられては困ると言つて二人が大笑ひをした。タフトも頭が大きいが後藤さんの頭も大きい、で恰度、似合つて居た。但し後藤さんの帽子は古ぼけて穢なかつたさうであります。私も亡くなつた人の命日にこんな素つ破抜をするでもありませぬが、外の人と違つて後藤さんと言ふ人は、こんな事を言へば大へん喜ぶ人でありました。定めて今頃は草葉の蔭で、オーよく素つ破ぬいた！　馬鹿な奴だ、と言つて嘸嬉しがつて居る事と思ひます。

私などが後藤さんに就て最も深く感心する事は後藤さんの不撓不屈の努力であります。何かして居なければ、じつとして居られないと言ふ進取的氣象であります。後藤さんが昭和二年に露西亞に行かれた時などは輕微の腦溢血を二度もせられた後であつた。私が之を神戸迄御見送りした時は全く是が生別死別を兼ぬるものだと思つた。恐らく後藤さんは『若し露西亞で死ねばおれの本望である。』と覺悟して居られたと思ひます。幸に無事に歸朝されてからも倦む事を知らずに何事にもよく活動された。昭和四年四月三日には東京で少年團の檢閲を行つて、其夜行で東京を出發して四日午後一時岡山の醫學會に出席して直ぐに午後四時岡山發で引返して五日東京でモット博士を招待する事となつて居たのであつた。實に無茶です。然るに汽車が米原の手前迄來た時午前七時五分頃突然腦溢血で汽車中で仆れたので

ある。其時後藤さんは原稿の手入をして居たさうである。京都で下車する際も後藤さんは口も利けず手足も利かぬ樣になつて居たが、意識は十分であつたと見えて『岡山〳〵』と二言言つた。そして不自由な脚を汽車の窓に突つ張つて下車を肯んぜない樣子であつたのである。いくら强情我慢でも口も利けず手足も動かぬでは仕方が無い、遂に無理遣京都に降されて仕舞つたのである。恐らく後藤さんの胸中では、自分は岡山の學會に出かけて來たのだから『死ねば岡山で死にたい。』と言つた悲壯な氣分であつたらうと思ふ。其心中を推察して見ると全く殘念で、屹度おれはまだ死なぬ、自分の仕事はまだ殘つて居ると考へて居たであらう。私としては後藤さんが汽車中に仆れて間もなく私の名を二度迄も叫ばれたと聞いては、何時迄も何時迄も其事が氣になつてたまらない。せめて、それを聞いて仕舞つて居れば心殘りはないのです。私は今日もお墓の前で又しても其事を思ひ浮べた。嗚呼時は今、非常時である。後藤さんが生きて居れば何か又善い智慧があつたかも知れない。後藤さんは最後に何を私に告げむとしたのであらうか。今日此非常時に今一度後藤さんを呼び起して見たいと思ふ事は、恐らく私一人の感情のみではなからうと思ふ。

樓霞忌や　滿都花ならさるは無し

嗚呼春風秋雨茲に六年。今年も亦花が咲いた。櫻の花が美くしく咲いた。そして潔よく散つて行く。而も亡くなられた人は永久に歸つては來ないのである。

歳晩の辭

——昭和九年十二月卅一日放送——

青年の諸君を目標としてお話致します。

最早本年もあと四時間と推しつまりました。年末になつて何時も思ひ出すのは、一茶の句に

梟よ　ノホホン所か　年の暮

と言ふのがある。中々年の暮はノホホンでは暮らせない。併し青年の諸君には隨分ノホホン組がある

と見えてスキー場や活動などが中々賑やつて居た樣であります。青年にとつて年の暮と言ふ事は自分の年が一つ行くと言ふ問題である。イヤ年寄りも矢張り年が行くと云ふ問題ですが老人は年の行くのを喜びません。年寄りは必ず『年は取りたくない。』と申します。何だか怖ろしい樣な行先がつかへる樣な氣分になります。青年は年の行くのは苦にならぬ。何だか高い所へ上つて行く樣な樂しみを感じます。私

が嘗て故澁澤子爵と東京の養育院を視察した時に澁澤さんが其少年の人達に話した事を餘程面白いと思つてよく記憶して居ます。澁澤さんの言はるゝには自分は今年が九十であるから明年九十一に年が行つてもそれは九十分の一しか年が行かないのである。然るにあなた方は十歳の人が十一歳になれば十分の一、十五の年が十六になれば十五分の一づゝ年が行くのである。同じ一年でも九十分の一と十分の一では九倍も價値が違つて居る。それ故皆樣は我々老人の樣にボンヤリして居てはならぬ。我々の九倍も以上に勉强せねばならぬと教へました。澁澤老人は流石に實業家だけに算盤から割り出して年齡の價値を算定したのは頗る妙味があると思ひました。私は此年末に際し青年諸君に此話を受け賣致しまして、諸君が年一つ行くと云ふ價値は頗る大きいのであるからボンヤリしない樣に願ひたい。ノホホン所か年の暮、西洋の諺にも『青年の時間は黃金の如し、壯年の時間は銀の如し、老年の時間は鉛の如し。』と言ふのがあります。青年諸君は此黃金の時間が一年經過して年が一つ行くのであるから十分に緊張して勉强して貰ひたいものであります。

それから昭和九年と言ふ年は日本にとつて相當多事な時でありました。國內的に見て今年は隨分災害

の多い年であつた。函館の火災、北陸の水災、九州の旱害、關西の風水害、東北の冷害、凶作等澤山救護の必要のある出來事があつた。又政治的には內閣の交迭があつたが、政黨に對する國民の信任はまだ中々に回復しない。又思想的にも相當警戒すべき事柄もあつた。數へ立てゝ見れば昭和九年には『社會的不安』、『政治的不安』、『經濟的不安』、『思想的不安』等の種が澤山あります。併し乍ら我々は茲に偉大なる常識を以て達觀して見ますと、歐米の政治的不安、經濟的不安に比べて日本は餘程安定して居る。日本は餘程幸福な狀態で居る。我々は先づ安心し先づ確信し、そして力强き自信の下に一致協力し、嬉しさうに樂しさうに、笑つて努力奮鬪すべきであります。クヨ〳〵しない！　之が偉大なる國民の態度であります。

次に我々は昭和九年の我日本の姿を國際的に見、對外的に顧みまする時に我々は半ば意識し半ば意識せざる間に我日本はメキ〳〵と大きくなつて居ます。何時の間に日本はこんなに偉らくなつたかと我ながら頬つぺたを抓つて見たい程の氣持になります。之は公平に言ひますと日本が偉らくなつたのでは無くして歐米がつまらなくなつたのです。歐米がつまらなくなつて見ると日本は關係的に偉らくなつた樣に見えるのであります。考へて見ると歐米の基督教國が基督の教に背いて爾の隣人を愛する事を忘れ世界大戰爭と言ふ馬鹿らしい大事件を仕出かして自分自ら傷いて、疲れ切つて仕舞ひ、弱り切つて仕舞ひました。そして不自然なる平和條約を作つて見ましたが、之が爲に自活の出來ない國が澤山出來て、歐洲には當分平和は來さうには思はれませぬ。殊に近頃は互に關稅の墻壁を高くして互に窮地に陷つて居る。こんな具合で日本は近頃メキ〳〵偉らくなつたと言ふ事は歐米がつまらなくなつたお蔭なので、我々は此歐米の御親切に對して實は心密かにお禮を言つて居ます。併し之は何處迄も我々の內證話としてお聞きを願ひます。

併し皆さん試みに地位を替へて歐米の立場になつて日本を觀て御覽になれば如何でしやう。實に日本はイマ〳〵しい奴だと思ふでありましやう。今迄は子供の樣に思つて居た有色人種の小柄な奴が急に偉らくなつて言ふ事を聞かなくなつた。國際聯盟は世界の平和の憲法の如くに歐洲では考へて居るものを日本は平氣で後脚で砂をかける樣にして出て行つて仕舞ふ。十三對一でも四十二對一でも少しも屈せずにサツサと出て行つて仕舞ふ。殊に今年の歷史的大事件として日本が去る廿九日ワシントン條約廢棄の

通知をして仕舞つた。之は米國が此條約を以て世界平和の基礎だと考へて居るものである。それに對して日本は英國も佛國も伊太利も出て行かぬのに唯一人でサッサと廢棄を通知する。一國でも廢棄を通告すれば此條約全體が二年後に無効となるのでありますから、言ひ換へれば日本が此條約を一人で廢棄した事となる。取も直さず日本は國際聯盟を脱退して歐洲各國の御機嫌を悪くし華盛頓條約を廢棄して米國の御機嫌を悪くした。曩にはおまけに所謂天羽聲明によつて東洋に於て支那や英國や米國や露國の御機嫌を悪くした。

茲に於てか、今や日本は世界中の御機嫌を悪くして仕舞つたのである。則ち昭和九年と言ふ年は如何なる年であるか。それは日本は開闢以來世界中から最も憎まれ者になつた其最高峯に達した年である。又一面では昭和九年と云ふ年は日本は開闢以來最も偉らくなつた年である。世界の歴史から見ましても有色人種が白色人種に對して絶對に對等の主張をしたと云ふ事は全く劃期的の大事實であります。今や我々未曾有の面白い時代に出遇ひました。そして未曾有の危險な時代に出遇ひました。之が非常時でなくて何でありましやう。實に愉快なる非常時である。實に光榮ある非常時である。そして實に働き甲斐のある非常時である。

非常時と言へば世間では明年と明後年が非常時だと言つて居る樣だが、それは明年三月が國際聯盟脱退後二ヶ年經過の時である事と明後年がワシントン條約消滅の時であるが、私が見て居る非常時は少し長い。三年前の滿洲事變から始まつて我國紀元二千六百年と言ふ五ヶ年後の紀念すべき年迄つゞく。そして此非常時を突破した紀元二千六百年が我國歴史的の最大隆盛時代になるであらうと言ふ氣がするのである。紀元二千六百年をして眞に國民的祝福の意義あらしめよ。昭和九年は今や將に去らむとす。もう四時間で昭和十年になる。そして紀元二千六百年に一年丈近づいて來る。私は全く子供の樣な氣持になつて此紀元二千六百年にあこがれて居るのであります。

昭和九年に於て更に私が最も嬉しく思つた大事件は海外貿易の進展と我國の産業の發達である。或は日本が世界的に憎まれ者になつた根本原因は外交的や政治的では無くして、其深刻なる根源は寧ろ日本の貿易發展にあるのではないかと思はれる。今日迄は日本と言へば戰さには強いが經濟的には貧弱だ。だから餘り軍備に金を使へば財政が破綻するであらうとは歐米の日本に對する見方であつたと思ふ。然

るに最近の日本産業の發達は中々の實力を示して來て、さう容易に破綻しさうにも無い。却つて益々歐米の産業を壓迫せむとする形勢にある。之が日本の憎まれる根本原因を成して居るかも知れないのである。大摑みに言へば世界の貿易が一九二九年を一〇〇とすれば、過去三ヶ年間は五八となり三九となり三五となつてヂリ〳〵減少して居るに拘らず、日本は五四から六三となり八六となつてヂリ〳〵と登つて居る。現に數日前に發表された十二月廿五日迄の貿易統計によりますと、本年の貿易額が四十三億二千六百萬圓となつて昭和四年の四十三億六千四百萬圓に比して殆んど同額に達しました。

此顯著なる貿易の發達回復、之が外國から見て頭痛の種となつて居ると思ふ。日本の品物は餘り安過ぎる、之は資本家が勞働者を搾取してソーシアル・ダンピングをして居るのであらうと惡口して居たが本年になつて續々と日本産業の視察に來たものが澤山ある。國際聯盟の勞働次長モーレット氏や濠洲外務大臣レーサム氏などが詳しく視察して後西洋人には珍らしく公平な意見を發表して居る。それによると日本の産業の進歩は、第一國民の勤勉と技術の發達、第二勞働者の豐富と生産費の低廉、第三機械の改善と工場管理の能率的なること其他の原因を擧げて居るが、今日では最早日本が勞働者を搾取して不正競爭をして居るなど言はなくなつた。併し何としても日本商品の進出には閉口するので或は高率關稅を課し或は輸入割當制を設くる等有ゆる手段を以て日本商品を妨壓せむとして居るのである。現に日印會商は成立したが日蘭會商は喧嘩分れとなつた。

此貿易戰爭の深刻な事も――昭和九年は最も注目すべき年であつたと思はれる。併し日本は原料に乏しい爲に最近五六年間の統計では何時も輸入超過になつて居る。本年の如きも一層入超が增加して居る。隨つて日本の商品を買はぬと言つても日本は全體から見て賣手よりは買手である。日本の强味は世界の原料で善い品物を安くこしらへる事である。中々今日では容易に日本の産業を壓し潰す譯には行かぬ。顧みれば永い間自由貿易主義を以て世界に雄飛して居た英國が、日印會商に五割高い關稅をかけるなど實に變れば變る世の中である。そして今日日本が唯獨り自由貿易主義を以て善い品物を安く賣らうと言ふのである。昭和九年の此貿易上の現象は是又日本開闢以來の最も注目すべきものであると思ふ。則ち日本は今迄の樣に戰爭にばかり强いのでは無い。商工業上の戰爭にも又世界の最强國の一であることを如實に證明して居るのである。

だから私は重ねて言ふ、昭和九年と言ふ年は我々は半ば意識し半ば意識しない間に日本は世界中の憎まれ者になつた。そして同時に日本は世界中の偉ら者になつた。

實に國際聯盟は日本が脱退してから全く影が薄くなつた。或る歐米の批評家は國際聯盟は各國の辯論倶樂部である、舌があつても齒が無い、喋舌る事は喋舌るが何も嚙み切れないと言ひます。成る程舌があつても齒が無いとは面白い。之がほんとうのはなしにならぬ狀態と言ふのでしやう。イヤ酒落など言つては餘計に憎まれるかも知れない。兎に角日本は最近滿洲事變以來熱河に出兵し、上海に出兵し、滿洲國を承認し、國際聯盟を脱退し、今又華府條約を廢棄し、矢つぎ早にやつてやりぬいた形である。ラグビーで言へばキック又キック、パッス又パッスで進んで來たが、是からは今迄の樣に花々しくは行かぬ。スクラムでもみ合はなくてはならぬ時になりました。肩を組み合はして腰を低くして力强く推し切らなくてはならぬ。則ち國民的スクラム、一致團結して努力奮鬪。肩を組まして腰を低く、そして力强く進まなくてはならぬ。それには特に青年諸君の一大覺悟を望む次第であります。

嗚呼昭和九年は實に眼に立たない破天荒の年であつた。日本は主張すべき事は殆んど主張して仕舞つた形である。今からは地味で行かねばならぬ。之が又一層むづかしい。『滿洲國の健全な發達』、之が又口では言へるが實際は中々に骨が折れる。『世界中の憎まれ者』、之は感情の問題も加はりますから之を緩和する事も容易でない。併し不必要に憎まれて居てはつまらない。强く正しく平和的に自分の正當の權利を主張するだけである事を十分に世界に納得せしめなくてはならぬ。又『貿易の進展』、之は利害關係の衝突が出來るけれども日本は輸入國であるのだから何とか話が付きさうなものだ。要するに何と言つても之からは骨が折れる。日本は天の窟戸の昔、世の中が眞つ暗になつた時でも國民が一致團結して愉快にダンスをして踊つて國難を打開した。我々も此傳說的精神によつて國民一致團結、快活に元氣に此非常時を乘り切りたいと思ひます。此際特に青年諸君の御奮鬪を願ひます。之が私の歲晩の辭であります。

滿洲國皇帝陛下を送り奉る

——子供の時間七分間放送、於熊本——

皆様よく御存じですねー、此度滿洲國の皇帝陛下様が日本の天皇陛下様を御訪ねになりました事を。日本の歴史が初まつてから外國の陛下様が公式に日本にお出でになつた事は此度が始めてゞあります。滿洲の皇帝陛下様は此月の二日の朝新京を御出發になりまして其晩に大連に御着きになり、直ぐに日本の軍艦、比叡に御乘りになりました。翌日の四月三日は神武天皇祭でありましたので、艦の甲板の上で遥拜式がありましたが、陛下も亦恭しく遥かに東の方に向つて禮拜をされました。其時は日本のお附の役人達は何とも言へぬ感激を致しましたさうであります。六日、横濱お着の時は秩父宮様が軍艦迄御迎へに行かれ、東京驛には天皇陛下が親しく御迎へ遊ばされました。

滿洲の天子様も日本の天皇陛下の様にお若くゐらせられます。それで東京驛でお初めての御對面、九日御そろひで觀兵式に御出ましの時は誰しも皆其お元氣な若々しい、御二方の御並びのお姿を拜しまして誠に心丈夫な、申上げ様の無い嬉しさを覺えまして東洋の天地が實に春の若草の萠え出づる様な明るさを感じたのであります。滿洲皇帝は何時も日本の明治天皇様を御手本として居られます。何をなさるにも必ず明治天皇様は斯様な時にはどう遊ばされたかとお尋ねになつてから物事をお定めになられます。そんなに明治天皇様をお敬ひなされて居ますから、それで七日に明治神宮外苑の繪畫館へお出ました。その時は一時間ばかりも居られて御熱心に明治天皇陛下の御一代の事を極めて興味深く御研究遊ばされました。又其日大宮御所に皇太后陛下をお訪ねなされました時には皇太后様はそれは〳〵お優しく御もてなし遊ばされましたさうで、御時間も御豫定よりは長くなり、其夜皇族方を晩餐會にお招ぎになられました時に、滿洲皇帝のお話に『皇太后様が何となくお懷はしくて、お暇乞をする時には後ろ髮を曳かるゝ様な思ひをされた。』とお話になりました。之を聞きました一同は皆有難涙に咽んだと漏れ承ります。又、十日東京市の御招待に歌舞伎座に御出ましの時などは一萬餘の小學生徒が雨の降る中をレインコートで御迎へに致して居ましたので、陛下はひどく感心遊ばされて、滿洲の御附の人達はか程迄に日

本の人達がお小さい人達迄も誠心誠意にお迎へして下さるかと全く感泣されたのであります。御宿になつて居りました赤坂離宮は裏庭傳ひで秩父宮樣の御邸と續いて居ますので始終往き來されましたさうで、全く御兄弟の樣な御附合ひをなされました。天皇陛下の御手厚い御もてなしや國民の熱心な歡迎を心からお喜びになつた陛下は、『なぜもつと早く日本へ來なかつたらう。』と殘念さうに仰せられたさうであります。

陛下は十五日に東京をお發ちになり京都奈良大阪を經て唯今武庫離宮に居らせられます。廿四日には宮島から滿洲へ軍艦でお歸りになられます。どうか皆樣と御一所に陛下が御無事に滿洲にお歸り遊ばす事を神かけてお祈り致したいと思ひます。又陛下此度の我國御訪問を記念と致しまして、これから日本と滿洲が一層親しくなり、日本人と滿洲人がほんとうに兄弟の樣にして仲よくして行きたいと思ひます。お小さい人達は前年皆さんの中から人形使節としてお人形を持つて滿洲に行きました。此度は日本の少年團と同じ滿洲の童子團の子達が日本に來られました。お小さい時から滿洲のお子さん達と仲よしになつて、そして大きくなられたら益々滿洲國と仲よく助け合つてお國の爲に盡しましやう。

健康禮讃の夕

――昭和十年七月三日后七時半、十二分間放送――

今日は實に面白い講演會の日で中々變つた顏觸れで御座いました。斯うやつて聽いて居ますと丸で聲色の共進會の樣で、先づ第一に小學校の生徒さんの可愛いお聲、大層お上手で結構で御座いました。其次が八十三歳の御年寄りの澁味のある錆のあるお聲、其次は先生さんの眞面目なお聲、其次は軍人さんの號令をかける樣な元氣なお聲、其次は從業員の方の緊張したお聲、其次はお母さんの優しいお聲、其次は市長さんの穩やかなお聲、色々のお聲の共進會の樣で、又地方々々の訛りも大分出て居まして誠に面白く拜聽致しました。小さなお子さんのお話では、ラヂオ體操の爲に朝起をする樣になつた、そして面白くて愉快で氣分が爽快になると云ふ、お子樣らしい佳いお話でした。又先生樣はラヂオを通じて毎日父兄會を催して居る樣なもので親達と親密になると云ふ、之も頗る結構なお話でした。又お母さん

のお話に、子供がラヂオを鷄の樣だと言つたとか、子供を先生として自分が生徒となつて教へて貰ふ樣にすると子供も面白く自分も面白い、お腹が空いておかづの小言も言はぬ樣になつたと言ふ面白いお話で御座りました。軍人さんは國民精神作興の助けになると言ふ。從業員の方は身體各部の圓滿なる運動になると言ふ。市長さんはラヂオ體操をやつて居れば自然に市政が圓滿に運行すると言ふ、少しお話が旨過ぎる樣な事を申されました。こんな調子で皆さんのお話を伺つて居ますと、世の中にラヂオ體操程結構な安上りの仕事は無い樣に伺はれます。

丁度御承知の通り昭和六年から此ラジオ體操の會と言ふものを始めて居ますが、初年が延人員三百五十萬人、次の年は一躍二千五百萬人となり、八年には四千四百萬人、九年には六千二百萬人、こんな具合に非常な殖え方でありまして何事でも此調子で行けば實に面白いとつく〳〵思ひます。之が商賣でありましたら、こんなに毎年得意先が殖えて、私も會長として今頃はお金が儲かつて儲かつて困つて仕舞うだらうと思ひます。併し幸にもラヂオ體操は一向にお金になりませぬ。けれども之は眼に見えるお金にならないだけであります。昔から『息災萬貫目』と言ふ諺がありまして、一人が健康になれば一萬圓位の値打がある。さうすると六千二百萬人の健康は如何程の値になるのか、全く計算も出來ぬ程の世界第一の大金持ちであります。私がこんな氣持で居りましても、それは唯氣持だけの事ですから何處からも苦情が出ませぬ。先づこんな氣持でラヂオ體操の會長を勤めて居ます。

一體ラヂオ體操は、どうしてこんな調子に發達して來たのでありましやうか。私などがよく魚釣に出かけますが、魚を釣るにも天候が好くて潮時が好くて風向がよくて水の濁りが好くなければならぬ、と言ふ按排に色々のコンデイションが調はなくてはならぬ。丁度此ラヂオ體操の事を考へて見ますと矢張り大勢の人が喜んで喰ひ付くのは無理は無い。——喰ひ付くと申しましては丸で皆樣をダボ鯊の樣に取扱ひまして相濟みませぬが、皆樣が喜んでラヂオ體操をやつて見やうと云ふ氣分になられるのは、第一ラヂオ體操は面白い。第二にラヂオ體操は誠に容易で覺え易い。第三に老若男女皆自分の身體に相當して適宜に氣樂にやれる。第四に自由に拘束せられずにやれる。そして毎日之をやつて居ますと、丁度唯今皆さんがお話になつた樣な色々の効能があつて、克己心を養ふとか、健康を增進するとか、快活になるとか、協同の精神を養ふとか、實に考へて見れば見る程、こんな樂な仕事でこれ程効能書の澤山ある

仕事は先づ世の中には滅多に無いのであります。

ラヂオ體操の會長を致して居ますと、斯樣な驚ろくべき發達を致しましたのは皆私一人の力で出來たものだと思つて是れ程愉快な事はありませぬ。併し實の事を申しますと此會長ばかりは一體會長であるのか、會長で無いのか、頗るエタイの知れぬものであります。何しろ開會の時に五分間挨拶を放送するだけで會長の任務が終るのであります。私も色々の會長を致して居ますが、ラヂオ體操の會長程競爭者の無い、敵の無い會長はありませぬ。

元來ラヂオ其物は外國から來たものであります。又ラヂオ體操と言ふ事も外國でやつて居る所がある。併しラヂオ體操の會と言ふものは餘り外國に見受けない。それ故ラヂオ體操の會の組織は日本の發明であります。日本人の特徴とも言ふべき事は外國で發明された物は何でも日本に輸入する。そして何か之に工風を加へる。例せば支那の文字を日本に輸入しても、弘法大師が『いろは』四十八文字を作る。元の文字は外國の文字であるけれども之を日本風に工風して仕立直す。ラヂオ體操も元は外國に出來たけれども之を日本風に仕立直してラヂオ體操の會と言ふものが出來た。そして斯樣な長足の進歩をした。斯樣な大々的の會員を持つ會は恐らく世界中にはありますまい。實に痛快な事であります。

そもそも日本が開闢以來何故に今日の如く進歩發達して來たのでありましやうか。之は要するに日本人が團結するからであります。又進歩的な國民であるからであります。今此ラヂオ體操を研究して見ますと、大勢集まつて一つの號令の下に手足を動かすのでありますから自ら團結の精神を養ひます。又先刻八十三歳のお方が、幕府時代では夢にも思はなかつたマイクロフォンと言ふ機械の前でお話が出來ると云はれた樣に、日本人は文明を消化して行く進歩的の國民である。此日本人の特徴である、進歩的で、そして團結的の仕事と言へば、ラヂオ體操が其最も代表的のものであると思ひます。大岩市長さんもラヂオ體操をやれば名古屋の市政が圓滿に運ぶと言はれましたが、私は日本國民性の團結的で進歩的な精神を養成するのは此ラヂオ體操程有効なものは無いと思ひます。まづ是れ位にラヂオ體操を禮讃したいと思ひます。

非常時何物ぞ。ラヂオは叫ぶ一、二、三！　此號令の聲がしつかり世の中に響けば響く程非常時が一時に吹き飛んで仕舞うのであります。此際諸君が一層お元氣に手足を振り舞はされむ事を希望致します。

教育塔の精神

——昭和十一年十月三十日大阪城外大手前廣場ヨリ放送——

（戰死者の靈を祭る爲に招魂社がある如く、教育の爲に一身を犧牲にしたる者の爲に教育塔が設けられたのである。其祭日を十月三十日と定めたのは教育勅語煥發の日を適當と思つたからである。建設地を大阪と定めたのは昭和九年秋の關西風水害の際に於ける遭難教育者の壯烈なる行爲が其動機となつたからである。建設地を大阪と定むるかに就ては猛烈な異論があつた。それは大阪は物質の地であつて精神的の建設物を作るには不適當であるとの理由であつた。然るに教育塔建設後間もなく大阪市中の小學校生徒が毎朝此塔前を清掃する事を初めて、一日も怠らない習慣が出來た。私は切に大阪市民諸君が全國民に率先して教育塔崇敬の範を示されむ事を希望して止まぬ次第である。）

一般參集のお方に一言御挨拶申上げます。

教育塔建設の工事も幸に着々豫定の進捗を告げまして本日其竣工式を行ひ引續き茲に第一回教育祭を擧行するの運となりました事は、我國教育界の劃期的重大意義を有する盛擧でありまして洵に御同慶の次第に存じます。殊に皆樣と共に特に恐懼に堪へませぬ事は、畏くも皇室に於かせられましては此事業に對しまして本年三月十二日御内帑金御下賜の恩命を拜しました事でありまして、全國教育者一同の衷心より感激致す所であります。

御覽の如く、此教育塔は、其土地は大阪城公園大手前廣場の極めて清淨廣濶なる場所であります。其建物は高さ百尺、御影石造の極めて上品な、最も高雅にして、且壯麗なる大塔であります。そして茲に祭らるゝ英靈は、明治五年學制頒布以來教育事業の爲に殉職致されました百三十七名の教職員並に一千四百三十五名の遭難兒童學生でありまして、其範圍は小學より大學に及び、其地域は内地は勿論朝鮮臺灣樺太其他在外者等を包含し、其時期は今後永久に同樣の場合に於ける殉職教員並に遭難生徒に及ぶべきものであります。

惟ふに教育者が其愛護する生徒を救はむが爲に自ら其身を喪ひ、或は其學業の爲に職に仆れたるが如き事は全く武士が戰場に於て花々しく討死したると同一でありまして、其烈々たる教育報國の精神は正

に百世の龜鑑として我々を感激奮起せしめずんば止まぬ所であります。近くは一昨年秋の關西風水害に於ける大阪府下の吉岡訓導、蘆田訓導其他の如き、或は關東大震災に於ける多數殉職教員の如き、又は東京府下の松本訓導の如き、我々は其死に至る迄の實情を審かにすればする程其兒童に對する純潔熱愛の精神、並に其勇敢にして犧牲的なる壯烈の行爲に對し眞に涙なくして之を聽く事が出來ないのであります。或は明治廿九年一月臺灣芝山巖に於ける總督府學務部員楫取氏外數氏の忠烈なる最後の如き、今日尙懦夫をして起たしむるものがあります。其他幾多の教育精神を發揮し師道を發揚せる崇高なる犧牲的行動に對し、我々は眞に心よりして其人を崇敬して深く感謝の誠實を捧ぐると共に、其行爲を龜鑑として益々師道發揚の盟を爲すべきであると信ずるのであります。則ち教育塔の建設は永遠不滅の教育報國の殿堂、換言すれば教育招魂社の建設であつて、教育祭は卽ち師魂を禮讃し師道を發揚する教育的總動員であります。

今や有形的の教育塔は此の如く立派に出來上りました。恐らく今後大阪に來り大阪城を見る程の人は悉く總て此教育塔の前に額づく事を忘れないでありましやう。併し乍ら私の希望する事は決して其有形的の方面ではありませぬ。私は今日を一轉機として教育に從事する人は各々其一人々々の頭の中に、精神的の教育塔を建設せむ事を熟望するものであります。教育者諸君が各々其心中に精神的の教育塔を建設してこそ此有形的の教育塔が始めて其意義を明かにする事が出來るのであります。私の言はむと欲する教育塔精神なるものは、第一は、教育に信念を有し教育を樂しみ、小學教員は唯日本第一の小學教員たる事を終生の理想と考ふる事であります。そして第二は教師は一にも二にも兒童を中心とし生徒を中心とすると云ふ事であります。自己の監督者の意を迎へむとする者は監督者を中心とする者であつて兒童を中心とする者では無い。地方の有力者の意を迎へて自己の榮進を圖らむとする者は有力者を中心とする者であつて兒童を中心とする者では無い。眞の教育者たる者は一にも兒童二にも兒童を中心として兒童の教育薫化を圖るべきである。之が則ち私の心に畫く所の教育塔精神であります。而して第三に教育者をして教育の聖業に一身を捧げしめ、眞に兒童中心の教育に當らしめむとするならば、社會の人も亦十分に此精神を尊重し、教員をして唯兒童を中心とし居れば其他の事に少しも心配する必要が無い樣に仕向けなくてはならぬ。今日地方の有力者と稱する者の中には、動もすれば教員が度々自己の門を

訪問する事を喜び、自己を訪問する度數の多き者を良教員と思ひ、自己に最もよく頭を下げる者を良教員と考ふるが如き態度を示すは、眞に教育者をして卑屈ならしめ劣惡ならしむるのみならず、牽いては自己の子を損ふ事を知らざる行動である。

教育塔は決して物好きに作つたものではない。之をして眞に建設の意義を完からしむるには教育者も社會も共に眞劍にならなくてはならぬ。今日其建設に當つて、皇室より多額の御内帑金を頂戴して私は諸君と共に眞に其責任の重大なる事を思ふのであります。

私の申上げます事は聊か不遠慮に過ぐるかと存じますが、之は私が言ふのでは無い。茲に新たに巍然として立つて居る教育塔の靈が私をしてかく言はしむるのである。願くは其意のある所をお汲み取下さつて共に此教育塔建設の意義を完からしめん事を切望致します。

終に臨んで、諸君が遠來の勞を謝し、併せて特に地元たる大阪府下の各位の特別の御盡瘁に對し深く敬意を表します。

師道に就て

――昭和十年七月廿六日午前七時四十分―八時二十五分放送（小學教員夏季放送講習會）――

（一）

『師は人の模範なり。』と言ふ言葉がある。それは師匠と言はるゝ程の者は其修養に於て其智識に於て人の手本となるべき資格を備ふべきものである事を言つたのである。孟子は『人の患は人の師となるを好むにあり。』と言つて居る。自分の身の至らざるを忘れて自ら好んで人の師匠となるのは他人の迷惑であると共に自分も亦學問の進歩を害するものであると言ふ事である。私が考へますに教育者たるものゝ第一の要件は教育者を艱しとする事である。平たく言へば先生となる事は難づかしい事であると言ふ事が本とうに判るのが先生となる第一の資格である。曩に昭和六年十月三十日東京高等師範學校創立六十周年の際に賜はりましたる勅語に『健全なる國民の養成は一に師表たる者の德化に俟つ。』と仰せられま

した。則ち教育者たる者は國民を德化するの修養を積んだ者で無くてはならぬのであります。私なども現に拓殖大學の學長を致して居ります。自ら顧みて人を德化するだけの修養が出來て居るかと考へて見れば唯々慚汗背に溢るゝを禁ずる事が出來ませぬ。眞に自己の不德を反省して見ます時に、どうして是で人の指導をする資格があらうかと衷心から考へさせられます。毎年何時も卒業式の際に卒業生が答辭を讀む、そして師の恩は海よりも深く山よりも高しと言ふ樣な言葉を聽く度に私は壇上にあつて心中密かに壇下の卒業生一同にお詫を言つて居ります。是等の卒業生が在學中自分は學長として實際今少し善く指導が出來れば良かつたと思ひます。若しも私に教育者としての僅かの資格でもありとすれば、それは私が卒業式に於て卒業生に對し心中にお詫をして居ると言ふ氣持であらうと思ふ。此氣持がせめても の私の教育者たる資格と言ふべきものであらうと思ふ。

右の如く教育者の第一の資格は教育者たる事は難づかしい事であると言ふ事を知る事であります。次に教育者としての第二の資格は教育者たるべきものは『我にあらずして誰ぞや。』と言ふ堅き自信力であります。私は教育者たるべき第一の資格に於て教育者たる事の艱きを知る事であると言ひ、第二の資格に於て『我にあらずして誰ぞや。』と言ふ自信力であると言ふ事は洵に前後矛盾撞着した考の樣であります。併し乍ら苟も人の師表となり人を指導せむとする者は自ら人を指導するだけの見識と信念を持たなくてはならぬ。自ら己れを信ぜざる者にどうして他人が己を信ずる事が出來ましやう。昔から『危ふんで動けば民興せず、懼れて語れば民應ぜず。』と云ふ事がある。自分自身が危ふんだり懼れたりして居る樣では他人が安心して附いて來る者はない。苟も自ら教育者として人を指導せむとする者は自ら信ずる事でなくては語らぬ樣にしなければならぬ。自ら信じて始めて人之を信ずるのである。成る程人の先生となる事は艱い事である。自分は洵に其資格に缺くる所がある。決して完全なものでない。併し乍ら自分が不完全な者だと言つて誰が完全な者であるのか。甲か乙か丙か丁か。彼等は自分よりも尙不完全なものでは無いか。今日小學生徒一千萬人此多數の子弟は多くの教育者を必要とする。自分達が不適任と言つて居ては世の中に適任者が無くなる。之は是非共自ら奮つて起たなくてはならぬ。

此の如く自ら勵まして確信を以て元氣を出して進まなくてはならぬ。親鸞上人は自分自ら愚禿親鸞と言つた。而も道を信ずる事の厚き、流罪の刑に遇ふても悔ゆる所なく確信を以て人を導いた。凡そ道を

說くに當つて、自分は神聖なる道の權化である、自分の言葉は神樣の言葉である、と言ふ信念に立たなくてはならぬ。教育が神聖であるならば教育を說く瞬間は、之を說く所の自分が神聖であると考へなくてはならぬ。私が何時も青年に話をする事であるが、東洋では『三人行けば必ず我師あり。』と言ふけれども、獨逸の諺には『三人居れば必ず一人の馬鹿が居る。WO DREI SIND, MUSS EINER DER NARR SEIN.』と言ふのがある。自分よりも賢こい人が多いから之に倣つて勉强せよと勵ますのも一つの奬勵法ではあるが、更に又世の中には馬鹿が澤山ある、之よりも自分は劣る筈が無いと思つて自ら勵ますのも亦一つの奬勵法である。教育者諸君に斯樣な諺を申上げるのは適切では無いかも知れませぬが、人間は自分は決して棄てた者では無い、自分には神樣から給はつた天分がある、之を磨いて行けば決して他人に劣るものでは無い、と言ふ自信力が無くては駄目である。私は特に教育者諸君に對して此努力と此自信力を旺盛ならしめむ事を希望致します。

（二）

凡そ人には其職分があります。現在の職分に忠實なる事が各人の崇高の道德であります。故に小學校教員は小學校教員たる職分に忠實でなくてはならぬ。小學教員でありながら中學教員の檢定試驗を受くるが爲に授業を等閑にするが如きは決して職分に忠實なる者ではありませぬ。小學校教員の最も尊ぶべき資格は日本一の小學校教員たる事を志す人であります。決して中學校の先生たる事を志す人ではありませぬ。英國の海軍は世界一と言はれて居ます。サンドン卿が嘗て英國の水兵に言つた。『世に第一流の英國水夫たるよりも光榮なる事なし。』英國第一と言はれるのはネルソンの樣な大將が澤山居るからではありませぬ。第一流の水兵が澤山居るからであります。ネルソンがトラファルガーの戰に有名な信號を揭げた。『英國は各人其職分を盡さむ事を期待す。』Dutyを盡せよ。——今や日本の現在は『日本は各小學教員各其職分を盡さむ事を期待』して居るのである。自己の現在の職務に忠實なる事、是れ則ち我國小學教員の振興する根本義であります。實に小學校教員たる者は『世に第一流の小學教員たるより光榮ある事なし。』との信念を抱かなくてはならぬ。小學校教員をして此信念を抱かしむるには二つの方面が注意されなくてはならぬ。第一は社會の方面である。社會が小學校教員を尊敬し、又小學校教員

を優遇し、精神的にも物質的にも安んじて一生を小學教育に捧げて悔ゆる事なき樣に仕向けるべきである。又第二は教育者の方面である。教育者が其天職を樂しみ側眼もふらずに誠心誠意努力精勵するならば、社會も亦其誠意に動かされ之を棄てゝ置かぬと言ふ樣になつて來るのである。此點に關して私は何時もソクラテスの言つた事を思ひ出す。ソクラテスは『人各其志す所に從ひ完全の域に到らむ事を勉むべし。故に大工は一流の大工たる事を努むべく政治家は一流の政治家たる事を努むべし。優秀なる大工は單に木を削る事に於てのみにても優に月桂冠を受くるの價値あり。』と言つて居る。之は主として各人は其天職を尊ぶべきを說いたものである。私はロンドンのウエストミンスター・アベーを見、又他の國の名譽墓地などを見て、頗る感動させられたのである。英國に於ては死してウエストミンスター・アベーに葬らるゝ事を人生の最大名譽と考へられて居る。其所には政治家も軍人も藝術家で文學者も技術家も發明者も凡て皆同一に取扱はれ、苟も一國民の尊敬を受くるに足る人は爵位勳等など言ふ社會的地位に支配さるゝ事なく同一に之を表彰するの方法が設けられてある。此の如くにして始めて職業は神聖なりとの信念を助長する事が出來るのである。一流の小學校長は二流三流の知事に優ると言ふ信念ありてこそ初めて小學校長は尊いのである。下手な俳優は殿樣になる。上手な俳優は家來になる。社會的地位と人格の價値とは必ずしも一致しない。私は豫てより日本にもウエストミンスター・アベーの如くに名譽墓地を作りたいと希望するのは、之によつて幾分にても世人が人爵よりも天爵を重んじ、其心事を高潔にし其民族の志操を高尙ならしめたいと思ふからである。少し話が側道へ外れたが、要するに『世に第一流の小學教員たるより光榮なる事なし。』と言ふ信念を小學校教員諸君に持つて貰ひたいのであります。此信念が出來れば日本の小學教育は世界第一の小學教育となる事毫も疑なき所である。

（三）

次に教育者の心境に就て考へて見る。孟子曰く、『天下の英材を得て之を教育するは三の樂なり。』則ち教育と言ふものは實に趣味津々たる樂みがある。孟子は天下に最も樂しき事の三つを數へて其中の一を教育であると言つた。然らば教育と言ふものは如何なる點が樂しいのであらうか。或る老教育家が嘗て言つた。『自分の教へ子が出世して偉い人間になり、それでも相變らず昔を忘れないで先生々々と尊敬

して吳れて色々と自分を歡迎して吳れる。之は教育者にあらずんば味ふ事の出來ない愉快な事である。』成る程其通りに相違ない。たしかに自分の教へ子が出世したのを見るのは自分が出世した樣な氣になつて嬉しいものである。又此出世した教へ子が衷心から昔の儘の生徒の氣分で自分を尊敬して吳れるのも亦何となく他人に自慢してやりたい樣な痛快味を覺ゆるものである。併し乍ら教育の眞の樂みと言ふものは、そんな結果を見る事が樂しいのでは無い。其結果に達する道中が樂しいのである。言ひ換ゆれば卒業後に出世したのを見るのが樂しいのでは無く、在學中の學業の進歩して行く其日々々が樂しいのである。此點は頗る大切な所である。

私は魚を釣る事が道樂である。試みに魚釣を教育に譬へて見る。魚釣の樂しみは魚を釣つて之を食ふのが樂みでは無い。若し食ふ事を目的とするならば、何も費用を使ひ時間を費して魚釣に出かける必要は無い。出入の魚屋から買へば、どれ程安いかも知れない。又魚釣の多くの人は自分の釣つた魚を食ふ事を左程好まないものである。之を以て見ても魚釣の樂みと言ふものは其結果では無い。結果に達する迄の道中が樂しいのである。釣場所を研究したり、釣道具を研究したり、釣る時刻を研究したり、餌を研究したり、他人から之を見れば最も面倒臭くて苦痛と思はるゝ事も釣師にとつては愉快であつて、其苦心する事が面白いのである。今かの老教育家の如くに自分の教へ子が出世をして後に自分を優遇して吳れるのが嬉しいと言ふが如きは、恰も釣師が其釣つた魚を調理して食ふのが樂しいと言ふが如きものであつて、寧ろ其心事が卑しいと言はざるを得ない。之で眞に其道を樂しむものとは言へないのである。

私は嘗て教育者の心境を菊作りに比較して說明した事がある。蕪村の俳句に、

菊作り　汝は菊の奴かな

と言ふのがある。之は菊を作る人は一年中菊の世話をする。多は土壤を作る事を研究する。春になれば苗を根分する。夏になれば水をやる事、芽を摘む事、施肥をする事、秋になれば蕾から花迄の日々の世話をする。全く一年中菊の奴隸となつた樣に菊に自分が追ひ使はるゝ樣になつて世話をする。蕪村が其光景を面白がつて之を嘲笑して『菊作り汝は菊の奴かな』と言つたのである。之を嘲笑するが如くにして其實菊作りの夢中になつて居る態度を面白しと打興じたのである。然らば實際菊作りは菊の奴隸の如き狀態に對して自分が不平に思ひ苦痛に思ひ情けなく思つて悲觀して居るかと言ふに決してさうでは

無い。却つて菊作りは其菊の奴隷の如き境遇が面白くてたまらないのである。他人から見て苦痛に思はるゝ毎日々々の菊の手入が何とも言へない樂しいのである。之が菊作りの心事である。だから教育者も亦其道を樂しむ事恰も菊作りが菊の奴隷たるを樂しむが如くでなくてはならぬ。教育者ならば兒童の奴隷の如くにならねばならぬ。『教育者、君は兒童の奴かな』であらねばならぬ。そして其兒童の奴たる事が此上もなく愉快でたまらぬと言ふ氣持でなくてはならぬ。此の如くして眞に教育を樂しむ者の心境と言ふ事が出來る。未來の報酬を期待すると言ふ事は寧ろ卑しむべき考へである。未來の美くしい花の咲くのを樂しむと言ふ事もまだ眞ン物では無い。現在の苦勞の其日其日が樂しみであつて初めて眞の教育者の心境と言ふべきである。

之を宗教的に考へて『神樣の生んだ物の自然の發育を助ける行爲は尊とき行爲である。』私は教育者も亦此信念に眼覺むる事を希望する。繰返して言ひますと神樣の生んだ物は神樣の惠みによつて自然に發育する。之を助けて何等の障害なく自然の儘に益々發育する樣に外から手傳つてやる事業は、則ち神樣の御心持に叶つた行爲であつて最も尊とい行爲である。一つの植物を作つても世話をすればする程其結果が日に〳〵現はれて樂しい。菊の苗が一日一日に育つて莖は太く葉の色は濃く背は高くなつて行くのを見るのは日々の樂しみである。之は神樣の生んだ物の自然の發育を助ける高尚な行爲である。之に依つて觀ると一つの植物を作つても其日々々の發育を見るのが樂しい。況んや萬物の靈長と言はるゝ人の子の自然に發育するのを助長する教育事業と言ふものは、他に比べ物の無い程高尚な尊とい事業と言はねばならぬ。兒童が其日々々に智惠が付いて行く、身體が大きく丈夫になる、之を見て居るのは此上もなく樂しいものでなくてはならぬ。孟子が天下の英材を得て之を教育するは三の樂なりと言つたのは英材が他日大事業を成すのを見るのが樂しみであると言ふ意味ではあるまい。英雄の卵が現在其日其日に智識才力が發達して行く、それを見るのが樂しいのである。將來最もよい花を開く素質ある植物を育てる樣に、將來大事業を成すべき英材を育てる、之が樂しいと言ふ所以である。私は嘗て『菊作り菊咲き初めて顧ず』と言ふ句を作つた事がある。それは菊作りは菊の咲く前迄は中々に世話が燒けて苦勞が多い。其苦勞の多い時は一生懸命に菊の爲に世話をする。之が菊作りには最も樂しいのである。然るに菊が咲き初める頃となつては今迄の樣な苦心の必要が無くなる。さうなると菊作りは面白味が無くな

つて却つて菊の方へは見向かなくなると言ふのである。隨分理屈に合はぬ樣ではあるが、それが却つて眞の菊作りの心理狀態である。之は恰も子供を育てるのに最も世話の燒ける間は最も可愛いがるけれども、子供が大きくなつて仕舞へば却つて疎遠になるのと同じ道理である。此心理を考へて見ても其結果を樂しむと言ふのは眞に道を樂しむ者の態度では無い。其結果に達せない道中の最も苦勞の多い其日其日が却つて最も樂しいと言ふ氣持が眞實に道を樂しむ者の氣持である。碧巖錄にも『日日是好日』と言ふ事がある。其日其日が樂しい、兒童の奴である事が樂しい、是が教育者の心境である。

（四）

次に教育者の注意すべき事は教育者は何處迄も兒童の奴でなくてはならぬ。兒童が主人公で先生が奴である。先生は兒童を扶けて兒童を有の儘に育つべきである。先生は決して兒童を第二の自己に育つべきものでは無い。自分の樣な者を二人も作つてはいけない。神樣は凡ての者に特徴を授けて生んである。それ故教育者は必ず兒童の特徴を其儘に發達せしむべきものである。若し教育者が此心得を忘却して兒童をして第二の自己たらしめむとするならば、是れ兒童の個性を破壞するものである。是れ教育の眞の意義を忘るゝものである。神樣の生んだ者を破壞するの罪實に重大なりと言はねばならぬ。此意義を說明する爲に、私は次の二つの格言を引用して見る。其一は禮記に『敎也者長レ善而救二其失一者也』。と言ふのがあります。則ち教育と言ふものは各兒童が生れ付いて自然に持つて居る美點長所を發達せしめて其短所缺點を補つて行くものである。斯う言ふ風に神樣の生んだ物の自然の發育を助成して行く。其長所を益々伸ばさしめて其短所は之を補つて行く事が敎育の眼目であると言ふのである。長所を積極的に伸ばさしめて短所を消極的に補つて行く。此の如くにして兒童は各々其特徴を發揮して其自己存在の意義が明かになるのである。

其二の格言は呂子に『凡學非二能益一之也、達二天性一也、能全二天之所レ生而勿レ敗レ之可レ謂二善學者一矣。』と言ふのがある。之は凡そ學ぶと言ふ事は外から持つて來てくつ付けるものでは無い。自分の持つて居る天分を發達せしむるものである。能く神樣の生み付けてある性格を完全に發達せしめて之を打壞はす樣な事の無い樣にするのが善く學ぶ者と言ふべきである、と言ふ意味である。私は此二つの格言を味つて

見て教育の眞の意義は全く各人の個性を發達せしめるにある事を知つた。則ち教育と言ふものは瓜には成るべく立派な瓜を實らす事を勉め、茄子には成るべく佳い茄子を作る事を勉むるのであつて、決して瓜の蔓に茄子を實らせたり、茄子の枝に瓜を實らす樣な無理をしたりするものでは無いと言ふ事である。『神樣の生んだ者を其儘に育てる。』平凡な樣だが味ふべき戒めであると思はれる。

（五）

私は嘗て小學教育を富士山に譬へた事がある。富士山は遠方から離れて見る程高い事がわかるのである。白扇倒しまに懸る東海の天と謳はるゝ程に秀麗な靈山である。併し乍ら之に登山する人の一歩一歩の實際を見ると火山灰のがさ〳〵した塊りで最も醜い山である。之と同じく小學教育は離れて之を觀察すれば實に高尚な仕事であつて國家の百般の基礎は教育に出發するのである。英國が那翁に勝つた原因は英國の學校の運動場にあると迄言はれるのである。併し乍ら足一たび教育の實際には入つて其一歩一歩を見る時は毎日喧々囂々の鼻垂れ小僧の耳を聾するばかりの騷がしい塵ほこりの中に一日を暮すのである。外から見る眼と實際とは斯樣に違ふのである。富岳の秀麗を讃美するが如くに教育の神聖を讃美する人は、須らく教育者の其日其日の勞苦に對して滿腔の感謝を表して貰ひたいのである。

教育者は社會的に見て誠に地味な仕事で少しも派手々〳〵しくは無い。そして世間が教育者を責める事は甚だ酷であつて、僅かの過失も教育者にあるまじき所爲として極めて嚴重な制裁を受ける。飜つて教育者から社會を見ると、滔々たる社會の惡風は常に學校教育の效果を根本から破壞して居る。私が嘗て聞いた。某前大臣は如何に賴まれても決して小學校の額は書かぬ。そして言ふ、『我々政治家は何時も虛言を言つて居る。到底小學校の講堂に額を書く資格が無い。』今日こんな正直な事を言ふ政治家は實際少ない。今日の政治家中誰が果して教育者に對して道德を說き訓示を爲すの資格があるであらうか。斯く考へて來る時教育者には滿腔の不平が湧いて來る。併し乍ら此點に就て我々の戒むべき事は教育者は人を懼れずして天を懼るゝ事である。我に訓示をする人間は實に御粗末な人間である。併し乍ら我々は其人を批判してはならない。我々の對象は人にあらずして天である。我々は天を懼れなくてはならぬ。世人が教育者に對して責むる事の酷なるは、矢張り教育を神聖なりとし教育者を高潔なりとする信賴の

深きものとして之を喜ぶの態度に出でなくてはならぬ。

私は最後に社會から見た教育者に就て一言教育者諸君に苦言を呈したい。

第一、教育者中往々にして兒童の奴となる事を忘れて有力者の奴となつて居る者がある。有力者は又校長が自分の御機嫌を取りに家庭を訪問する度數を計算して其度數の多き者を良校長と考へて居る者がある。此の如き教育者と此の如き地方の有力者では學校教育が發達する道理がない。

第二、教育者中往々にして偏狹なる考を抱き陰險にして人を讒侮中傷する事を好む者がある。地方官の經驗より見れば教育者程投書癖の多い者は無い樣である。互に仲間の惡口を投書する。是れ最も戒むべきものと言はねばならぬ。

第三、教育者は往々にして學校閥を作り、地方閥を作り互に相排擠して爭鬪の絶間なき感がある。此傾向は或は他の社會よりも一層露骨で深刻であるかの如く思はれる。

第四、地方官の眼から見ると教員と僧侶とは最も常識に遠くして且世間に通用せざる理屈を並べ、そして其心事が必ずしも高潔で無い事が尠なくない。

以上は社會から見た教育者に對する卒直なる批評である。之を一片の惡評と考へないで深く自ら反省して此の如き謗を招かざる樣に注意して貰ひたい。

我々は社會に對して要求すべき多くのものを持つて居る。併し乍ら之と同時に社會が教育者に對して要求する多くのものを持つて居る事を知らねばならぬ。私などは一面教育者の仲間としての責任がある。そして一面地方官であつたり市長であつたり教育會長であつたりして批評的の立場をも持つて居る。教育者としては自ら顧みて慚愧の事のみ多い。決して自分の失敗や不行屆を棚に上げて唯他人を責める樣な氣分にはなれない。併し乍ら互に自ら反省して以て此神聖にして高尚なる事業の信用を高め社會の期待に副ひたいと思ふのである。

以上は從來私が種々の機會に述べた事と重複する點が少なくないが、玆に平素の愚見を繰返して皆樣の御參考に致したいと思ひます。

世界教育會議に就て

——昭和十一年八月三日午后七時三十分J・O・A・Kより全國放送（帝國教育會長として）——

明年八月二日から一週間東京で第七回世界教育會議が開かれます。そして世界各國から學校の先生や學者達が一千人程集まつて來る豫定になつて居ります。何しろ世界各國の加盟團體が百五十以上もありますから、殊に米國からは特別の船を仕立てて乘込むなどと言つて來ますので、實際千人以上にもなるのではないかと今から恐れを抱いて居ます。今日迄日本で開かれました國際會議で外國から澤山のお客を迎へましたのが、大正十五年の汎太平洋學術會議に約二百人、昭和九年の萬國赤十字會議が二百六十人、昭和四年の萬國工業會議が一番多數で四百六十人でありました。それ故一千人以上も外國のお客を迎へると言ふ事は全く我國では未曾有の事で、實は其準備に就て今から非常に苦心して居る次第であります。

世界教育會議と言ふものは、どんな會議をするものであるかと申しますると、世界各國の教育者が集まつて互に教育問題を研究し、教育を通じて國民と國民との間の親善を圖り、相互の誤解を防いで世界平和の爲に貢献すると言ふ極めて高尚なる使命を持つて生れた會議であります。

然らば世界教育會議は誰が開くのであるか、誰が主催者であるかと申しますると、それは世界聯合教育會（The World Federation of Education Associations.）と言ふのが主催者であります。此世界聯合教育會は唯今本部が米國にあります。會長は現今コロンビア大學のポール・モンロー氏であります。副會長が三人あつて私が其一人であります。私も何時の間にか世界聯合教育會副會長と言ふ長い肩書が一つ殖えて居るのです。此會は世界各國の教育會とか教員會とか言つたものが會員であつて、所謂團體會員であります。帝國教育會も亦會員の一人でありまして、此の如き團體會員が百五十ある次第であります。言ひ換へて見ますと、世界聯合教育會と言ふ會が主催者となつて、日本の東京で第七回世界教育會議を開くと言ふ事です。隨つて東京は唯場所を貸してやると言ふだけであつて、帝國教育會は主催者ではなくして一會員としての參加者であります。其關係は丁度今回決定しました第十二回國際オリンピ

ツク大會が日本で開かれると言ふのと同じ筋合になつて居ます。

オリンピックは四年毎に開會する事になつて居ますが、世界教育會議は二年毎に開會致します。そして明年は第七回であります。此會議の沿革を申しますと一九二三年に米國で創立會議を開き、其後第一回は英國、第二回はカナダ、第三回はスイス、第四回は米國、第五回はアイルランド、第六回は英國と、二年毎に開會されて參りまして、そして第七回が明年日本で開かれると言ふ次第であります。日本も段々世界に於ける國際間の地位が上つて來るにつれて、オリンピックとか世界教育會議とか言ふ國際的の會合が多くなつて來まして洵に結構ではありますが、地位が向上するにつれまして、それに相當する品格や態度も亦立派にならなければならぬのであります。

世界教育會議ではどんな内容を持つ相談が開かれるかと申しますると、それは大分專門的になつて凡そ二十種の部門に分れて居ます。初等教育・大學教育・商業教育・技藝教育と言つた樣に種々な部門がありますが、各部會にはそれぞれ委員長がありまして、此委員長は日本人では地理教育部の委員長に東京帝大の加藤博士、映畫教育部の委員長に文部省の水野社會教育官などがあり、其他の委員長は皆外國人でありますが、其中には皆さん御承知の前英國首相マクドナルド氏の令孃も『家庭及學校部』と言ふ部の委員長になつて居られます。

教育會議は此の如く各專門に就て二十も部門が分れて研究討議されるのでありますから、其結果が我國教育社會に貢献する稗益は頗る絶大である事は申す迄もありませぬ。併し乍ら私の考へて居ります事は、此の如く世界各國から一千名餘と言ふ大多數の教育者が我國に集るのでありますから、此絶好の機會を活用して單に教育事業の研究に止まらず、進んで我日本の文化を此先生達に十分に認識せしめ、我日本民族の卓越せる道德、優秀なる藝術、高雅なる趣味等を十分に理解せしめたいのであります。若し彼等が我日本民族の此優秀なる性格を誤りなく理解して歸るならば彼等は疑もなく我日本の此上もなき同情者となるに相違ないと思ふのであります。

誰しも一度歐米を巡遊して見ますと直ぐに氣の附く事は、外國人は腹の立つ程日本の事を知つて居ない事であります。そして大多數の民衆は矢張り日本の文化は非常に低いものと思つて居る。それ故日本では今日でも雨が降れば東京の人でも蓑笠を着るものと思つて居て、蓑笠の事をジャパニーズ・レイン

コートと言ひます。又旅行の時は今も尙駕籠に擔がれるものと思つたり、甚だしきは日本に汽車があるか、電話があるか、ラヂオがあるかと言ふ問を發する位である。私は淡路島の生れでありますが、よく東京の人が淡路島に米が取れるかとか、自動車があるかとか、野球の出來る廣場があるかなど訊かれて憤慨した事があります。三十萬石も上等の淡路米が取れる事を申しますと驚く人が今でも少くありませぬ。これと同じ樣な事で外國人は實際日本の事を知らない。極端に知らない。數年前布哇から第二世が母國を訪問した時に私が彼等の日本訪問の第一印象を聞いて見た。すると十七八歳ばかりの青年が日本へ來て驚いたのは日本が廣い事です。『日本はホノル、よりも廣い。』と言つて驚いて居た。全くあきれて腹も立てられないと言ふ始末であります。唯今鐵道省の觀光局で米國の女教員十五名を招待して日本を觀光せしめて居ます。此人達は十分に教養のある米國のハイスクールなどの先生達であります。然るに日本に來て何を見せても唯々『驚いた驚いた、ワンダフル〳〵』と言ひ續けて居ます。殊に小學校の建築の立派な事には全くビツクリして居た樣であります。私が一夕此米國の女教員達の招待會を開きまして、次の樣な事を申しました。

『皆さんは廣い〳〵亞米利加に生れて始めて日本へ來られたから、定めて日本は狹いと思ひ、小さいと思はれるでありましやう。併し乍ら私が玆に申上げたい事は亞米利加は廣い。そして日本は深いと言ふ事であります。日本の狹い事は外國人の誰にでも直ぐお判りになります。併し日本の深い事は教育のある人でなくては判りません。私は皆さんに希望する事は、皆さんの樣な教養のある方は出來得る限り日本の深さをよく量つて歸られたいのであります。今から皆さんが日本の各地を廻られる時に、何時も日本の深さを量ると言ふ眼を持つて廻られたいと思ひます。』

と斯樣な話をしたのです。そして其次にこんな事を申しました。

『日本には棚橋絢子さんと申します今年九十八歳になる婦人の女學校長がありまして中々お達者で毎日生徒を教へられて居ます。皆さんの御年は幾何か存じませぬが多分棚橋さんよりはお若いと思ひます。此度日本を御訪問なされてお歸りになれば皆さんは必ず長生をなさるに相違ないと存じます。』

と話してやりました。すると米國の女先生達は大いに喜んで居ました。矢張り亞米利加人も長生をしたいものと見えます。

皆さん此の如く鐵道省の觀光局が莫大の費用を作つて亞米利加の女の先生十五名を何故に招待したと思ひますか。それは外國人に日本の眞相と日本人の性質や趣味を善く知らせたい。手短かに言へば日本の價値を宣傳したいと言ふ事なのです。外國では宣傳省などと言ふ一省があつて宣傳大臣が出來て居る所もある位です。然るに日本は生れ附いて宣傳が下手です。外國人は人に物をやる時分にも、『これは善い物だから差上げます。これは旨いから差上げます。』と挨拶します。然るに日本人は必ず『これはお粗末ながら差上げます。』と言ひます。そんなに自分がお粗末だと思へば差上げなくてもよい道理です。こんな風に日本人の習慣として元來から宣傳が下手です。偶々宣傳をする時は多くは逆宣傳になつて仕舞つて、嘘が言へない。宣傳が下手なのが日本人の特徴です。だから外國人には決して日本人の所謂『遠慮する』と言ふ意味がわからない。『沈默は承認なり。』と思つて居る。然るに日本人は多くの場合に沈默は不承諾であります。默つて居て直ぐに戰爭に訴へる。故に日本人は陰險だ、好戰國民だと言つた樣な誤解を與へます。實に日本人の此遠慮深い宣傳下手の性質がどれ程國際の交際上不必要に敵を作り、損を招いて居るか知れないのです。然るに此度圖らずも對外宣傳には又と得難い程の絶好のチヤンスが今回出來て來た。それが卽ち明年の世界教育會議であります。

第一に集まる人が一千人と言ふ多數であるから宣傳の價値も大きい。第二に集まる人が教育家であるから宣傳價値が百パーセントある。第三に學校の先生であるから次のゼネレーションに迄日本を理解せしむる爲に最も有効である。第四に教育者を通じての宣傳は利害衝突と言ふ樣な事がないから惡い副作用を伴ふ心配は無い。斯樣に考へて來ますと來年の世界教育會議は教育事業固有の發達の爲にも教育社會に貢獻する事の偉大なるは勿論でありますが、實際の價値は寧ろ其副作用たる『日本の對外宣傳』と言ふ事にあると思ひます。今回鐵道省が態々十五名の教育者を招待して迄も日本を宣傳しようとして居る。それが來年は一千名の多數の人達が自ら進んで向ふから來ると言ふのですから、これを利用しこれを善用する事は國家的に考へても頗る意味深いものであると思ふのであります。

前六回外國で行はれた際も各國は皆それ〳〵非常に出席者を優待して各種の便宜を圖つて其國を宣傳し、其國に好感を持たしめる樣に非常に苦心して居ます。我帝國教育會でも本年一月から帝國教育會內に第七回世界教育會議日本事務局を設立し、大島正德氏を事務總長とし文部省・外務省・鐵道省を始め、

民間諸團體の實際の經驗ある十名の諸君に總務委員を依囑し日米協會の小松隆　君などに特にお骨折を願つて居ます。目下は唯内面的の準備工作中でありますが、それには隨分眼に見えぬ事に費用がかゝり、人に話せない樣な事に苦心がいります。一例を申し上げますと、此度の一千名の中には澤山の女の教員の方が來ます。然るに會場に充てゝある東京帝國大學の講堂には婦人の便所が無い。これにはハタと閉口して居るのであります。妙な事迄白狀して相濟みませぬが、實際中々其準備に對する苦心が容易では無いのであります。

世界の教育者諸君に、何を見せ、何所を案内したら善いか、これも亦苦勞の種であります。教育者だからと言つて學校や圖書館ばかりを見せたのでは全くつまらないと思つて居ます。日本固有の生花・茶の湯、又は美術工藝・日本の庭園・歌舞伎・能樂の類、又日本の武道として劍道・柔道の類、民衆體育のラヂオ體操、それから日本の工場、工業の施設などを見せて日本の科學の發達を知らしめ、日本の工場勞働者が果して現今商賣敵の外國人が言ふ樣な奴隷的に搾取されて居るか否かを見せるなどが、最も必要で且有意義ではないかと考へて居る次第であります。先に申しました米國の女教員の副團長格のウエスト女史などは、來年の會議の前に先づ日本の文化に就て豫備講習會を開いてほしいなどと熱心に希望して居ます。

皆さん第十二回國際オリンピック大會も愈々四年の後に日本で開かれる事になりました。これはスポーツを通じて日本を紹介する絶好の機會であります。明年の世界教育會議が又教育を通じて日本を世界に宣傳する絶好の機會であります。即ちオリンピックは廣く日本を宣傳する好機會であり、世界教育會議は深く日本を宣傳する好機會であります。深く日本を宣傳するには此世界教育會議程絶好の機會は無いのであります。だからこれを日本の教育社會だけの仕事と考へず、商工業其他一般人の十分の御協力と御援助を希望して止まぬ次第であります。

樺太施政三十年

——昭和十一年八月廿三日后七時半、十分間放送——

本日は樺太廳施政三十年の記念日であります。樺太は皆様も御承知の通り北海道の北にある細長い島で、北の半分は露領であつて南の半分北緯五十度以南が日本の領土であります。面積は三萬六千平方粁でありますから、臺灣よりは稍大きいのであります。

樺太は今から三百年前に豐臣秀吉が蝦夷松前の藩主松前慶廣に對して蝦夷の土地を支配する事を許したので、松前氏が其後樺太探險を試みてから日本の領土となつて居たのです。然るに幕府の末に露國が東方に進出して樺太迄押かけて來たので屢々國境問題で紛爭が起きました。そして遂に明治八年に千島樺太交換條約が結ばれまして千島は日本のものとなつたが、樺太は遂に露領となつて仕舞つたのであります。然るに明治三十八年日露戰爭の結果ポーツマウス條約によつて、元通りに樺太の南半分は日本の

領土となつて回復されたのでありまして、爾來樺太廳設置以後猶三十年を經過したのであります。

此三十年間の樺太の發達は實に著しいものでありまして、當時一萬二千の人口が唯今は三十三萬餘となつて約二十七倍となりました。又財政も百二十萬圓から三千三百萬圓となつても之も二十七倍となりました。唯今では林産・水産・礦産など生産の合計が年々一億二三千萬圓となつて居ます。材木から出來るパルプだけの價格でも六千五百萬圓以上となつて居ます。紙を造る製紙業の方面から云ひますと樺太は日本のパルプの約八割迄も供給して居ます。

樺太は右の如くに歷史的に考へても又産業上から考へても大切な日本の領土であります。それ故に此土地を可愛がつて此土地を十分に發達せしめて利用する事が我々日本人が祖先に對し又子孫に對する義務であります。何と言つても臺灣より廣い面積がある。臺灣には五百二十萬の人口があるが樺太は三十三萬しかない。將來百萬人位の人は樺太に十分住居が出來るものと考へられます。樺太にはアイヌ人が千五百人露西亞人が二百人位しか居りません。あとは全部日本人でありますから全く內地と同樣であります。此點は全く朝鮮や臺灣とは事情が違つて居ます。皆樣御承知の通り日本の內地では土地が狹いの

に人口が最近五ヶ年に年々九十六萬人宛增加して居ります。樺太にはまだ〳〵五六十萬人は生活出來るのでありますから、此土地を大切にし此土地を發達利用する事を考へなければなりませぬ。然るに從來往々内地の人は樺太を粗末に取扱つて、樺太では材木が澤山あるから之を切り仆して使へるだけは使つて仕舞つたらば跡は野となれ山となれと云ふ樣な考へ方をする人が見受けられます。之は大きな了見違ひであります。日本の樣な狹い土地に生れては少しでも利用し發達せしめ得べき土地は之を大切に取扱はなくてはなりませぬ。此天與の財産を粗末にする樣な考へ方を持つて居る人間は必ず神樣から見棄てられます。我々は道德的信念からしても樺太を粗末に考へてはなりませぬ。それ故今日では樺太へ木を伐りに行く人は歡迎しませぬ。木を切つた跡に造林をする人を歡迎します。跡を開墾する人を歡迎します。言ひ換へますと、出稼人を歡迎せない。永住して樺太を愛し樺太の土となる人を歡迎します。

樺太の材木は三十年前は二十億石もあつたと言はれますが、それは現在では七億石程になつて居ます。之を一時に切り仆して無くなつて仕舞ふ樣な事をせないで、造林をして輪伐して永久に材木を切る事の出來る樣に今日では伐木の大方針が樺太廳で確立されて居ます。そして最も喜ぶべき事は樺太島民諸君が近時愛林思想が非常に發達して、從來の樣な山火事を度々起さない樣に消防の組織等も完成して居ります。此精神、此心がけが將來の樺太を生かすのであります。樺太は樺太を愛する人によつて生きるのである。樺太の將來は林業の永久的作業、農業の振興、礦業の發達等によつて輝やかしい希望を抱かれます。又將來に於ては北部樺太との經濟的交渉の進展をも期待致されます。我々當局者としては將來樺太の文化の發達、交通機關の整備等に對しても十分に努力したい。併し乍ら何と言つても樺太を愛する人、樺太の土となる人、樺太に子々孫々永住する人達の眞面目な勤勉な活動が第一であります。

顧みれば樺太施政三十年の發達は實に素晴らしいものでありました。將來の樺太も亦最も輝やかしい希望に燃えて居ます。併し乍らそれは決して出稼人によつて發達するものでは無くして、眞に樺太を愛する樺太人によつて始めて發達するものである事を信ずるのであります。

茲に樺太廳施政三十年の記念日に當りまして、過去に於ける樺太發達の爲に努力した人々に厚く感謝の意を表し、併せて島民諸君が今後益々樺太を愛し、山林を愛し、層一層樺太の發達に貢獻せられむ事を祈りまして私の御挨拶を終ります。

滿洲移民に就て

――昭和十一年九月十一日后七時半――

來る九月十八日は皆様も御承知の通り、滿洲事變の第五回目の記念日であります。此過去五ヶ年間の滿洲國の進歩發達は實に顯著なるものであります。第一に滿洲の治安は我忠勇なる軍隊の力によつて十分に維持されまして、五年前は匪賊が三十萬もあると言はれたのが今日では二萬に足らぬものとなり、財政狀態も二億二千萬の歳入となつて五年前の倍額となつて居ます。又日露戰爭の前後を通じ最も我々の脅威であつた東支鐵道も昨年三月完全に讓渡されまして、今や日本の滿洲に於ける投資總額は二十六七億に上り、日滿貿易の總額は日本よりの輸出四億五千萬圓に達して居ます。昨年四月には滿洲國皇帝陛下親しく御來朝遊ばされ、我國の皇室の御優遇と國民の熱誠なる歡迎に深く御感動遊ばされ、五月二日御歸國の時の詔書には『朕日本天皇陛下と精神一體の如し』と仰せられて居ます。全く今日に於きましては日本と滿洲とは同心一體不可分の關係を確立する事となりました。

所で、滿洲國の進歩發達は洵に慶賀すべき事でありますが、滿洲國の建設を動機として同時に日本の世界に於ける立場が非常に風當りが強くなつて我國の前途は中々容易ではありませぬ。正に國民の重大覺悟を要する事となりました。御承知の通り日本は滿洲國を以て生命線と考へ、滿洲國の獨立は東洋の平和の爲に絶對に必要なりと主張し、國際聯盟は之と反對の見解を持つた爲、遂に四十二對一の結果を以て國際聯盟脱退の餘儀なきに至りました事は、生々しい事實として我々の耳目に新たなる所であります。加ふるに我國の經濟的發展の結果、世界の殆んど凡ての國々は日本がそんな安い品物を持ち込んでは困ると言つて、高い〳〵關税を我商品に課して貿易を阻止せむとして居ります。又我國の外國移民に就ても殆んど世界各國皆移民の制限又は禁止を斷行して我々の發展を拒んで居ます。此の如く我日本の國際的地位は政治的にも經濟的にも四面皆白い眼を以て睨まれて居ると言ふ境遇であります。茲に於てか我國は今や必要の上から言つても、名譽の上から言つても、滿洲國と手を握り、滿洲國を進歩發達せしめなくては男が立たぬと言つた樣な絶對の立場に立ち至りました。

此の如く我國は滿洲國の前途に就て重大の責任を有するに拘らず、滿洲國に居る我日本人は內地人約五十萬朝鮮人約八十萬と言ふ少數であります。滿洲國民三千萬中唯之つぱかりの少數を以てしては中々以て國防上や產業上の責任を完ふする事は考へられない。せめて滿洲國の總人口の一割位は之を植ゑ付ける必要があると思ひます。

滿洲の移民問題と言ふのは我國では隨分昔からの懸案でありまして日露戰爭の直後には時の參謀總長兒玉大將や外務大臣小村侯爵などが之を提唱され、又初代の滿鐵總裁後藤伯爵が百萬人移住計畫を樹てた事もありましたが、十分なる實行が出來ませぬでした。それは主として土地を取得する事が困難であつた爲であります。其後我國は條約によつて土地商租權と言ふ土地を使用する權利を得たのでありましたが、支那側の國民運動で土地商租權を日本に與ふる者は賣國奴である、國を賣る非國民的行爲であると云ふ運動を起し、此主權回復運動が益々擴大して斯の張作霖の時代には遂に旅順大連迄も支那に返附せよと叫ぶ有樣となりまして、日本が日淸日露の戰役により血を以て得たる滿蒙特殊權益も遂には根本より跡方も無く喪失せむとする情勢と迄なつて來たのであります。滿洲事變の起りましたのは全く止むに止まれぬ此情勢の下に起つたのであります。此歷史を思ひ此沿革を稽へます時に、我々は是非共今日の如き絕好の機會に於て我々の先輩が苦心努力して而も其時機が熟せなかつた此滿洲の大量的移民計畫を斷行せなければならぬ。之が帝國の生命線を永遠に確保する所以の道でありまして、又我々の先輩の苦心經營して來た遺業を完成する先輩に對する義務であります。此の如く滿洲移民に對しては二つの必要があります。則ち其一つは滿洲を健全に發達せしめる爲には是非共日本人が中心となり指導的立場に立つて、國防の安全を保證し經濟の發達を期せなくてはならぬ。それには何と云つても住民が少なくては發言權が無い。苟も指導的立場に在る以上は住民の一割位は是非共安住せしめなくてはならぬ。第二は日本の人口問題の解決として滿洲移民が絕對に必要であると言ふ事です。

今極めて常識的に日本の人口問題を考へて見ますと、日本は最近の國勢調査の結果では內地に於て五ケ年平均年々九十六萬人宛增加して居る。そして臺灣と朝鮮とは約五十萬人增加して居る。則ち日本は合計百五十萬人と言ふ驚ろくべき多數の人口增加率を示して居る。此調子で進んで行つては我々は將來如何にして食つて行けるか、何處に住んで行けるか、之が中々の大問題であります。御承知の通り民族

の盛衰は人口の增加率の大小にあるのです。何と言つても人口の多い者に强味がある。之故に今や歐洲でも佛國や伊太利や獨逸では種々に苦心をして人口を增加する事を奬勵して居る。伊太利の如きは極めて露骨で極端であつて、獨身者には獨身稅をかける、新婚旅行者には汽車の大割引をすると言ふ始末。今日佛蘭西の最も惱んで居る事は佛蘭西の人口が殆んど增加せないと言ふ點であります。之を考へて見ますと、日本では別に誰も奬勵せないのですが毎年百五十萬人殖える。近頃世界大戰以來歐洲に出來た小さな國々、例へばアルバニア國は人口僅かに一〇〇五、エストニアは一一二六、ラトビア一九〇〇、リスアニア二四七〇。

之等に比べると日本は毎年一國一國をぽこ〳〵と產んで行く勘定である。モナコの樣な國ならば年々七十ヶ國も生む。頗る景氣の好い話であります。歐洲の出產率は千人に付十五人、日本の出產率は千人に付三十二人とか言ひますが、これでは二倍以上である。近頃の言葉で言ひますと、日本は子を產む事に於て斷然世界をリードして居ます。世界と言ふのも？少なくとも歐洲をリードして居ます。

唯併し、人間は產むだけでは困る。食はなくてはならぬ、生きなくてはならぬ。玆に日本の惱みがある。御承知の通り日本は土地が狹くて人口が多い。其密度は最近の統計では一平方粁一四五人であつて、米國の十六人に比べて正に九倍であり、濠洲の一人に比べて正に百四十五倍の密度であります。何と言つても日本は土地が狹い。そして移民をしやうとすれば到る所で禁止又は制限を受ける。日本人よりも百四十五倍の土地を持つ濠洲迄も白人濠洲だとか何とか言つて一人も移民を許しませぬ。結局世界中、何處でも日本人を歡迎して呉れない。唯獨り滿洲國だけが我々を歡迎し我々の移住して來て開拓するのを待つて居る。それも今日迄は移住が出來なかつた。そして今日と雖も愚圖〳〵して居ると、滿洲の治安が保たれれば保たるゝ程土地の値段が高くなり、土地が得られなくなつて來る。唯今日だけが極めて絕好の機會である。

私が嘗て或る農學校長から聞いた。其學校で卒業式が近づいて來ると全く憂欝になつて居る生徒が數人ある。校長が不思議に思つて其生徒に尋ねて見ると、生徒は涙ぐみ乍ら『自分は學校で農業を稽古したから是非家に歸つて百姓をしたい。併し自分は次男坊であるから自分の土地が無い。私は卒業して仕舞へば其先はどうしたら宜しいでしやう。』と言つた。校長は唯默々として慰むる事を知らなかつた、と

言ふ話である。此様な境遇の生徒に卒業後は自分の働きによつて身を立てよと言つた丈では餘りに不親切である。私などの知つて居る農村でも人口が殆んど飽和點に達して居るのが澤山ある。是等の農村では其増加して行く人口は總て出稼するの外は無い。今日所謂農村救濟の聲が高いが、消極的な慈善的な救濟では迚も追つ付かない。其根本解決は何としても『働らくべき土地を與へよ。』と言ふ事になつて行くのである。日本は德川三百年間鎖國の夢を貪つて居る内に地球上の有りと有ゆる土地は總て皆歐米人の分捕する所となつて仕舞つた。今日世界の人口二十億の中で先づ大握みに見て三分の一が白色人で三分の二が有色人である。然るに世界の土地の十分の九迄は此三分の一の白色人の所有に歸して居る。我々有色人種としては白色人種の十八分の一しか土地を持たぬ。此目前の事實に對して白色人の公平なる一考を煩はしたいのであります。世界資源の公平なる分配論が今日白人の有識者間にも起つて居る事は寧ろ當然であると思ひます。私は是れ以上を申し上ぐる事を差控へます。併し我々はさう緩くりとして居られない。積極か消極か。産兒制限か。移民か。日本民族の本來の剛健進取の氣象は到底退嬰とか消極とかを許さない。今日唯今の我々の進路としては唯滿洲へ移民する事である。それには今日程の善い機會は無い。そしてこれ以外に道は無い。繰返して言ふ、今日程よい機會は無い。そしてこれ以外に道は無い。

さて飜つて滿洲移民に就て困難な方面を考へて見る。開拓事業と云ふものは決して容易なものでは無い。滿洲の土地は廣い。併し乍ら氣候が寒い。馬賊が出る。勤勉な支那人と競爭せねばならぬ。從來滿洲移民に對する悲觀論のあつた事も無理は無い。併し我々の知つて居る所では明治初年には樺太放棄論があり、又或る時には滿蒙放棄論があり、或時には南洋委任統治絶望論もあつた。何の事業でも一時的の困難はあるものだ。之に打勝つには其用意が必要である。濡手で粟を握む。それは神様も味方しない。汗により鉄によつてゞなくては開拓が出來ない。滿洲移民に就ても此用意と此努力をする覺悟は十分に持たなくてはならぬ。

從來拓務省では滿洲移民に關して最も慎重の態度を執りまして、昭和七年度から試驗移民として五回の移民を行ひました。其内本年度は一千名であつて、今日迄は先發隊が出發して居て、本隊は來年二月頃出て行きます。過去四年間に第一回四九三戸、第二回四九四戸、第三回二九八戸、第四回五〇〇戸、

合計一千七百八十五戸であります。是等は全部黒龍江の流域であります。現在では此一千七百八十五戸の内で一四一五戸が殘つて居まして三百戸餘は種々の事情で退團して居ます。先づ八割が殘つて居るのであります。移民と云ふものは種々の事情が出來て世界の移民史では半分以下に減る事になつて居ますから八割殘つて居るのは非常に成績が宜しいのです。初めは戸主一人だけ行きまして昭和九年から家族を呼び寄せました。それに赤ん坊が二百人も生れましたので唯今全體では二千七百名に及んで居ます。是等の家族の中には七十歳以上の老人もあるのです。何と云つても赤ん坊の生れる事は素晴らしいのです。私は四五月頃の調査で赤ん坊が百六十名と言つて居ましたが、何時の間にか二百名を突破しました。かう言つて居る内にも一人や二人殖えて居るかも知れませぬ。これが、ほんたうの生きた證據で、滿洲移民はたしかに可能性が十分あります。十分に自信を持つ事が出來ます。

今試みに第一次移民のチヤムス附近の永豐鎮の狀況を述べて見ますと、昭和十年度では四百九十家族で六百十三町歩を耕作して居ますが、米・小麥・大麥・大豆・馬鈴薯など澤山作つて居ます。米は百十五町歩で二千二百石、小麥が百二十町歩で九百十五石、大豆が百七十六町歩で千二百五十石であります。一戸當り大體二十町歩割當てらるゝ事となつて居ますから、九町歩は耕作用一町歩は家屋用、殘る十町歩は牧畜用と言ふ事になつて、目下緬羊が五三九頭、馬が二二〇頭、牛一一〇頭、之は本年の四月頃の統計で今日は殖えて居りましやう。又移民一人に付ての補助は約一千六十圓であります。移民の衞生狀態は大體良好で格別の地方病が出て居ませぬ。お醫者も配置されて居ます。小學校も次々と出來て來ました。此調子で行きますれば、働らきさへすれば十分新天地を建設して樂土と爲す事が出來ます。拓務省では此四回の試驗移民の成績によつて十分の自信を得ましたので政府に於ても國策の一として滿洲移民計畫を決定しました。

更に二十ヶ年百萬人移住計畫を立てまして明年よりは愈々大量的移民計畫を實行したいと考へて居ます。當局者の最も苦心して居ます事は、何と言つても食つて行けなければ如何程澤山滿洲へ送り出しても直ぐに戻つて來ます。だから、一度行つた人が再び里心を起して内地へ歸つて來る樣な事の無い樣にするには、滿洲に居つて働きさへすれば食つて行けると云ふ確信を與へる樣に仕向けなくてはならぬ。之が實際問題であつて、胡魔化しが出來ない。茲に非常の苦心があります。目下滿洲拓殖會社では一千

萬町歩の買收に取かゝつて居ます、二三年分の土地は唯今でも用意が出來て居ます。內地の狹い農村で土地が足らないで互に苦しむよりは、早く滿洲へ行つて一戸當り二十町歩の土地を開墾して新天地を拓く方が、どの位國家の爲であり、同胞の爲であり、又自分の爲であるか分らないのです。併し吳々も申上げたい。濡手で粟を掴むとか一攫千金とか言ふ事はありませぬ。粒々辛苦せなければならぬ。唯汗を流しさへすれば必ず食つて行ける。そして眞の王道樂土も作る事が出來る。何も無い所に此新らしい天地を作る。樂みは自ら其內にあると思ひます。

我々日本人は體質上非常に惠まれて居て寒い所でも暑い所でも歐米人の堪へ得られない所でも十分に開拓する能力を持つて居ます。此體質あり此努力があつて始めて日本民族が世界に雄飛する事が出來るのです。

皆さん、滿洲は日淸日露の二大戰役を經て日本が澤山なお金と大勢の生命を賭けた土地です。そして滿洲事變以來も幾多忠勇なる兵士の血を流し、數億の國帑を費し、やつと今日の治安を維持する樣になつたのです。そして其あとはどうであるか。日本人が行かないで支那の苦力の樣なのが澤山來る。それでは丸で苦心して釣つて來た肴を猫に取られて仕舞う樣なものです。馬鹿々々しいではありませぬか。一方には有り餘る人口がある。一方には廣々とした土地がある。日本人が滿洲へ行かないと言ふ法は無いと思ひます。

民族の發展は產む事です。働く事です。伊太利はムソリーニが血眼になつて奬勵しても千人に付二十四人しか產みませぬ。日本は少しも奬勵しないで三十二人產みます。これが日本の武器です。子を產んで、そして働らく。產めよ、拓けよ。拓けよ、產めよ。これが日本民族發展の標語であります。こゝに滿洲事變五周念の記念日が近づきましたので、私は特に國民諸君に滿洲移住をお勸め致します次第であります。

第十九回總選擧

——昭和十一年二月放送、選擧肅正中央聯盟理事長として——

（岡田内閣の下に行はれた昭和十一年二月の第十九回總選擧は、五・一五事件以後の世情に鑒み選擧肅正運動が極めて眞面目に行はれた。此選擧の結果を公平に考へて見ると、最近幾回の總選擧とは非常に異なつた現象を見た。第一に官憲の選擧干渉が絶無に近いと云つて善い。第二に選擧費用が二分の一乃至四分の一位に減少した。勿論一部には人權蹂躙の批難があり、又一部には形式的並に惡質的の選擧法違反も少なくなかつたが、之を大觀して選擧は大いに肅正されたと認めてよいと思ふ。但し多年國民の腦裏に刻まれたる議會不信用の感情は一朝にして去る事が出來なかつた。そして總選擧直後に於て更に二・二六事件と云ふ非合法的不祥事が勃發した。我々は憲政の前途に於て尙一段の反省を必要とするのである。）

第十九回の總選擧も愈々明日と推しつまりました。昨年の六月から選擧肅正運動に奔走して居ります

我々中央聯盟の同志が、全國各府縣を巡回しました總里數は、地球を六回廻るだけの長さに達して居ります。之だけ苦勞をした結果が愈々明日の成績に現るゝのでありますから果して首尾よく及第點に達しますか否か。全く若い時に經驗した入學試驗の期日が來た樣な……實際心配で氣が氣で無いのであります。今日迄總選擧が十八回行はれて居ますが、私などの記憶では何時も選擧には敗けた黨派から次の議會で、未曾有の選擧干渉だ、未曾有の選擧干渉だと言ひます。未曾有とは未だ曾てあらずと書きます。其未だ曾てあらざる選擧干渉が、そんなに毎回續いてある筈はありませぬ。然るに何時もそんな攻擊を受けると言ふのは、要するに國民が選擧の結果を信用せないからであります。眞に嚴正公平な選擧が行はれて居ますれば未曾有未曾有の連續する筈は無い。國民が選擧の結果を信用せないでは立憲政治は安定する根據を失つて仕舞ひます。隨つてどんな無理な事をしても政權を奪ひ取りさへすれば總選擧は必ず勝つと云つた樣では、立憲政治は愈々腐敗墮落のどん底に落ちて行きます。茲に於てか五・一五事件以來議會の信用は全く地に墜ちた。之ではならぬと再び議會の信用を回復すべく選擧肅正の運動が颱風の如くに全國に捲き起りました。政黨も官吏も民間の人々も一所になつて全く眞劍な努力が續けられま

した。こんなに眞劍な運動をして此上でも尙救はれないと云ふならば日本の立憲政治は全く絶望の外はありませぬ。之が則ち我々が明日の選擧の結果が心配で心配でたまらぬと云ふ所以であります。政友が勝つか民政が勝つか、それは私共の關する所ではありませぬ。日本の立憲政治が淨化するか、腐敗するか、生きるか、死ぬか、救ふべきか、救ふべからざるか、之が私共の根本的に心配する所であります。

昨年の秋に行はれました府縣會議員の選擧では幸にして選擧干渉の聲もきゝませぬ。又選擧ブローカーも鳴を鎭めて運動費も從來の三分一か四分の一で足りました。又棄權率は二割六分九厘と云ふ事でありました。今回の總選擧も亦是非共皆樣の御盡力によりまして昨年秋の府縣會選擧の時よりは一層好成績を擧げたい。それが今夜から明日にかけての皆樣の心懸け一つで出來るのです。日本の立憲政治を生かすも殺すも、唯今から二十時間程の皆樣の心懸け一つで決するのであります。どうか氣を緩めないで最後の一日を間違ひの起らない樣に、干渉もせず、買收もせず、誘惑もされない樣に願ひます。

私などは過去半年以上隨分度々講演を致しました。そして官吏の選擧干渉に就ても皮肉な素つ破ぬきを致しました。又政黨の腐敗に對しても辛辣な攻擊も致しました。又國民の政治道德の頽敗に就ても痛烈な批難を致しました。併し乍ら決して私だけが善い事をして世間の人が惡い事をしたのだとは申しませぬ。自分達も惡かつたと白狀して居ります。懺悔して居ります。誠にお粗末な例を引いて相濟みませぬが、道樂息子が毎日毎日遲く歸つて來る。どうしたと聞けば、昨日は友人のつき合ひだ、今日は會社の決算日だなどゝ遲くなつた言ひ譯をして居る樣では、どんなに言ひ譯が上手でも親達は安心しませぬ。唯一言『今迄は惡るかつた。』とあやまつて吳れさへすれば、茲に始めて親達が安心が出來るのであります。官吏が惡い、政黨が惡い、選擧人が惡い、と唯他人の惡い事ばかり言つて居たのでは、選擧界は肅正されませぬ。御互に今迄は惡かつたと、たつた一言言ひさへすれば選擧界は肅正されるのです。

畏こくも明治天皇樣の憲法發布の勅語の中に『其負擔ヲ分ツニ堪ユル事ヲ疑ハサルナリ。』と仰せられてあります。斯程迄に御信任あらせられたる大御心に對し奉りまして今日迄の議會政治の腐敗墮落の有樣を考へます時に。我々は唯今こそは明治天皇樣に對し奉つて心からなる懺悔を致さなくてはならないのであります。果してほんとうに懺悔をしたか、如何なる程度に改心をしたか、之が明日の總選擧の結果にはつきりと現はれるのであります。干渉すな。買收すな。棄權すな。神前に誓ひ國旗に誓ひて

是非共明日は正しき投票をせなければならぬのであります。

顧みますと、日本の文化は過去八十年間に長足の進歩を致しました。經濟力でも陸海軍でも學術でもスポーツでも實に目ざましい進歩を致して居ます。皆様のよく御承知のスポーツを見ましても、水泳は既に世界一となりました。野球でも陸上競技でもズン〳〵と進歩して來て居ます。最近獨逸に行はれたオリムピックのウインター・スポーツでも、成績は不十分でありますが、日本の進歩は全く世界を驚ろかして居ます。是れ皆涙ぐましい努力の結果であります。斯く何事も進歩して居る中に、獨り我國の議會政治ばかりは過去五十年間少しも進歩しませぬ。進歩せないばかりか却つて段々惡くなつて來た樣です。之は畢竟國民が無頓着でなまけて努力しない結果であります。明治二十三年に立憲政治の種子を蒔いた。併し國民は其以後耕しもせなければ草取もせない。おれがせなくても誰かするだらうと言つて、無頓着に棄ててある。それでは畠が荒れて雜草が生えて腐敗墮落するのが當然であります。スポーツが進歩して行く樣なあんな努力を立憲政治の上に試みたならば、日本の立憲政治も立所に立派になるに相違ありませぬ。肅正運動は草取運動であります。人の畠の草を取る事が出來なければ、せめて自分自身の心の中の草を取つて下さい。

諸君は御承知でしやう。近頃アメリカの人がこんな事を言つて居ます。日本は外から打破る事は出來ない、併しそつとして打棄てゝ置けば必ず內輪から壞れる、何となれば日本人は今議會政治に不信用である、隨つて政治が安定しない、必ず內亂が始まるに相違ない、軍部と自由主義者と今に喧嘩を初める、などゝ言つて居ます。そんな馬鹿な事があつてたまるものですか。併しそれは實に有難い警告です。日本人にとつては善い戒めです。我々は此アメリカ人の言ふ事を善い忠告と考へ、他山の石と考へて、先づ自ら省みると言ふだけの心懸が無くてはならぬのであります。

次に申上げたいのは、選擧肅正と云ふ事は唯惡い事をすなと言ふだけの事です。地上の汚物を掃除するだけの事です。我々は其掃除をした上に立憲政治の建築を始めなくてはならぬ。掃除をしただけでは何の役にも立たぬ。之からが大變なのです。選擧の事だけを見ましても、『干渉すな』、『買收すな』、『棄權すな』、と云ふ消極的の事ばかりでは駄目です。更に進んで、良い候補者を出す、善い政策を實行する、良い政黨を作る、良い官僚を作ると云ふ所まで進まなくては駄目です。憲政の前途はまだ〳〵遠遠

である。選擧肅正をすればそれで善いと言ふものでは無い。先づ選擧の肅正をしてその上に始めて善い建築をしやうと云ふのである。之が政治改善の第一歩であつて、政治改善は選擧肅正を以て終りとするものではない。却つて選擧肅正を以て第一歩とするものである。先づ選擧肅正から踏み出して憲政の發達に邁進せなければならぬのである。

最近世界を通じて議會政治の信任が甚だ薄らいで居る。伊太利でも獨逸でも波蘭でも議會政治では其國の維持が出來ないのである。斯かる風潮の中に立つて我々日本國民の根本的信念を固めなければならぬ事は、議會政治に對する絶對擁護の精神であります。外國は如何であらうと日本は是非共議會政治を擁護して行くと云ふ信念を持たなくてはならぬ。實際議會政治は一番間違の少ない政治であります。專制政治では到底滿足の出來るものではありませぬ。我々は何處迄も明治天皇陛下に賜はりたる議會政治を護らなくてはならぬ。唯茲に困つた事は議會政治には議會政治の弊害があつて、政黨の訓練と言ふものは實にむづかしい樣です。英吉利では陛下の政府、陛下の反對黨(HIS MAJESTY'S OPPOSITION)と言ふ言葉があつて、凡て皆陛下の爲の內閣であり陛下の爲の反對黨であると言ふ眞面目なる考を持つて居る。然るに我國では『我黨內閣』『我黨內閣』と言ふ言葉があつて、陛下の內閣たる事を忘れて自分の私有物なるが如き事を言ふ。全く平淸盛時代の平氏にあらずんば人にあらずと言ふが如き態度を示す。我黨あるを知つて國家あるを知らざる振舞は到底第三者からは我慢が出來ない。遂に五・一五事件の如き不祥事を見るに至つた事は國民の深く〳〵警しむべき所であります。物事は理屈通りには行きませぬ。私も二度も東京市長を致しまして隨分苦い、苦い經驗をして居ます。だから決して理屈ばかりは申しませぬ。併し惡い事は惡いと言はなくては世の中は治まりませぬ。之は政黨ばかりを責むべきでは無い。國民全體の責任であります。何となれば國民を離れて政黨は存在して居らぬからであります。

最後に申上げたい事は、日本の立憲政治は日本人自らの手によつて、日本人の身體に合ふ樣に仕立上げなくてはならぬ事であります。英國の眞似も米國の眞似も出來ない。況んやファッショやナチスの眞似は猶更出來ない。日本は日本風の立憲政治を作り上げなくてはならぬ。それには日本國民が眞劍になつて努力せなければならぬのです。種を蒔いた儘に草取をせないでどうして良い收穫が得られましやう。

選擧肅正は草取運動である。自分の力で自分の悪い所を直す運動である。日本人自身の手によつて日本に適合する日本の立憲政治を仕立てあげる運動である。諸君！　立憲政治の死活は明日に迫つて居る。此際諸君の最後の警戒と努力とを切望して止まぬ次第であります。

選擧肅正と少年

――昭和十一年二月、七分間放送――

（少年に選擧肅正の話を放送する事を頼まれて閉口した。餘りむづかしい講釋をしては理解し難い。又父兄の悪口を云つても教育上面白く無い。併し政治道德は少年の時から腦中に刻み込まなくてはならぬ。そこで小學讀本を參考として尋常六年卒業の程度を標準として放送したのである。）

皆さんも御承知の通り、我國は明治廿三年帝國議會を召集されてから立憲政治の國となりました。立憲政治と申しますと、自分達が投票をして選擧した人が議會に出席して國政を審議するのでありますから、結局自分達の意見が議會に於て代表さるゝ譯であります。だから自分達が悪い代議士を選擧すれば悪い政治が行はれ、善い代議士を選擧すれば善い政治が行はれます。それ故選擧は大切にせなければなりませぬ。

然るに今日迄我國では選擧の度毎に色々の悪い事が行はれて居ます。金を貰つたり、御馳走を受けたり、又は暴行脅迫をされたりなどして、ほんとうに自分が信用する人に投票をせずして、悪い人とは知りつゝ利益に迷はされ、又は怖ろしさの餘りに、悪い人に投票する事が多かつたのです。その中でも、金をやつたり貰つたりする買收と言ふ事が最も多く行はれて來ました。左樣な悪い事が行はれて居ましては善い人は代議士になるのを厭ひます。又選擧された代議士に信用がなくなります。信用の無い代議士が集まつて行ふ議會政治も亦信用の無くなるのは當然であります。近頃皆さんが新聞やポスターなどで『選擧肅正』と言ふ事が八ヶ間敷言はれて居る事にお氣が付かれるでしやう。選擧肅正と言ふ事は凡ての選擧を正しく行ふ事の運動であります。今迄に不信用になつて居る地方自治や議會の信用を回復する爲には、是非共選擧を正しく行ふて正しき善い人を選擧せなければなりませぬ。善き政治を行はむとすれば先づ善き選擧をせなければならぬ。選擧が正しく淸く行はれるか、或は買收其他の爲に不正に穢さるゝかと言ふ事は、全く立憲政治の生きるか死ぬかの最も大切な事柄であります。

日本ではこれ迄忠君愛國と言ふ國民道德は善く敎へられて居ます。又親に孝行するとか、正直にするとか、泥棒をせぬとか言ふ個人道德も善く敎へられて居ます。然るに立憲政治の世の中になつて居ながら政治道德と言ふものが一向に行はれて居ませぬ。此立憲國民としての政治道德の缺乏が、今日の樣な腐敗墮落した國民の間に頗る不信用な立憲政治が行はれる事となつた譯であります。

人の物を盗んだ時には直接に損害を受けるのは盗まれた人唯一人であります、然るに選擧で買收されて悪い代議士が當選する事となりますと、直接に損害を受くるのが國民全體であります。何となれば悪い代議士が出て悪い政治を行ひますれば、直接に國民全體が迷惑するからであります。それ故投票の買收は盗賊以上の悪事であります。然るに今日の日本の選擧は盗賊以上の悪い事を大勢の人が平氣でやつて居るのであります。若し私達の一家親類の中で盗賊をした人が……誠にいやな例でありますが……盗賊をした人が出來ましたならば、私達はどれ位恥かしく思ふでありましやう。然るに我々日本國民は今日眼の前に盗賊以上の悪い事である選擧の投票の買收と言ふ事を平氣でやつて居る。そして、そんな悪い事をする人の家の人達も又世間も平氣でそれを見て居る。實に何と言ふ恥かしい事でありましやう。何と言ふ道德心の麻痺した事でありましやう。こんな低級な道德心では立憲政治を行ふ資格が無いので

す。實に日本國民の道德上の最大缺點は此立憲國民としての政治道德の缺乏であります。

若い皆さんは是非共今日から忠君愛國の道德と同じ樣に選擧の道德を重んじて下さい。盜賊をすれば恥かしいと同じ樣に、買收をさるれば恥かしいと思つて下さい。皆さんが其心になつて下されば、皆さんが廿五歲になつて投票を行はれる時から日本の立憲政治は明るくなります。是非とも今の內から其心がけで居て下さい。立憲國民としての政治道德、正しい明るい淸い道德、此道德を皆さんが守つて下されば日本の政治が明るくなります。

選擧肅正音頭

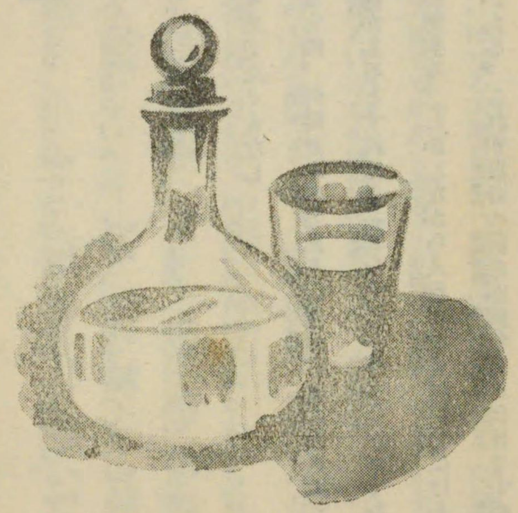
——都新聞社懸賞募集審査委員長挨拶
昭和十年八月四日夜於日比谷新音樂堂——

今日は餘程よい聲で挨拶をせなければならぬので仲々に氣が張ります。（笑）選擧肅正は國民的總動員で各方面に御依賴を致しましたが、都新聞社には餘程智惠者が揃つて居ると見えて、選擧肅正音頭募集と言ふ最も面白い企をして呉れました。（笑）私が其應募歌の審査委員長を致して居りますが、實は何も知りませぬ。選者の中でも西條さん、長田さん、小野さん、井原さんなどが主としてやつて呉れました。皆さんが是からお聽きになつて、それが拙づく出來て居たらば此人達の責任であります。其代り若し佳く出來て居たらば、それは審査委員長たる私が統率の宜しきを得たのであつて全く私の功績であります。（笑）此歌の文句の中には歌つて居れば自然に買收が出來ない、出した手も引つ込めなくちやならぬ樣に出來て居ます。此歌は先程遲塚先生の申された樣に十人程の歌を一つに纏めたのであつて、十人

の方々と選者との合作の樣なものであります。歌は既に出來上りました。之から先は歌ふ人の責任であります。若し歌ふ人が上手であれば其次は之を聽く人の諸君の責任であります。（笑）聽く人が上手に聽くだけの耳が無くては佳い歌は出來ませぬ。

此歌は大勢の人々の合作で出來ました。選擧肅正も其通りで、政黨や官吏や選擧權者や大勢の人々の合作でなくては出來ませぬ。（拍手）諸君が御一所に此歌に合唱さるゝ樣に、全國民が擧つて選擧肅正に聲を揃へて協力致さるゝ樣此機會に希望致して置きます。終りッ。（大拍手）

講壇篇



門松と人生

新年となりて何時も思ひ出さるゝ狂歌は、

門松は冥途の旅の一里塚　芽出度もありめでたくもなし

といふのである。成る程人間は死なねばならぬ。何時死ぬのであるか自分にはわからぬが、神様にはわかつてゐる。されば定つてゐる自分の壽命があるとすれば、一年たてば一年壽命がちゞむ譯であるから、門松は冥途の旅の一里塚には相違ないのである。しかしながら人間の壽命は自分にはわからない。わからないから何時迄も生きるといふ希望がある。これが自分の壽命が何年何月何日まで必ず生きるといふことが定つてゐると、世の中に面白味がなくなる。

◇

神は自ら助くるものを助く。自分の壽命は華嚴の瀧に飛込んでも、三原山に行つてもちゞめることが出來る。これと同時に自分の修養や自分の養生によつて生命を延ばすことが出來る。だから自分の定まる定命があるとしても、その定命なるものはいはゆる天壽を全うしたる定命であつて、自分自身は一生懸命に我身を大切にして、初めて神様がその天壽まで生きてゐることを得せしめるのである。その外に不慮の天災地變や出來事のために、自分の定命といふものを喪ふ場合がある。それ故自分の定命といふものは、人間から主觀的にいふと、一定不變のものではなくして、ある程度まで伸縮性のあるものである。だから一年長く生くれば一年だけ人生を樂しむのである。自分には何時死ぬかわからぬ自分の生命を、一年樂しんだのである。して見ると矢張り門松は芽出度いのである。冥途の旅の一里塚と觀ずるのは、神様の眼に映じた所だけであつて、人間の主觀からいへば、無事に新年を迎へて一年長く生きたのは大いに芽出度い。これを芽出度もあり芽出度もなしなど知つたか振な事をいふは惡いいやれである。

◇

西洋史の逸話には、ペルシヤ王ザークセスが、百萬の大軍を率ゐてギリシヤを攻めたとき、ヘレスポ

ンド海峽を渡る將士を眺めて長嘆した、『この無數の兵士一人として百歲の壽を保つ事なきか。』支那の三國誌にも魏の曹操が赤壁の戰ひに先だち、槊を横たへて詩を賦した。その冒頭に『酒に對して當に歌ふべし。人生幾何ぞ。譬へば朝露の如し。』云々の句がある。また東晉の孝武帝の詩に『長星汝に一杯の酒を勸む。世豈萬年の天子あらむや。』と歌つてゐる。帝王でも、英雄でも、人間の壽命ばかりは如何ともすることが出來ぬ。カーライルがいつたやうに、死の使者ばかりは、多忙なる者も怠惰なる者も、ひとしく迎へに來るのである。『汝等犬の如き者よ、永久に生くることを希ふか。』とは、フレデリック大王が兵士を罵ました言葉である。人間は到底死なねばならぬとは誰も覺悟はきめてゐる筈だ。そして自動車に乘つても汽車に乘つても、何時如何なる事故で死ぬかも知れぬ世の中である。さうすると一日でも無事であれば芽出度いのである。いはんや一年無事であつて門松を迎へるのは大いに芽出度い筈である。

◇

物事は考へ方である。神樣はバラの花にとげを作つたのは不都合だといへば、神をうらむことが出來る。しかるに同じことでも神樣は、とげの枝にもバラの花を咲かして下さるといへば神を讃美することも出來る。サツカレーはこの世界は己に對する人の顏を反射する鏡のやうなものだといつた。まことにこの言葉の如く、笑顏で世界を見れば世界もまた笑顏で我を見る。澁面で世界を見れば、世界もまた澁面で我を見ることゝなる。自分の心の持ちやう氣持の持ちやうで、社會は如何樣にも見えるのである。浮世は苦界だ、人間は苦しむためにこの世に生れたのだといつて、苦しみを探して見れば、日々苦痛のない日はあるまい。それほど苦痛なれば早く死んで仕舞へばよい筈だが、滅多に死ぬ人がない所を見ると、苦痛だと口ではいつても心の中は苦痛の分量よりも、快樂の分量が多いのであらう。ゲーテは一生涯の中で、眞の幸福を感じたのは、たゞ五週間だといつた。回々教主アブダルラーマンは、五十年の治世中、眞の幸福を感じたのはたゞ十四日であるといつた。私はこの言葉を馬鹿々々しく思ふ。我々は登山して喉の渴した時に水筒から一ぱいの水を呑むと、何ともいへぬ甘露の味がある。登山するのが苦痛で水を呑むのが幸福である。しかし登山の苦痛があるために水を呑む快感があるのである。平地で水を呑んでも格別甘いものではない。苦痛あつて快樂あり、快樂あつて苦痛あり。苦痛と幸福とは獨立してゐるやうであつて、多くは聯絡がある。

◇

だからこの世の中で、一生涯幸福ばかりの人もない。たとひ幸福ばかりの人があつても、その人は若し苦痛を知らぬ人であつたならば、幸福が幸福であるとは思はない、當り前だと思つてゐる。即ち幸福といふことがわからないのである。『救世主なる聖は苦痛者なりけり。』とは聖ポールの言である。世のために苦痛を受くる救世主は、心の中は幸福であると思ふ。碧巖錄の第六則には『日々是好日』といふ文句がある。人間は心の持ちやうで、何時でも幸福を感ずることが出來る。日々機嫌よくすれば、日々是れ好日である。年々是好年である。だから門松は芽出度い。日々是れ好日――とは尊い教へである。

人生觀の一

人間といふものはどういふものか。自分が人間であるから人間といふものゝ正體が最も善く判つて居る筈である。しかしながら我々は生れてから死ぬまでの間に人間といふものはどういふものかといふ事を深刻に考へて見る事は滅多にない。また深刻に考へれば考へる程わからなくなるからそのまゝになつて仕舞ふ。そしてわかつて居ると考へる人も實際は自己滿足をして居る程度であつて、神樣の眼から見ればをかしなものであらうと思ふ。

◇

人間は昔から人間を本位として宇宙間の森羅萬象を考へるやうである。人間は萬物の靈長であると考へるのはまだよろしいとしても、神は人間の晝を照らすために太陽を造り、人間の夜を照らすために月

を造つたと考へて見たり、人間の飲むために水を造り、人間の乘るがために馬を造り、人間の食ふために動植物を造るとまで考へて見る。實に得手勝手な考へ方である。あたかも白色人種が人類の文化向上のために有色人種を征服するのは、神樣が白人に命じた高尚な使命であると考へると同樣の、得手勝手な斷定である。

今試みに人間を本位として宇宙を見る事をやめて、宇宙を本位として人間を觀察して見れば如何であるか。『憫れなる者よ、爾の名は人間なり。』

自分の貧弱な事を知らずして、自分が宇宙の支配者の如くに考へて居る。それ故に一層憫れむべき氣の毒な者といはねばならぬ。

◇

先づ人間の住んで居る地球といふものが、宇宙の全體から見て如何なる地位にあるものであるか。昔のやうに地球全體を宇宙と考へ地球を無限に廣いものと考へて居た場合は、まことに心丈夫であり世の中が廣々として居たのであるが、今日の如くに地球の隅々までわかつて仕舞つて二ヶ月位で一周が出來るやうになり、飛行機で廻れば十數日以下で一周出來る事になつては、まことに世の中が狹くなつて仕舞つた。

◇

そして人間はこの地球以外に一歩も出て行けない。その眼界の狹い事はなか〳〵『井底の蛙』といふやうな生やさしい比喩では追つかない位のものである。大宇宙から見た地球といふものはどんなものか、今日の天文學の知識をもつて考へるとしても、現在宇宙にある星の數はおよそ一千億あるといはれて居る。しからば地球は一千億分の一といふ貧弱なものである。地球の周圍は約一萬里であるが、光線の速力は一秒間に地球の周圍を七回半廻る。それで月光が地球に達する時間は二秒間で、日光が地球に達する時間は八分間である。かやうに速力の早い光線でも我々と同じ銀河圈内にある最も遠い星から光線が到達するには二十萬光年を要する。いはんや銀河以外の星の來る光線は二億五千萬光年かゝるといふやうな話を聞かされては、宇宙の廣いことゝ地球の小さい事の比較はなか彈丸黑子とか滄海の一粟とかいふやうな形容詞を以てしても到底いひあらはし難いものである。そんな小さな地球の中に居て、一

歩も外へ出る事の出來ないやうな貧弱な者が如何にも偉さうな事をいつて知つたか振りをするのはチャンチャラをかしい次第といはねばならぬ。

◇

次に地球と人類といふ事を考へて見たい。地球が出來てから何年になるか、即ち地球の年齢といふ事は今日の學問の程度では十五億年以上であるといはれて居る。先づ三十億乃至四十億年であるといふのが妥當であるといふ。そして今日の一般の通説としては地球は最初液體であつたものが段々冷却して地殼が出來たのであるとなつて居る。だから最初は生物がなかつた。それが段々冷却するにつれて生物に適する溫度となつて最初に下等の生物が出來て段々に進化して高等の生物となり、最後に今日の人間が出來たといはれて居る。人間は最初神樣が造つてくれたものでなくて、矢張り下等動物から發達したものであるといふことは今日では先づ疑ひの餘地なきものとなつて居る。萬物の靈長を自任する我々人間の感情からいへば我々は矢張り神樣が特別に人間を造つたものであつてほしい。我々は人類猿から進化したものであるとか、我々の祖先はアミーバであるとか考へたくない。矢張り我々人間は特別に神樣が造つたものである、そしてそれは最初に粘土を以て人間の偶像を造つて日光の照らす所に置いたのが黑人となり、日蔭に置いたのが白人となつたといふ傳説を信じたい。しかしながら如何せん今日では如何に我々が厭であつても矢張り下等動物の進化したものであると信じなくてはならぬ事となつて居る。即ち人間と猿との相違は三本毛が多いか少いかの差別でしかないといはれてもあまり怒れないのである。

◇

だから我々は人間とはどんなものかと考へて見て吾人の人生觀といふものを考へて見るとしても客觀的に見た人間の地位、客觀的に見た地球の地位といふものに、耳をおほひ眼をつむる事は出來ない。地球上の外に一歩も出て行けない人間であり、客觀的には苦しんで死ぬより外に何の藝當もない人間が、その淺薄な知識の範圍内で考へる人間とはどんなものであるかといふに過ぎない。

人生五十年

宇宙の森羅萬象は無限大から無限小までである。地球を宇宙に比すれば ほとんど無限小といつてもよい。更にこれを地球上の他の物殊に顯微鏡で見らるゝ細菌の如きものに比すれば地球は無限大といつてもよい。人生五十年、身長五尺四寸、體量十四貫を標準として考へて見る時、時間からいつて五十年といふものは長いものと思へば長い。短いものと思へば短い。但しこの時間を外の生物に比較すれば先づ長い方であらう。昔から鶴は千年龜は萬年といふけれどもこれは全く想像に過ぎない。實際は鶴は五十年龜は三百年位の記錄がある。その外の動物では象が二百年獅子廿五年犬十二年猫十年兎八年鼠三年、また鳥類では鶯七十年鳩五十年、魚類では鯉や鯰は百年の記錄がある、昆蟲類ではクモが十五年アリが十五年となつて居る。この筆法では人間にも百年以上の記錄は何時もある譯である。

徒然草を讀んで見ると、『命あるものを見るに人間ほど長命の者は無い。蜉蝣は朝に生れて晩には死ぬ、夏の蟲は春秋を知らぬ。これ等のものゝ事を思へば人間の生命は長い。寛つたりとした氣分で暮らせば一年を暮らすにも可成りに長い長閑な氣分になる。若し焦ら〳〵と落着かない思ひで暮らせば千年生きても一夜の夢の心地がするであらう。どうせ永久には生きる事の出來ぬ世の中だ。老ひぼれた醜き姿となつて、それが何の生甲斐があらう。命長ければ恥多し。長くとも四十歳に足らぬ位の時に死んで仕舞へばまことにさつぱりと心地のよいものであらう。』兼好法師は痛快な人生感を持つて居た。四十の男盛りで死ねば花々しくてよいといふのである。その點からいへば三十三歳で死んだ歴山大王は理想的であつて、五十二まで生きた奈翁は少し命長くして恥多しの仲間である。しかしこんな事をいつた兼好法師は六十八歳まで生きたといふから皮肉なものである。人間は生きるだけ生きればよろしいのである。出來るだけ衞生を守つて生きるだけ生きる。これは生命を惜むものではない。たゞ生命を棄てぬといふ心持に過ぎない。生命はいくら惜んでも延びるものではない。たゞ故なくして棄てないやうに心がければよろしいのである。兼好法師が老いぼれた姿は醜いといふのは少しいひ過ぎて居る。人間が老

ひぼれて來ると眼糞鼻糞の始末が惡くなつて他人眼にはきたならしくなるものである。これは老人の心得として成るべく年寄れば年寄る程身だしなみを善くしたいものである。白いひげは尊く見ゆるものである。赤子は可愛く見ゆるものである。それを赤子はうるさい、老人は醜いといつて居ては人間が成り立たない。子供があつたり老人があつたりするので人生は面白いのである。兼好法師はあまりに自己の趣味を本位として我まゝをいひ過ぎて居るやうである。

また人間は體量十四貫身長五尺四寸とすれば地球上の生物では大きい部に屬するといへるであらう。今日の我々の知る所ではクヂラが最も大きい、陸では象が大きい。その他人間より大きくて強い者は獅子やウワバミの類と色々ある。しかし人間より小さい物の方が非常に澤山である。昆蟲類はすべて人間よりは小さい。要するに地球上のすべての生物の中で人間は長命の方であつてまた大きい方である。小さな生物といへば我々の今日知つて居る處では顯微鏡に寫して見る細菌の類が最も小さいものであらう。これが微細なる單一細胞から成る生物であつてその直徑は〇・七乃至〇・二五ミクロンである。杆菌は横が〇・二乃至〇・四ミクロンで長さは一・〇乃至數十ミクロンとなつてゐる。今後學術の進歩に伴なつてなほ小さな生物が發見されるかも知れない。人間は地球の丸い事を久しく知らなかつたやうに細菌のやうな小さな生物があることは顯微鏡が發達するまでは知らなかつたのである。顯微鏡は十三世紀頃に發見され、十六世紀頃ラフアエルが畫いた法王レオ十世の圖に顯微鏡を手に持つてゐるのがある。

しかし精巧な顯微鏡の發達は近代の事であつて今後は今日の我々が想像し得る以上にもつと〳〵無限小のものが發見されるかわからない。實に世の中は神秘なものである。この無限大と無限小の中に生存する人間はえらいやうなつまらないやうなものである。だからあまり深刻に人間とは何ぞやと考へてゐると益々わからなくなつてしまふ。我々はたゞわかつてゐるだけわかつて居ればよい。何もかもわからなくても宜しい。知るを知るとなし知らざるを知らずとなす、これ知るなりとの教の如くに我々は今日の知識においてわかつて居る範圍の事はわかつて居りたい。そしてそれ以上の事になるとわからないものとわかつて居ればよい。わからないものとわかつて居るのは矢張り一種のわかつて居るのであつてそれに滿足し安心して別に焦ら〳〵する必要もない。人間も考へ方によつては偉大な者である。昆蟲に生れて來ないで人間に生れて來たのは目出度い事である。實に偉大にして幸福なる者は人間である。

享樂主義を排す

地球の小を以て宇宙の大に比すれば滄海の一粟にも足りない。人生のはかなさを以て地球の悠久に比すればこれまた朝露の如きものである。若し地球がその初め液體であつてその後自然に冷却して今日の地殼が出來て生物が發生したとするならば今後何億年の後には冷却し切つてしまつて人間は地球に生活しなくなる筈である。しからば人類は到底地球上に全滅する運命を持つて居るのである。人間は個人として到底死なねばならぬ運命を持つて居る。そして人間は人類全體として地球の冷却と共に絶滅する運命を持つて居る。さうして見ると人間といふものは實につまらないものであるといひたくなる。一切是空と觀ずる哲理がわからなくとも、やがては一切是空になることだけは認めざるを得ないのである。

……◇……

支那の楊朱が三千年の昔に次のやうな事をいつて居る。楊朱いはく、『太古の事は既に滅んでしまつて誰も記憶するものはない。次に三皇の事はあるが如くなきが如くである。次に五帝の事は覺めたるが如く夢みるが如くである。次に三王の事は少しく事實として傳はつては居るが、あるひは隱れ、あるひは顯れて億中唯一を殘す位のものである。現在のことでも、あるひは聞きあるひは見るといへども、千中唯一を傳へるのみである。だから太古から今日までの年數はしかとわからぬが、伏羲氏以後からでも三十餘萬歲にもなる。その間の賢愚好醜、成敗是非、皆消滅しないものはない。たゞ遲いか速いかの差があるだけである。かくの如く人間の是非善惡は、よいことをしても悪いことをしても、すべて滅んでしまふのである。何を苦しんで一時の世間の毀譽褒貶を氣にして自分の身心を苦しめる必要があらうか。たとひ死後數十年または數百年の間その名前が殘つて見た所で、死んでしまつた枯骨が潤つて何か面白い事があるといふ譯でもあるまい』

……◇……

楊朱がまた次のやうな事をいつて居る。『人間は百年が長壽の極である。百歲の壽は千人に一人もな

い。そして赤兒の時と老もうの時を引去らば百年が五十年になる。夜中眠つて晝間ぼんやりして居れば五十年が二十五年になる。そして病氣をしたり、哀んだり苦しんだりする時間を引去れば、更に十二年程になつてしまふ。その十二年間でも少しも心配のない時といふものはないのである。人間は何を樂しみに生きて居るのか。うまい物を食ひたい、聲色の慾を滿たしたい。それも虛榮や虛譽を求むるために遠慮する。刑罰が恐ろしくて遠慮する。少しも自分のすきな事が出來ない。全く人間といふものは重罪囚人と同一である。何のために生きてゐるか意味をなさない。だから人間は宜しく心に從つて動き、自然に隨つて行ひ、好む所の娛樂を味はつて虛名などに累されぬが宜しい』

インドにもまた天下無類の快樂主義の宗教がある。その鼻祖をチヤールワーカーといひその學派を順世派といふ。その主張する事は現世はあつても來世はない。生きて居る間に出來るだけの快樂をせよといふのである。今日でもなほこんな快樂主義を考へる人がありさうである。到底死なねばならぬ人間である。到底滅んでしまふ名譽である。だから生きて居る間は面白をかしく好きな事をして暮らさうぢやないか。かうした考へ方もちよつと一理窟ありさうに思はれる。

私は中學生の時代にこの楊朱の說を讀んで感心した事があつた。しかし段々年を取つて見るとこんな淺薄な考へ方には贊成が出來なくなつた。我々は今日では楊朱よりも一層よくこの地球の狹い事を知つて居る。楊朱よりも一層よく人生のはかない事を知つて居る。しかしながらその結論は楊朱の如くに享樂主義を謳歌しないのである。强ひて享樂といふ文字を使へばすべての人類をして享樂せしめたい。自分も人もなるべく永く樂しく幸福ならしめたい。それがためには先覺者は苦心し努力すべきである。否各人類がその共通幸福を得るがために各々その職分に努力すべきであると思ふ。楊朱やチヤールワーカーなどの主張は低級な享樂である。かゝる低級な享樂には他人に悲哀苦痛を與へる場合が多くて、結局は自分自身にも良心的の享樂にはならない。また自分一個の享樂としても一生涯の最大分量を享樂せんとすれば適當にこれを調節する必要がある。

……◇……

今試みに楊朱の希望するが如くに第一に旨い物を食ひたい、といふ事を考へて見る。人間は旨い物を食へば必ず病氣になる。癌腫でも膽石病でも糖尿病でも多くは旨い物を食ふ者に起り易い。矢張り粗食

して働いて居る事が最も健康法に適つて居る。若し楊朱が旨い物を鱈腹食つて明日死んでもよいといふのならば勝手だが、長壽をしたいと思へば矢張り腹八分に食はねばならぬ。美食をしては駄目である。また聲色の慾を滿たしたいといつても、すべての人間がそんな事を考へては出來ない相談である。一人か二人か乃至は特定の人だけならば出來るけれども、すべての人間が旨い物を食ひすべての人間が聲色の慾を肆にするといふ事は到底出來ない相談である。いはんや勞働をしないで聲色の慾を肆にする時は、忽ち健康を害して却つて疾苦に惱むことゝなるのである。エリオットがいつた、『天國には住みたくない。仕事をして働いてその中に湧く愉快を味はふ外に私の天國はない。』全くその通りだ。人類全體の享樂主義は成立しない。成立すれば健康を害し秩序を失つて動亂と疾病のために苦痛主義となるのである。『永い浮世に短い命』であるから、皆の者が幸福に暮らせるやうに現世淨土を目標に努力することが人生の高尚なる使命であると思ふ。(未定稿)

求むるな、然らば與へられむ

『求めよ、しからば與へられむ。』といふは基督の尊き教へである。神樣は愛である。罪深き人間を救はむとして居られる。それ故に救ひを求むれば必ず救はるゝのである。南無阿彌陀佛とは佛教の尊き教へである。南無といふ梵語は歸依といふ事であつて絶對服從の意味であるといふ。佛樣は慈悲である。一切の煩惱の衆生を濟度せらるゝ事を本願として居られる。それ故に南無阿彌陀佛と唱へて彌陀佛に絶對服從を誓へば必ず佛樣に救はるゝのである。私は元來宗教の事はよくわからぬ。隨つてこゝに宗教の事を論じて見る考へはない。またもとより、『求めよ、しからば與へられむ。』といふ尊き教へに反對して弓を引く考へは毛頭持たない。たゞ常識的に社會を見渡す時に、私は『求めよ、しからば與へられむ。』といふ言葉通りの事實を澤山目擊するのであるけれども、これと同時に『求むるな、しからば與へられむ。』

といふほとんど反對の現象をも澤山目擊するのである。そして私は何となく『求むるな、しからば與へられむ。』といふ言葉にもまた一種の眞理を含むものであると考へらるゝのである。

◇

名譽は人の欲する所である。しかしながら無暗に名譽がほしい、名譽がほしいと思つて無理な競爭をしたり無理な工作をすると、世間からはかへつて彼の心理をろう劣なりと唾棄されて求むる名譽は得られないのみならず、反對に非常なる不名譽をかうむる事が多い。また金錢は人の欲する所である。しかしながら無暗に金がほしい、金がほしいといつて高歩に金を貸したり相場に手を出すと、自分の利慾のために判斷の眼がくらんでたゞに金を儲けないのみならず、却つて反對に大損失をする事が多いのである。これを以て考へると、『求めよ、しからば與へられむ。』といふ事も多少の呼吸があるものと思はるゝのである。

◇

聖書にも我に向つて父よ〳〵と叫ぶものはことごとく皆天國に行くものにあらず、まことに天國に行くを得るものはたゞ天におはす我等が父の旨に遵ふ者のみであると教へてある。それ故『求めよ、しからば與へられむ。』といふ事にも自ら求むるの道を踏まねばならぬ事が明かである。私がよく魚釣りに出かけて經驗する事は、フナ釣りをやつて居ても自分には少しも釣れないで向ふ岸の人が澤山釣るやうに思ふ。そこでまた向ふ岸に渡つて竿を下して居ると、今度は自分の岸では少しも釣れないで今まで居た岸の方がよく釣れてゐる事がある。だから『求めよ、しからば與へられむ。』といつて求むれば求むる程與へられない場合が澤山ある事を知らねばならぬ。辛抱して居ればこゝの岸の方へもフナが廻つて來るものを、辛抱し切れないで向ふ岸へ行くと今度はフナが向ふ岸から元の岸の方へ廻つて來て居る。これは決してフナが意地惡く自分の竿を逃げ廻るのではない。自分の方からフナの來るのを逃げ廻つて居るのである。

◇

政治などでもこんな風に見える事がある。齋藤内閣が出來た時でも齋藤さんは世間から總理大臣を求めて居るとは思つて居なかつたから總理大臣が與へられた。岡田内閣の出來た時でも岡田大將は總理大

臣を求めて居るとは誰も思はなかつた。それ故に總理大臣になつた。だから『求めよ、しからば與へられむ。』といふよりも、『求むるな、しからば與へられむ。』といふ方が眞理である場合も決して少くないのである。私はかつて支那の學生に聞いた事がある。日本人は支那人に對して口を開けば同種同文だとか脣齒輔車だとかいつて日支親善の押賣をする。押賣をすればする程我々はいやになつて逃げ廻はる。我々支那人に取つては日本人が優越感を以て押賣する『日支親善』といふ言葉程、嘔吐を催すいやな言葉はないといつてゐた。成程魚を釣る時にも突然餌を魚の眼の前に突きつけて行くと魚は驚いて逃げる。これを追つかけて行くと益々逃げて仕舞ふのである。日支親善もまたこれを押賣しては支那人が逃げて仕舞ふのは無理はない。私はかつてロサンゼルスへ行くオリムピック選手にいつたことがある、『諸君は決して日米親善を求めるな。たゞ男子らしく、紳士らしく競技せよ。しからば日米親善は自然にその結果として生れるであらう。』私のこの言葉は即ち『求むるな、しからば與へられむ。』といふ私の考へをいつて見たのであつた。

◇

私は時々曾我廼家の喜劇を見る事がある。俳優が大口あいて笑つて居る時は見物人は少しもをかしくない。俳優が眞面目臭れば眞面目臭る程見物人がをかしいのである。これもまた『求むるな、しからば與へられむ。』といふ一例であるかと思ふ。六代目菊五郎丈の話しの中に、『聞かせちやいけない、聞かれろ。』といふのが臺詞の秘訣で、『見せちやいけない、見られろ。』といふのが芝居の極意であるといつて居るが、これは決して芝居ばかりの話でない。世上の事は皆さうであると私はつくづく感心したのである。だから物事は求むればかへつて與へられないで、求めなければかへつて與へらるゝ場合がある。太公望を見よ。諸葛孔明を見よ。この二人は芝居の極意を心得て居たのであらう。あせらずに無理をせずに辛抱して、そして新らしい餌を取かへて居れば、釣れる魚ならば必ず釣れるものである。

知識と經驗

讀書は知識を得る事が出來るし、しかし經驗は知識と共に智能を授くるものである。人は飲食に由つて滋養を得るものではない。消化によつて滋養を得るものである。それ故澤山食へば肥えるものではなく、却つて消化不良を起し下痢を起して病氣の原因となるものである。讀書もまたあまり澤山に濫讀すれば、つひには知識ともならずして却つて神經衰弱となるに過ぎない。嘗てセント・レオナルヅ卿が自分の勉强について話した言葉に、『自分は第一に熟達せねば決して第二に移らない。自分の競爭者の多くは自分が一週間を費す書物を一日に讀んで仕舞ふ。しかも十二ヶ月の後に彼等の知識が記憶より逃れ去りしに反して、自分の知識は依然新鮮であつてこれを得た時と少しも變りがない。』といつて居るが、これはただ書物を呑み込むのでは無く、よく咀嚼しよく消化する心得を說いたのである。

◇

私などは書物を讀むことはすこぶる遲い。新聞でも雜誌でも面白いと思つた記事はこれを備忘錄に書き取つておく。たゞ單に切り拔きをしたゝけでは兎角自分の頭の中に殘らない。これを自分が書き取つて初めて確と自分の腦中に記された心地がする。それでも澤山たまつて來ると忘れ勝ちになる。それ故私は時々にこの備忘錄を讀み返して見る。私が講演や文章を書く時に引用する金言や實例は皆この中から出て來るのである。私はこの備忘錄を名づけて『桑の葉』といつてゐる。これは蠶が桑の葉を食料とするが如くに私の知識の倉庫であるといふ意義である。なほ少し露骨にいへば貯へてある材料は桑の葉であるけれども、これを食つて私の口から出る時は元の桑ではなくして絹であるといふのである。隨分自惚の强い話であるが、しかし桑の葉には絹となるべき素質があるに相違ない。

◇

この備忘錄に記された事柄もよく消化して吐き出せば必ず絹を得べきものなりと信じてその工夫をする所に苦しみもあればまた面白味もあるのである。『消化しなければ絹にはならぬ。』だから書物に書いて

あるとを自分の知識とするにも中々の苦心が必要である。いはんやこれを自分の智能とせんとするには更に一段の工夫を積まねばならぬのである。『苦しまざる人は何を知るか。』ミルトンいはく『よく苦しみ得る者はよく行ひ得る者である。』こゝにおいてか經驗は尊いといふものである。人生は經驗の學校である。そして經驗のほとんどすべては苦痛である。教訓や研究や忠言はよく我々を教へ導いて呉れる。しかしながら經驗が自分を教へ導く如くに適切でない深刻でない。それ故如何なる教訓も如何なる研究も如何なる忠告も畢竟知識の範圍に屬する事が多い。これが自分の實際出遇つた經驗の上に加へらるゝに及んで、始めて自分の腦中に深刻に刻みつけられて信念となり智能となるのである。

◇

私がかつて地方の視學官の時代に小學教員の製作品展覽會をやつた事がある。その中には教員が教材用として木片や竹片で理器の機械を作つた者が多かつた。外觀は極めて粗末千萬なものであつたが、これを作つた教員がこれを用ひて生徒に教ふる時には如何にもこれを巧みに使つて、學校が高い金を出して購入した精巧な器械にもまさる位に役立つのである。自分はこれを見て實驗や經驗は實に尊いものであるといふ事を深く感じて今に忘れられない。私はまた近頃カーネギーの逸話を讀んだ。『カーネギーが十四歳の時にピッツバーグ市の電信會社の配達夫となつた。彼は入社と共にあらゆる町々をめぐつて町名や番地や大會社の所在を記憶した。彼は幼時から我仕事をみづから支配する強い信念を持つた。電信配達夫として上乘なる者は鋼鐵王としてもまた上乘なるものであつた。』この話は何も格別感心する程のものでもない。

◇

しかし私としてはすこぶる感慨深いものがある。私が大正天皇樣の御大典の時に京都府警察部長となつた際京都の町名を記憶するのに色々と苦心をした、私の前任者の藤崎君が私に次のやうな歌を教へて呉れた。それは『丸竹、夷二、押御池、姉三、六角、蛸錦、四綾、佛高、松萬五』といふのである。私は夢中になつてこれを暗誦した。これは京都の町の横通りの名をその順序に書いたものであつて、丸太町、竹屋町、夷川、二條、押小路、御池、姉小路、三條、六角、蛸藥師、錦小路、四條、綾小路、佛光寺、高倉、松原、萬壽寺、五條となるのである、これを暗記して私は警察署長の報告や巡査の配置等

について手に取る如くに正確な知識を得たのである。私は今日に至つてもなほこれを記憶して居るのは如何に私が當時苦い經驗をしたかを思ひ浮べるのである。何事でも自ら苦しんだ經驗は中々に忘れられない。その苦しい經驗程自分を適切に教へ導いて呉れるものはない。それが失敗であればある程深刻な智能と化して我胸中に宿るのである。だから不幸の經驗なき者は不幸である。禍の經驗なき者は禍である。成功に達する道は苦しき經驗によつてのみ導かるゝものである。各人は皆異つた經驗を持つて居る。その經驗に鑒み、その失敗に反省する事が自分を成功に導く最も親切なる案内者であると思ふ。

天才か努力か

私は少年時代に何時も思つた、天才ある人は羨ましい、格別勉強もしないで善く出來る、そして少し勉強すれば驚く程進歩する。それ故私は天才に對して強き反感を抱いた。ある時格言辭典を繙げて天才の惡口をした文句を捜して見た。すると中々に面白いのが見付かつた。モーローいはく、『天才は一種の神經病なり。』これは實に痛快だ。すこぶる我意を得てゐる。バルザックいはく、『天才は一種の間歇病なり。』これもまた天才を病的と見てゐる。カプテン・メドウインの言に、『バイロンやシエレーの詩は一時的發狂の結果である。』といふ。天才もこれほどまでに罵倒されては却つて氣の毒に感ぜぬでもない。しかし、私はエヂソンの言を最も公平だと思つて居る。エヂソンいはく、『天才とは九十九パーセントの汗と一パーセントの靈感である。』成る程これが眞理であらう。我々は動もすれば天才は勉強せずともよく

出來るものとばかり思つて居たが、矢張り天才といへども九十九パーセントまでは努力の賜であるといふがほんたうの事である。

□

これについて思ひ出した事は、將棋の名手木村義雄君は二十二歳で八段に昇格した程の天才である。それでも人が君を將棋の天才だと賞讃すると、君はすこぶるこれを喜ばない。かつて撫然として歎息していつた、『私は幼少の時に家庭が貧困であつたために、勉學の傍ら將棋を指しては新聞社から報酬をもらつて家計を助けた。そのために勝負には是非共勝たねばならぬ。それで日夜苦心研究して、勝つては研究し、負けては研究し、血を吐く努力をして今日に至つたのである。しかるに世間では、往々私が天才があつて何の苦もなく今日までになつたやうにいはるゝのは、まことに殘念でもあり、腹立たしくもある。』私は木村君のこの言を聞いて深く感心した。『君の如き天才兒にしてなほ且この言を爲すか。』成る程玉磨かざれば光なし。たとひ天才の素質ある者とても、努力しなければその素質を現す事が出來ない。天才といへどもその靈能と見るべきはたゞ一パーセントである、そして、その殘りの九十九パーセントまではすべて血と汗とである。いはんや天才にあらざる者が事を成さんとして努力を怠つては、何事も出來ないのは當然であるといはねばならぬ。

私が近頃『九十五點主義』といふ隨筆集を出版した。その序文に、『卓上の挨拶も一夕の放送も自分にとつては一の創作である。外部から見れば極めて無造作にしやべつて居るやうでも、自分としては中々に苦心するのである。それを何の苦心もないやうに無造作に話して居るやうに見せる事が、更に一段の洗練と苦心とが必要なのである。』と書いた。これに對して友人岩永裕吉君の贈本の禮狀に面白い事が書いてあつた。それは米國の某士がある晩餐會の席上で卓上演說を請はれたが再三これを辭退した。それでも再四の懇請でやつと起立して試みた短い演說が非常の喝采を博した。列席の某士がこの名士の令孃が隣席に居たので、かゝる即席の名演說は生れて初めて聞いたと激賞したところ、この正直な令孃が無造作に "O, no! He has been working hard for its preparation for two days." 『いゝえ、即席ではありませぬ。お父さんはこの演說の準備に二日間も苦心に苦心を致しました。』と答へたさうである。岩永君はこの話を書いた上に、若しこの場合に主人が名士の再三の辭退によつてそのまゝにしたならば、こ

の名士の名演説は永久に闇から闇に葬り去られたであらう、私にもそんな場合が澤山にあるであらう、などと極めて穿つた事を訊いて來た。大きな石も地上に現れて居るのはその一小部分である。私なども宴會の席で萬一指名されてはと思つて頭の中で考へて見る場合もある。そして、それが闇から闇へと葬られる場合もなきにしもあらずである。しかし、さういふ時に私は決して折角考へて居た事をしやべらないで殘念な事をしたとは考へない。却つて大いに助かつたと安堵する氣持で一杯である。徒然草に、『善く辨へたる道には必ず口重く、問はぬ限りは言はぬこそ、いみじけれ。』といふのがある。全くこの言の如くであつて、決してみづから進んで得意氣にしやべる氣持にはなれないのである。隨つてこの名士の如きも、若し再四の懇請がなくてはこの名演説が闇から闇へ葬られたとしても、決して悔ゆる氣持はなかつたであらうと思ふ。

□

『たゞ見れば何の苦もなき水鳥の足にひまなき我思ひかな』表面から見て何の苦心もないやうに見えても心中には常に苦心が閃めいてゐるのである。ある人がホレース・ベルネに席上の揮毫を請うた。ベルネが直ちにこれを描いて一千フランを請求した。客、『足下がこれを描くに僅かに五分間ではなかつたか。』ベルネ昂然として、『その通りだ。しかし、余は五分間にこれを描く方法を研究するには三十年間を要して居る。』と答へた。この話しもまた味はふべき意味を含んで居る。私はこれまで德富蘇峰翁や永井柳太郎君の演説に感心した事が度々ある。そしてその度毎に、これ等の名士の名演説は如何にその裏面にこれが構想に苦心されたかを思はざるを得なかつた。五分間の揮毫にも三十年の研究がある。まことに天才の九十九パーセントは血であり汗であるに相違ないのである。

藝術的良心

この頃帝劇で見た活動寫眞の中に、『未完成交響樂』といふのがあつた。シューベルトが自分の作つた樂譜を得意になつて彈いて行つて、今や感興の最高潮に達した瞬間に、列座の一人であつた公爵の令孃が不圖した他の私語から聲をあげて笑つた。シューベルトは自分の音樂を笑つたものと早合點して、感興も緊張も一時に褪めて仕舞つて、憤然として彈奏を中止し、席を蹴つて立ち去つた。これがために彼は、自己の出世と多額の報酬を棒に振つたといふ一幕があつた。

○

藝術家としての氣分がよく現れて居て面白いと思つた。およそ藝術を生命とし藝術に生きんと思ふ程の者が、その藝術を侮辱されたと思へば、慾も得も名譽も戀も忘れて憤慨するのは美しい憤慨である。

また若しその藝術の價値を認めてくれる者に對しては、何物をさしおいてもこれに感激し感謝して仕舞ふのである。こゝに藝術家の一本調子な純眞さがあるのである。かつてチャップリン君が日本へ遊びに來た。彼は日本では東郷元帥と總理大臣と東京市長とに會ひたいといつた。それで私は市役所で彼を見して、その晩星ヶ岡の茶寮の田舍部屋で日本食を御馳走した。私はその頃あまりチャップリンの活動を見て居なかつたために、御馳走の前に活動寫眞館へ行つて彼の舊作を見た。そして茶寮で會つた時その話をした。すると彼は苦笑をして、兩手で頭を抱へて如何にも恥かしさうな大袈裟な表情をした。彼のいふには、あんなものは早く燒いて棄てたいと思つて居る。あれを見られては全く恥かしくて穴にも入りたい心地であるといふ。私は彼の純眞さが大いに氣に入つた。そして私の懺悔話をした。私が下手な俳句を作つて、その後幾年を經た後、俳句を知らない人からあの句は面白いなどゝ激賞されては、全く穴に入りたい氣持になる事がある。だから君の氣分は全くよく理解出來るといつた。彼はすこぶる滿足したらしくあつた。そして彼の最も得意な作は何かと問へるに對し、彼は、『唯最後の一つ』だと答へた。それは彼は一作毎に苦心し一作毎に進歩せんと心がけ

て居るのである。それ故に彼の自己滿足するに足るの作はたゞ最後の一つであるといふのである。私は彼のこの一言は如何にも藝術家らしいと思つた。ミケル・アンジエロは好んで一老人の像を刻んだ。彼はその持てる砂時計の上に、『余はなほ學びつゝあり。』と書するを常とした。チヤツプリンが『最後の唯一つ』といつた心がけと對照して非常に面白い教訓であると思つた。

○

私の鄕里淡路には珉平燒といふのがある。その元祖賀集珉平翁は、自分の燒いた陶器の中で自分の氣に入らぬ物は、總てこれを打ち壞して土中に埋めたと傳へられて居る。有名なる陶工ジョシア・ウエッドウッド氏もまた自分の劣作と思ふ物をことゞく破壞して仕舞つて、『これはジョシア・ウエッドウッドにとつては何の用もなきものなり。』といつたと傳へられる。彼等は畢竟名を惜しむのである。自分がこんな物を作つたといはれては末代までの恥辱であると感ずるからである。ギッボンは『メモワール』の稿を改むること七回、しかもなほこれに滿足せずして未稿定として世に公けにした。尾崎紅葉山人も度々原稿を書き直して活版屋を泣かしたのは有名な話である。

○

藝術家の最も懼るゝ所は自己の良心である。他人が滿足しても自己が滿足しないでは堪ゆべからざる苦痛である。某畫家が自分の下手な時代に描いた畫を珍藏して居る人を見て、これを取戻してその代りに得意の大作を與へて舊作を引き裂いたといふ話がある。かうなると金錢の問題ではない。良心の苛責と苦痛とに堪へられないのである。藝術家は多くは金錢に恬淡である。ミケル・アンジエロは、ローマ法王からセント・ピーター寺の工事を引受けた時にも、一錢の報酬を約束しなかつたといはれて居る。およそ藝術に生きんとせば世俗に迎合する事が出來ない。從つて金錢に緣遠い結果となる。古來藝術家は貧窮であるのが普通となつて居る。その貧窮の中に生れたものにかへつて氣韻に富む作品がある。あたかも瘠土の山芋が粘りが强いとか、淸水に洗はれたワサビが辛いとかいふやうなものである。私は自分ながら不思議に思ふ事は、自分は少しばかり俳句がわかる。さうすると、自分が見て月並の下劣なものだと思ふ句は、何としてもこれを御挨拶の御世辭としても褒めることが出來ない。詩や歌であると、感心しないでも感心した風を裝うてこれを褒める事は左程苦痛ではない。しかるに俳句の事になると、

何としても他人と妥協する事が出來ない。他の事には隨分妥協性を發揮する私が、獨り俳句に限つて、それ程窮屈に頑張らずともよからうと思つても、何としてもそれが出來ないのである。だから即席に一句やれといはれる程苦しい思ひをする事はない。私の程度でもこれ程の意地がある。いはんやその道に達すれば達する程、藝術的良心が強くて、威武も屈する能はざる凛乎たる意地のあるのは無理もない事であると深く共鳴せしめらるゝのである。

都會生活か田園生活か

都會生活が面白いか、田園生活が面白いか。昔の人はその好き好きによつて甚だしく田園を禮讃しあるひは甚だしく都會を禮讃して居る。私等は淡路島の田舍に生れて今や東京に住居して居る。隨つて田舍の氣樂さをもよく味はつて居るし、都會のうるさゝもよく知つて居る。それで居て單純に田舍生活が面白い、都會生活はつまらぬといつてのける事が出來ない。人間といふものは何處までも得手勝手なもので、自分の都合から割り出して時には田舍がいゝといひ、時には都會がいゝといふのである。

……◇……

私は學生時代に教科書として兼好法師の徒然草を讀まされた事がある。その中には『罪なくして配所の月が見たい。』とか、『有るか無きかに門さしこめて待つ事も無く明し暮らしたる』を望ましく羨ましき

やうにいつたり、『山寺にかき籠りて佛に仕ふまつるこそ徒然もなく心の濁りも清まる心地すれ。』などいつて、隱遁生活を喜ぶやうな事が書いてあつたのを記憶してゐる。近頃再び徒然草を取出して讀み直して見ると、昔の若い時と餘程變つた心地がする。全體兼好といふ人は悟つて居るのか悟つて居ないのか、隱遁を禮讃しては居るが、さりとて田園生活を喜んで如何にもとうなづかせる程の田園美を謳つた文章も見當らない。かへつて都の事が慕はしくなつかしく、殿上人の貴族生活の事などが如何にもゆかしいやうにいつて居る。兼好法師は要するに正直者である。半ば悟つて半ば悟つて居ない。戀を讃美するかと思へば女を痛罵し子供をいとつて居る。こんな矛盾したやうな事を平氣で心の向くまゝに書き立てゝあるのが徒然草だ。默つて居て死んで行けばよいものを、『思ふこといはぬは腹ふくるゝ業だ。』などいつて居るのが可愛い。隱遁を好む者に文字は不必要の筈である。『妻といふ者こそ男の持つまじきものなれ。』といつて、『子など出て來て册づき愛したる心憂し。』など思ひ切つた事をいつて居る。『時々通ひすまぬこそ。』など隨分氣儘な放浪生活の事まで書いてある……

イヤ少し脫線し過ぎた。私は今こゝに徒然草の批評をするのではなかつた。しかし兼好法師のやうな矛盾した氣儘をいふ所に人間味がある。人間は時として塵の都の五月蠅さを厭つて田園を好む事もある。そして田園に行つては見るが、また少し淋しくなつて都會に出て來るといふのが有のまゝの人情である。人間は矢張り人間から生れて來た生物である。生れてから死ぬまで極端な隱遁生活が出來る筈のものではない。昔時支那に許由といふ賢者があつた。堯帝がその賢なるを聞いて天下を讓らむとした。許由は飛んでもない事を聞いて耳がけがれたといつて潁川で耳を洗つた。そして箕山の奥に隱れた。何の道具も持たないので、手を以て水を汲んでゐたのを見て、里人が瓢を一つ與へた。許由はそれを使つてから、ある時木の枝にかけてあつたが、風が吹いて來てから〳〵と鳴るのを見て、これもうるさいといつて取つて捨てたといふ。また伯夷叔齊は周の粟を食ふ事を忌んで、首陽山に登つてワラビをとつて食つて居た。里人はそのワラビもまた周のワラビだといつたので、つひに飢ゑて死んだといふ。

こんな人ばかりでは人間は遠の昔に死に絕えて居たに相違ない、日本でも德川の初期に石川丈山が隱栖して京都の東北比叡の下の一乘寺村に詩仙堂といふ山莊を作つて栖んで居た。そして禁中よりのお召をも拜辭して一首の和歌を奉つた。

渡らじな蟬の小川の淺くとも老の波そふ　影ぞはづかし

加茂川を渡つて自分の醜い姿が水にうつるのがいやだといふ。

私の俳句に、

加茂川のさゝ濁りして　丈山忌

大文字もまともには見ず詩仙堂

といふのがある。丈山も氣儘者ではあるが、餘生を靜かに送るといふ境遇であつて見れば、大いに恕すべきであると思ふ。

……◇……

西洋では田園生活を禮讃して都會生活をのろふ聲が多い。ハーデーいはく、『神樣が顯然として田舍に出現されたので惡魔は人間と共に都會に移住した。』これは隨分猛烈である。また、『大都會は家庭の觀念を根本的に破壞して、その廢きよに慾望の家を築く。』とか、あるひは、『都市は一個の罪惡組合なり。』といつた人がある。カーライルは、『ロンドン兒は人間の屑なり。』と罵つた。かやうな人から見ると、田舍は樂園である。田舍の青年は自然を解し、またよく人生を解すといふ。田舍の青年は成熟が遲いけれども、一旦成熟すれば一般に優秀であるといふ。そして古來、大都會出身の偉人は政治界にも學術界にも美術界にも極めてまれ……なりといふ。

……◇……

一方には西洋にも都會生活を讃美して居る人もある。ドクトル、ジョンソンはロンドンを愛し都會生活を好んだ。『人若しロンドンに厭く時は生活に厭いた時である。ロンドンには生活に必要な一切のものがある。』といつた。チャールズ・ラムは、『我れ若しフリート街を見るの光榮を有せざれば焦れ死なん。願はくはこの愉快なる市街より人を誘惑せんとする隱遁詩人の言を信ずる勿れ。』といつた。

私をして卒直にいはしむれば、私は田園生活も面白いと思ふ。そして都會生活もまた面白いと思ふ。有體にいへば私は都會生活をすれば折々田園に遊びたいと思ふ。田園生活をすれば折々都會に遊びたいと思ふ。私などがよく聞く事であるが、田舍の人が東京に出て來て銀座の踏切りで道一つ横に越すにも危險至極であるのを見て、こんな氣苦勞の多い處は眞ッ平御免といつて早々に田舍へ歸る人がある。ま

た、東京の人で田舍の溫泉に湯治に行つて十日の豫定を一週間に切り上げて、こんな淋しい所は到底我慢が出來ぬと逃げて歸る人がある。かやうに自然に田舍生活を好むやうに生れついて居る人と、自然に都會生活を好むやうに生れついて居る人とある。その人々の性質や好尙や境遇や健康や色々の事で支配されるから、一概にはいへないのである。

○

大體からいへば、田園生活は空氣がよくて健康によい。そして山や川や畠などの自然に親しむから心が清らかになる。物の刺戟が少いから氣が落付いてのどかである。何といつても聖人でない限り普通の人ではその日その日の眼前の境遇に影響されるから、田園に生活すれば自然に、田園の感化を受けるのである。スコットがいつた、『余は一年一回雜木林を見る事能はずばむしろ死するに若かず。』私にはこの心持がよくわかる。私がよく魚釣りに出かけるのは、魚を釣ることに趣味を感ずるのは勿論ではあるが、一週一度位は天然に親しみたいのである。露骨にいへば人間の臭に遠ざかつて見たいのである。だから私は一年に一回雜木林を見ただけでは滿足が出來ない。カーライルは、『ロンドンに住居するよりは時々ロンドンを訪問したい。』といつて居るが、私は自分の境遇からして、『東京に住居して時々東京を離れて見たい。』と思つて居る。私のやうに人の好きなものは何でも好きに生れて來て居る者は、芝居でも角力でもスポーツでも、擊劍、柔道、講釋、浪花節、淨瑠璃、俳句、和歌、舞踊、圍碁、將棋、撞球、活動、音樂（西洋音樂はちよつと苦手だが）、何を見ても面白い、何をやつても興味を感ずる。從つて都會生活にも充分の慰安を感ずる。徒然草の文句にある『晦日の夜いたう暗きに、松ともして、夜半過ぐるまで、人の門たゝき走りありきて、何事にかあらむ、ことゞくしくのゝしりて、足を空にまどうが、曉方より流石に音なくなりぬるこそ、年の名殘も心細けれ。』など歲晩の光景は今も昔に變らぬものがあるとしても、私はこれを惡魔の集合とは觀じない。かへつてこの人世のせち辛い所にも、物のあはれや人の情が現れて面白いと見たいのである。こゝにもまた俳味があると觀じたいのである。

我々は到底悟り切つて仕舞ふことは出來ない。さりとて丸つきり迷つて居てもつまらなくなる。だから一週に一度は人間放れがしたいのである。一日の中でも午前のある時間は讀書したいのである。早朝から突然紹介狀を持つて來て履歷書を突きつけられてはたまらない。全く私は朝の讀書時間を妨げられ

る時だけは都會生活がいやになる。世間では誰でも一般に田舍は氣樂である、都會は面倒臭いといふ。それも一應はもつともな言分であるが、實をいへばすこぶる皮相な觀察である。私をしていはしむれば田舍生活は深刻だ、そして都會生活は淺薄だ、と思はれる。カーライルは、『ロンドン生活は永久なる宿屋住居であつて家庭といふ感情が湧かない。』といつたが、成る程そんな氣分もあるが、實際靜かに考へると、都會生活程氣樂なものはない。都會生活程淺薄なものはない。近所隣家にどんな人が住んで居るかも充分には知らない。況んや近所隣家の家庭上の出來事などはほとんど何も知らずに暮らすのであつて、引越ソバをもらふ以外に交渉の無い場合が多い。私のやうに同じ場所に永く住居して町會長などをやつてゐると、いろ〳〵と近所の馴染も深くなるが、それでも田舍生活にくらべて實に氣樂なものである。永久の宿屋住居といふ感じは、成る程あるに相違ないが、家庭の感情まで打壞さるゝものとは思はない。これに反して田舍に住居して見ると、その生活がすこぶる深刻である。家庭に何か出來事があつても、村の者は皆知つて居る。日々の出入や衣服や買物の事まで村の者が見て居る。何か事件があつて競爭でもすれば、何日までも怨恨を買はざるを得ない。實に田舍は深刻である。田園生活などいふ文字は、都會から流れて來た村に沒交渉な文士の輩の皮相の見方に過ぎないと思ふ。

○

私の書齋に藤森弘庵の軸がかゝつて居る。その文句は、『室を築く市井に在り、閑臥すれば雲林に似たり、心靜かなれば境自ら靜かなり、世塵の侵すを受けず、多事巢許の輩、唯求めて山の深きに入る。』私はこの軸を愛して居る。市井に住居しても心靜かなれば境自ら靜かである。山の中に入つても、心が靜かでなければ、飄が風に鳴る音までが喧すしくなる。田園生活よりも都會生活の方が氣樂であるといふ事が眞實である。しかし人間は時々天然に親しんで自然に觸れる事が大切である。だから私は矢張り東京に住みたい。そして朝は讀書の時間がほしい。そして一週に一度位は海か山かを見に行きたい。

新穀感謝祭

我國の歴史を見ると、祭祀と政治とが一致合體してゐた。それで政治の事を『まつりごと』といふ。しかるに後世になつて祭祀と政治とが區別され、殊に現今では暦に出てゐる祭日といふものは一般の休日となつてゐるが、世間ではこれを單純に宮廷にて行はせらるゝ御儀式と考へて、これが我々國民生活に如何なる關係あるものであるかを理解しないでゐる。なかんづく新嘗祭の如き我々國民生活に極めて密接なる關係ある祭事につきても、たゞ普通の休日の如くに心得て、うか〳〵と暮らして過ぐる事は、實に恐れ多い事である。

新嘗祭は申すまでもなく、聖上陛下親しく毎年の登熟の新穀を大内山の神嘉殿にて、皇祖並びに天神地祇に御供へをせられ、その後に御親ら聞食さるゝ御祭である。今日では御即位の時の御祭を大嘗ひ毎年の御祭を新嘗と申して居る。大嘗祭の時は、あらかじめ悠紀田と主基田を占ひ定められて、その田より出來た新穀を以て白酒黒酒を釀され、御飯御粥を造らるゝのである。また毎年の新嘗祭には、明治廿五年以來全國各府縣から各々精米一升精粟五合、粟を作らぬ地方は精米のみを獻上申上げて、これを御用ひになるのである。これ全く御祖先を尊ばれ、また農事生業を重んぜらるゝ大御心より出でたものである。殊に我々が恐懼に堪へない事は、この御祭事は夜間に行はせらるゝ事であつて、畏くも陛下御親ら十一月廿三日午後六時齋戒沐浴遊ばされて綾綺殿に出御、純白の生絹の御服を召される。この御召物は陛下が神に最も近き御時の御裝束であつて、新嘗祭大嘗祭に限つて用ひさせらるゝものである。かくて六時より八時までに『夕の御儀』を終らせられ、更に午後十一時より翌朝の一時にわたつて『曉の御儀』を行はせらるゝものである。かく陛下御親ら夜を徹して行はせらるゝ御祭を、我々一般國民は全くうか〳〵として、よく承知せぬ人が多く、早くから安々と寢床に眠つてしまふといふことは如何にも相濟まぬ次第と申さなくてはならぬ。

またこの御祭の起源と申すのは、その昔皇祖天照大神が保食神から年穀を得給うて、『萬民の食ひて

活くべきものなり。』と仰せられ、これを天の狹田、長田に植ゑさせられ、その水田種子、陸田種子を萬民に頒ち耕殖の道を敎へられ、毎年秋の瑞穗を新嘗聞食されたのである。そして天孫降臨の時、御親らこれを天兒屋根命、天太玉命に授け給ひ、『吾が高天原にきこしめす齋庭の穗をもてまた吾が兒にまかせまつれ。』と仰せられた。この種子が我が豐葦原の瑞穗の國の風土に善く適して我々が唯一の常食となつてゐるのである。かゝる尊き傳說を顧みる時、この新嘗祭は、第一に　陛下が皇祖を崇敬せられ、萬民生活の資を賜はりたる天祖に御禮を申上げる御祭である。第二に民を愛し農を尙び萬民生業の基を培ふべき事を心とせられたる御祭である。かくの如く、新嘗祭は全く我々萬民のために　陛下御親ら夜を徹して行はせらるゝ御祭である。して見れば、我々國民はこの御祭典に對し、今日までの如くに無關心の態度で居る事は如何にしても相濟まぬ事である。

この度民間の有志が發起して新穀感謝祭を提唱し、この新嘗祭の日を期して全國各地に新穀感謝の國民的祭典を擧行する事になつたのは、まことに意義深き企てゞある。平たくいへば、國民的の『秋祭』を新嘗祭の日に行ふといふ事である。紀元節の日に國民的の『建國祭』を行ふが如くに、新嘗祭の日に國民的の『秋祭』を行ふといふのである。

今や日本の國運は隆々として、國防上からも貿易上からも旭日昇天の勢ひがある。我々は外敵に對してあまり恐ろしいと思ふものはない。たゞ內に對しては多くの恐るべきものを持つて居る。第一は團結力の弛緩である。日本の强味は皇室を中心として團結して居る事である。しかるに最近ロシアの共產黨大會の決議にも、世界中で最も赤化の有望國を日本とドイツとポーランドとして居る。米國の雜誌などにも、日本國內は遠からず軍部と自由主義者の紛爭が起るとか、田舍と都會の爭ひが起るとか、色々と日本を呪つて居るのである。第二に恐るべきは勤勞精神の減退である。日本は神代の昔から農を尙んで、畔を毀したり溝を埋めたりする者を、『天つ罪』として勤勞を勵み來つた。勤勞努力は今日の日本經濟力の源泉である。然るに近時やゝもすれば奢侈放逸に流れんとするは最も警むべき事である。第三は報恩感謝の精神の喪はれんとする事である。祖先を尊び本に報じ恩に謝するの心は日本精神の基礎である。近時の物質文明はこの大切な報恩の精神を蝕んで、社會をたゞ鬪爭の渦中に投ぜんとしてゐるのである。實に日本の恐るべき敵は外にあらずして內にある。新穀感謝祭は　陛下がその昔我々萬民に、食ひて

活くべきものを賜はりたる皇祖の靈に感謝される御祭に際し、我々もまた力を併せ、心を一にして、偕に感謝の赤誠を捧げんとするに外ならない。平たくいへば、新嘗祭の日に賑やかな秋祭をして、知らず〳〵の間に團結の精神と勤勞の精神と報恩の精神とを談笑歡喜の裡に養成しようといふのである。

肅正運動所感

昨年の夏頃から私が同志の驥尾に附し、選擧肅正運動に關係し始めて、北は北海道より西は九州まで飛び廻つて見た。始めは半信半疑のやうな態度で居た人達も、時の經つに隨つてすこぶる眞劍となつて、官吏も政黨も一般人も、近頃は全く眞面目に一生懸命で居る事を目擊して實に痛快に堪へない。何事も時勢である。時が熟せないでは、どんなに骨を折つても効果が現れない。時が熟すれば、餘り苦心しないでも、どん〳〵と仕事が運んで行く。

回顧すれば今より十年前、故後藤伯爵が政治の倫理化運動を提唱して、私も同行して北海道から九州まで講演して廻つた。當時世人はこの政黨政治隆盛の世の中に政治の倫理化など唱へて見たところで、とても實現しない空想である、といつて一笑に附し去る樣子であつた。甚だしい人は私に向つて、「君が

この働き盛りに、そんな密鐵砲を打つて居ても仕方があるまい。早くいづれかの政黨に入黨した方が出世が早いよ。』といはれた。私は今日でもこれが口惜しいと思つて居る。然るに十年後の今日官民期せずして選擧肅正の必要に眼醒めて來た。十年前の政治の倫理化運動も十年後の選擧肅正運動も精神において畢竟同じ事であるのだ。

◇——◇

私が最近九州に廻つた時に、特に十年前の當時を回想した。當時後藤伯も私も共に盛夏の最中背中にじみ出る汗を流るゝまゝに各地を次から次へと廻つた。そして格別の反響も見ないで、たゞある一部からは嘲笑を以て迎へられたに過ぎなかつた。今や後藤伯は故人となつてしまつた。世人は最早當時の政治の倫理化などは早くから忘れてしまつて居る。私としては實に感慨無量である。隨つて今日私が東奔西走する間にも、私としてはいふにいはれぬ一種の快感がある。何となく十年後に漸く我々の勞苦が酬いられたやうに感じて、十年前に殘念だと思つた事が深刻であつたのに比例して、今日の心中の愉快もまた大なるものである。私は旅行から歸つて青山墓地にある後藤伯の墓に詣でゝ今日のこの肅正運動の盛況を告げた。そして知らず〳〵も不覺の涙を催した。私としては今日となつて何となく一層後藤さんはなつかしいのである。

後藤伯の考へて居た政治の倫理化といふことは、選擧肅正といふ事よりも、一層廣い意味を持つて居た。私なども今日では政治の倫理化の一方便として當面の問題として選擧肅正の事を考へる。そして選擧の行はれない時期には、矢張り政治の倫理化運動として政治教育に注意を集注すべきであると思つて居る。今日のこの肅正運動の精神が、常時に政治の上に働いてこゝに始めて政治の明朗化が期待出來るのである。私はまた最近の講演には、選擧肅正を肅正そのものとして局部的に考へないで、現時我國内外の非常時局に照らして、全國的に國家を救ふ手段として選擧肅正を考へることを述べてゐる。それは我々日本人から見れば、我日本は非常時局に際して、微動だもしないと考へてゐるけれども、これを外國から見れば、日本は餘程危險の狀態にあると見られてゐる。

◇——◇

いふまでもなく日本は今や世界中の憎まれ者である。歐洲人が世界平和の生命線だといつて居る國際